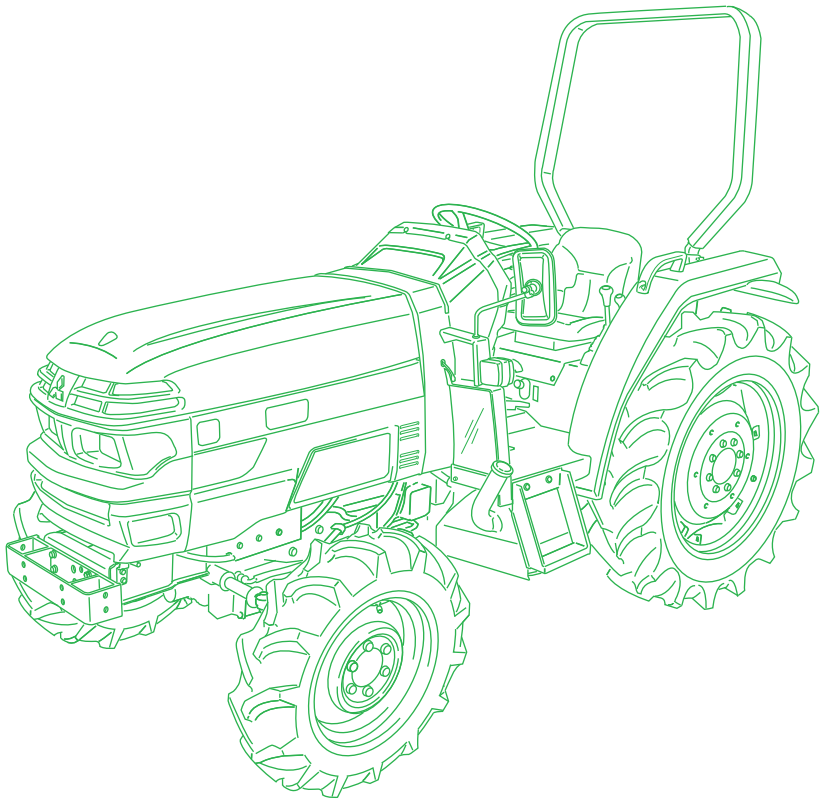
三菱トラクタ

取扱説明書

G5000Z



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

三菱農機株式会社

このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次の通り構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 6

機械の主な名称について説明し，各装置の取扱いを説明しています。

● **トラクタを動かすには？** **運転のしかた** 32

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動・発進・走行・停止のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた，坂道での運転のしかた等を説明しています。

● **ほ場作業を行うには？** **作業のしかた** 41

作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 48

機械をつねに正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。

● **機械を長期格納するときは？** **長期格納のしかた** 73

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 75

異常を感じたらすぐ原因を調べ処置してください。

● **主要諸元，主な消耗部品は？** **付　　表** 79

もくじ

安全作業のために ……（安全作業説明編）

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．運転免許…… 4
3．公道を走行するとき…… 5

各部のはたらき ……6

1．各部の名称…… 6
2．運転装置の取扱い…… 7
1．スイッチ，計器関係…… 7
2．レバー，ペダル，シート関係……11
3．安全フレームの取扱い……19
1．安全作業について……19
2．安全フレームのたおしかた・おこしかた……20
4．電装関係の取扱い……21
1．ヒューズの取扱い……21
2．作業機用電源の取扱い……23
5．油圧装置の取扱い……24
1．コントロールレバーの操作 ……24
2．作業機降下速度の調節……25
3．パワーステアリングの取扱い……26
4．フロントローダの取扱い……27
5．サブバルブの取扱い［オプション］……28
6．3点リンクの取扱い……30
1．トップリンク……30
2．作業機を取付けないときは……30
3．ドローバ［オプション］……31
4．PTOキャップ……31
5．ロータリの取付け……31

運転のしかた ……32

1．運転まえの点検……32
1．点検項目……32
2．運転操作のしかた……33
1．エンジンの始動……33
2．発進のしかた……35
3．走行のしかた……36
4．停止のしかた……37
5．自動車への積込み・積降ろし……39
6．坂道での運転のしかた……40

作業のしかた ……41

1．ほ場作業のしかた……41
1．ほ場への出入りのしかた……41
2．作業に適した速度の選びかた……42
3．デフロックの使いかた……43
4．ほ場での旋回のしかた……43
2．作業に必要な装置の使いかた……44
1．トレッドの調節のしかた……44
2．3点リンクの取付け寸法の設定のしかた…45
3．作業機の取扱い……47
4．バンパウェイト（オプション）……47

手入れのしかた ……48

1．定期点検整備表……48
2．給油・給脂・給水のしかた……52
1．給油・給脂・給水個所……52
2．給油・給脂・給水表……53
3．エンジンオイルの点検と交換……54
4．エンジンオイルフィルタの交換……55
5－1．燃料の補給……55
5－2．燃料タンクの掃除……56
6．燃料フィルタの交換と水抜き……56
7．エア抜き要領……57
8．冷却水の保守管理……58
9．ミッションオイルの点検と交換……59
10．油圧オイルフィルタの交換……60
11．フロントアクスルオイルの点検と交換……61
12．各部の給脂……61
3．各部の掃除のしかた……62
1．エアクリーナの掃除……62
2．ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除……62

4．各部の点検と調整のしかた……63
1．ファンベルトの点検・調整……63
2．クラッチペダルの点検・調整……63
3．トーインの点検・調整……64
4．ブレーキペダルの点検・調整……65
5．タイヤの点検……66
6．ハンドルの点検……66
7．ホース類の点検……67
8．電気配線の点検と掃除……67
9．バッテリの点検と充電……68

長期格納のしかた ……73
1．機械の掃除・洗浄・格納……73
2．格納中の手入れ……74
3．再使用にあたって……74

不調時の処置 ……75
1．エンジン部……75
1．始動しない，または始動困難……75
2．エンジン出力不足およびエンジン自然停止……76
2．走行・運転操作部……77
1．走らない，ブレーキがきかない……77
2．パワーステアリング……77
3．油圧部……78
1．油圧関係……78
4．電気・自動制御部……78
1．電気関係……78

付表 ……79
1．主要諸元……79
2．主な消耗部品……80
1．エンジン関係……80
2．エアクリーナ・油圧ライン関係……80
3．電装関係……81
3．アタッチメント一覧表……82
4．潤滑油について……83
1．エンジンオイルについて……83
2．ミッション，フロントアクスルオイルについて……83
5．トラクタ関連商品……84

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠作業前の点検，整備，掃除をするときは……（安-6）

⚠エンジンを始動するときは……（安-11）

⚠作業機の装着および作業をするときは……（安-13）

⚠走行運転をするときは……（安-17）

⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転するときは…（安-19）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-21）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-22）

⚠１日の作業が終わったら……（安-23）

⚠長期格納するときは……（安-24）

2．表示ラベルについて……（安-26）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

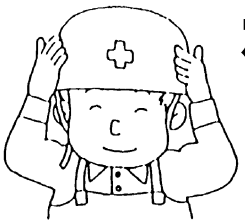
・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項で説明している安全説明は**トラクタ全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。 	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。 

⚠安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

始業・点検　準備点検

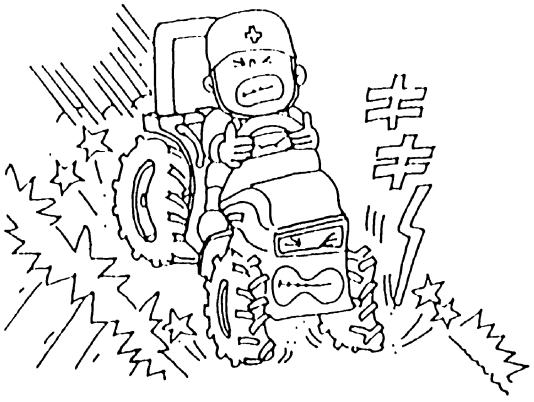
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，バッテリ，燃料タンクの周辺を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースの点検
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合と左右の遊び量の点検
- ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認
- 方向指示器などの保安部品の作動確認
- 作業機を上げて点検するときは作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に固定脚を置く
- トラクタを移動して作業機を着脱するときはトラクタと作業機の間に立たない
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，「お買い上げ先」に相談する

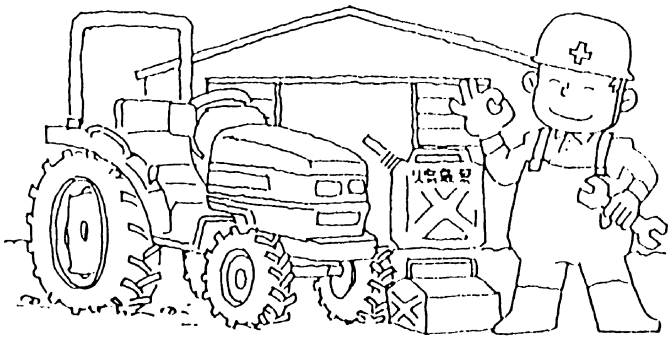
エンジン始動

- すべてのカバーを取付け，安全フレームをおこす
- トラクタや作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキをかけ，シートベルトをする
- 主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし，クラッチペダルを踏む
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

走行・運転

- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- トラクタや作業機に人や物を乗せない





- 発進時は周囲をたしかめる
- エンジンコントロールレバーを「低」にし，フートアクセルで走行する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない

道路（公道）走行

- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 公道走行するときは作業機を装着しない
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

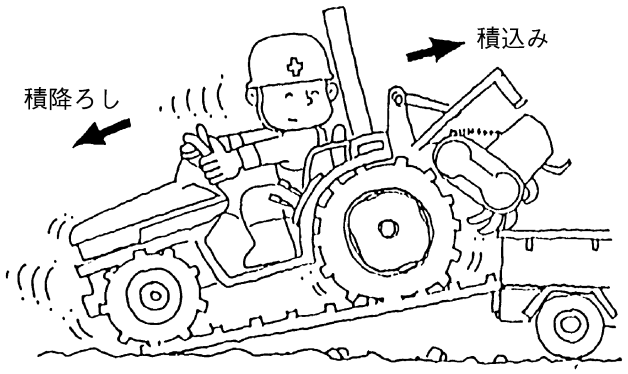
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
- 坂道では走行クラッチを切らない，変速レバーを「《N》（中立）」にしない

停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，主変速・副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし作業機を降ろしてからエンジンを停止する
- 坂道では駐車しない
  （やむをえず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れるときはキーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に対し真っ直ぐにかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械のまわりには人を近づけない
- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- 積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ，デフロックは使用しない



ほ場作業　ほ場の出入り

- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- 低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝越え，急傾斜はアユミを使用する
- 上がるときは後進，降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

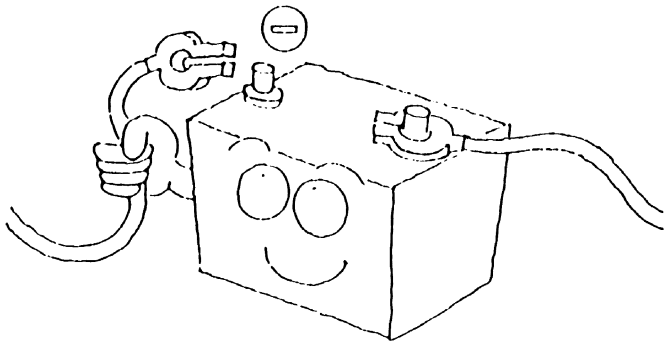


ほ場での作業

- 子供等，人をそばに近づけない。２人乗りはしない
- ウエイトがわりに人や物を乗せない
- 旋回時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上では引っ張らない（オプション）
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

作業中途の点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をするときは作業機降下速度調節グリップを「固定」にする
- エンジンまわりの点検はエンジンが冷えてから行う



終業・格納　１日の作業が終わったら

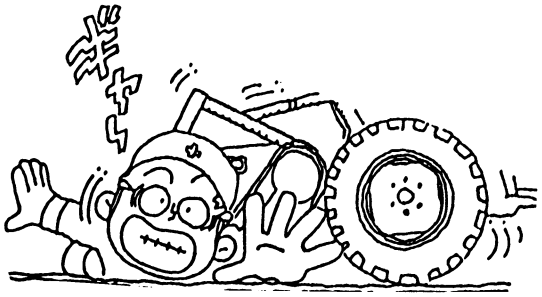
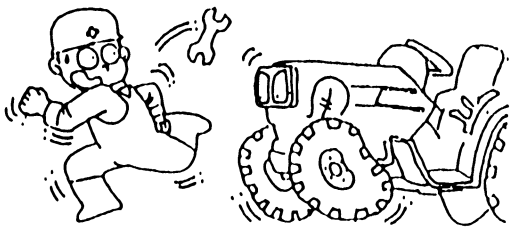
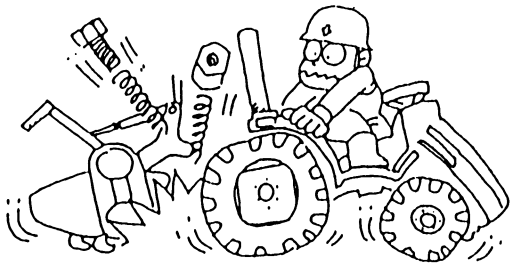
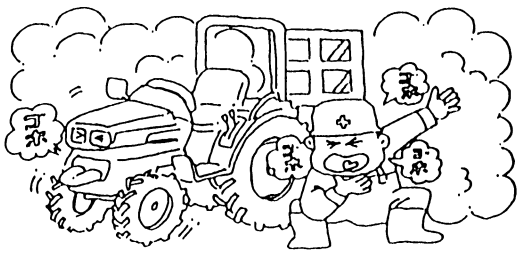
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止してキーを抜取る
- エンジン，バッテリ，燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ，ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換，輪距の変更はジャッキと固定脚を使用する
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

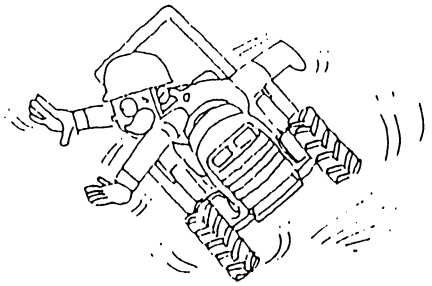
- 作業機は外すか，降ろしておく
- 燃料は満タンにし，燃料コックを閉めておく
- バッテリのアースコードを外すか，バッテリを取外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

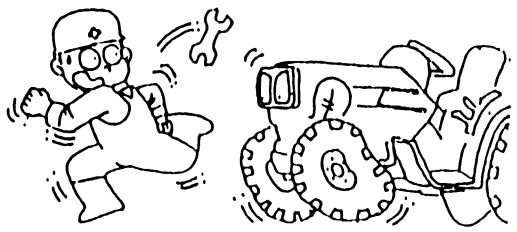
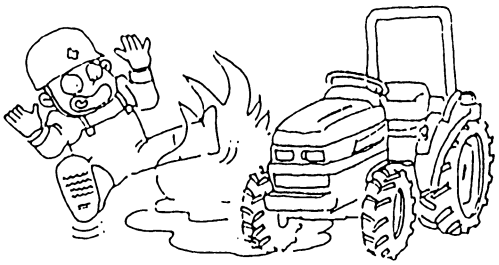
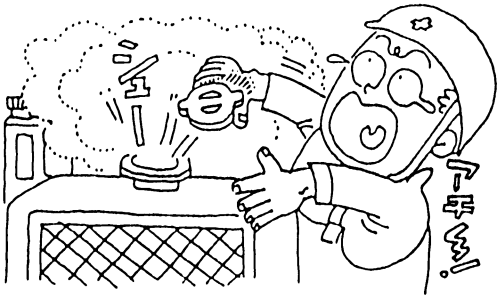
⚠警告 ◆機械はほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。 
⚠警告 ◆トラクタを使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 ◆１シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 

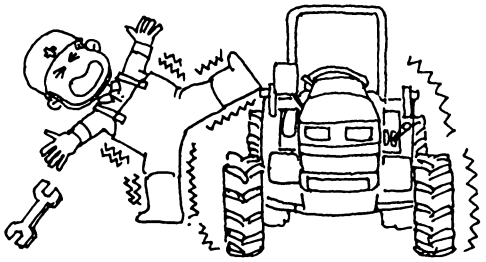
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

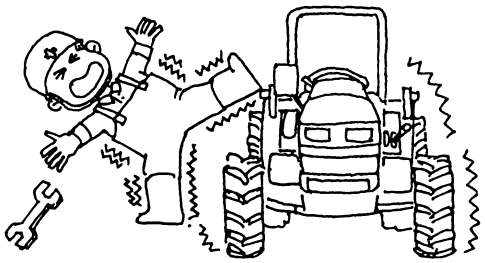
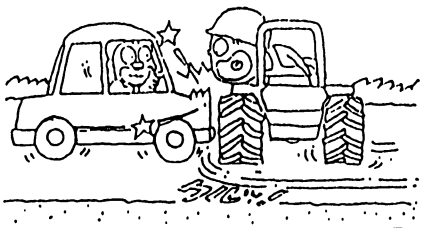
⚠警告 ◆トラクタでの傷害事故の大半は転落・転倒事故です。安全フレームを取外して運転しないでください。 ◆通常は安全フレームを「おこして」シートベルトを着用してください。 	転落や転倒したときは死亡または傷害事故になることがあります。 
⚠警告 ◆機械に人や物を乗せたり，人を近づけないでください。 ● トラクタや作業機の上に人や物を乗せない。 ● 子供等，人を近づけない。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆トラクタへの飛び乗り，飛び降りはしないでください。	転落や転倒して，傷害事故を引起こすことがあります。 

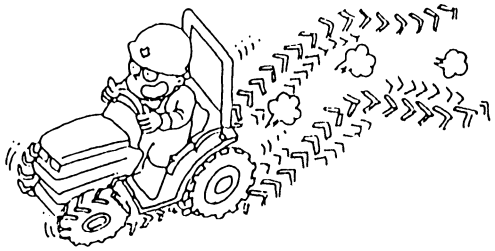
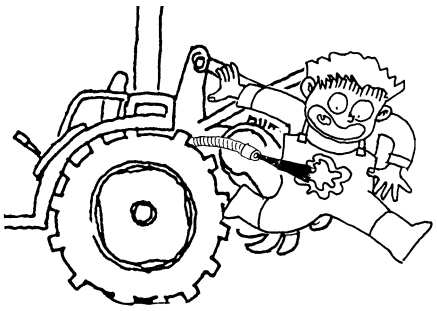
⚠作業前の点検・整備・掃除をするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

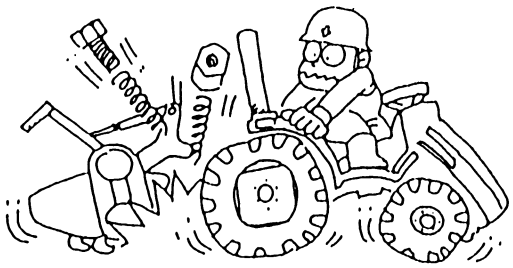
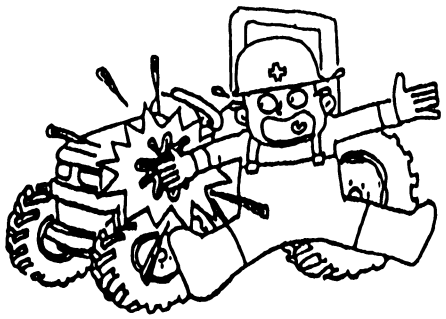
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止させタイヤに歯止めをしてから行なってください。 ●主変速，副変速，PTO変速レバーが「《N》（中立）」になっていることを確認する。	機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆給油，注油時はエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなどの火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。 ●もれている場合は交換する。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドをすることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子から，コードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ● バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ● ㊉㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。

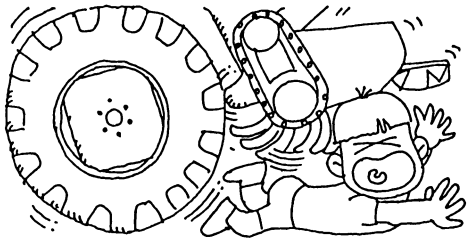
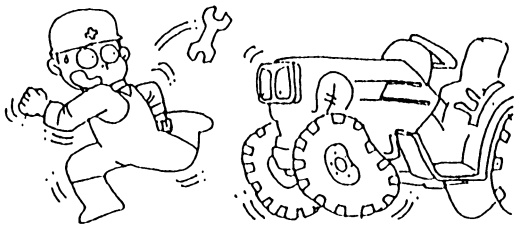
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●電気部品を取外す前にバッテリ㊀側のコードをバッテリ端子から外す。		ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 
⚠警告 ◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。 ●タイヤの空気は入れすぎない。 ◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。 ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）		タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。		火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。		交通事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ブレーキの点検調整をしてください。 ●左右のブレーキのきき具合は良いか，また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。 ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。 ◆前後輪（タイヤ）取付ボルトのゆるみがないか確認してください。	正常な走行運転ができず事故を引起こす原因となります。  正常な走行ができなくなり，事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆高圧噴油に触れないでください。 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸透した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ◆トラクタには，点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。 	整備不良で事故を引起こすおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，全て取付けてください。 ●カバーは正しく取付ける。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

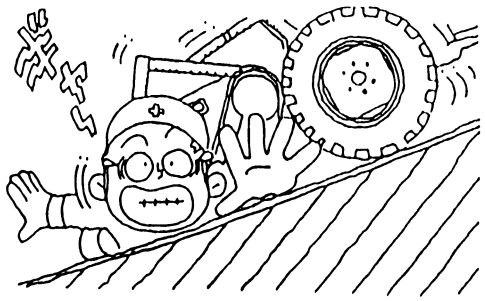
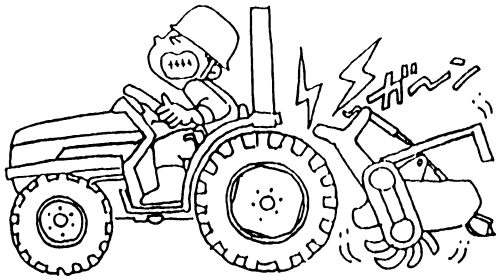
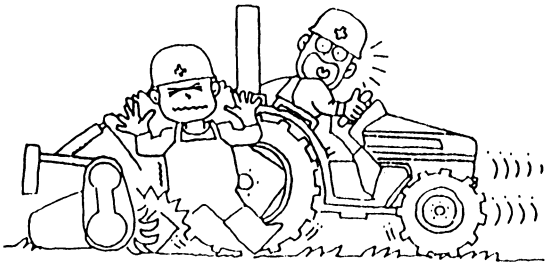
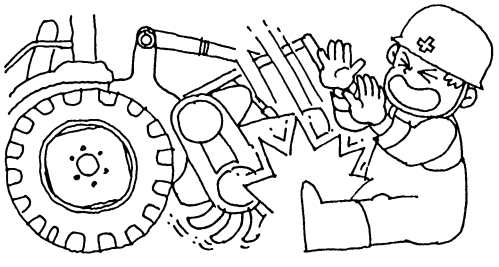
⚠エンジンを始動するときは……

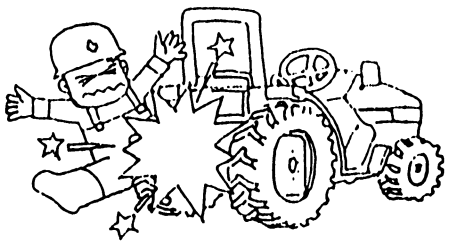
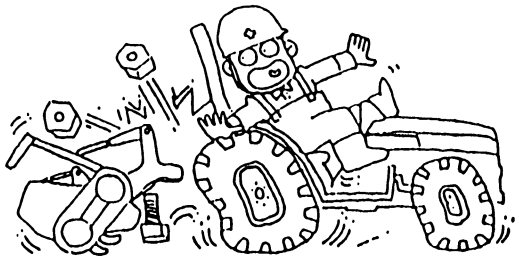
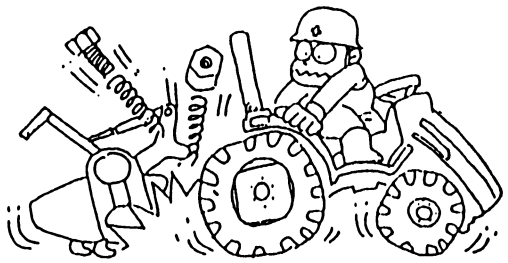
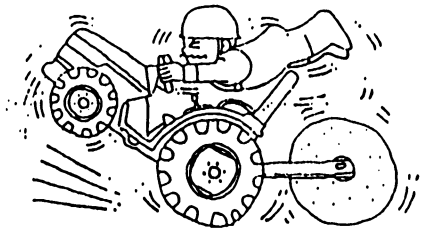
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆始動する前に，周囲を確認し，トラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。	子供等，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にしてください。 ● 主変速，副変速，PTO変速のレバーが「《N》（中立）」になっているかレバーを手で動かして確認する。 ● クラッチペダルを踏んで始動します。	変速やクラッチが入っていると機械が動きだし事故の原因となることがあります。 

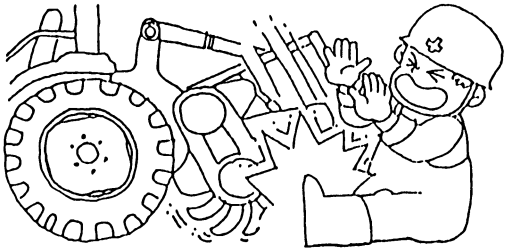
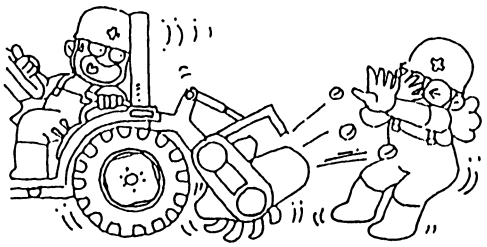
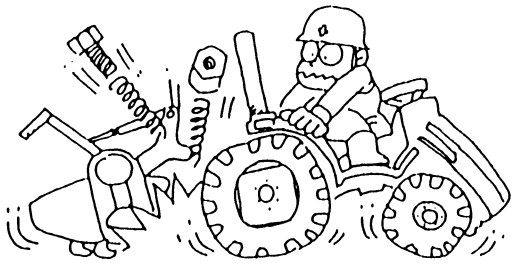
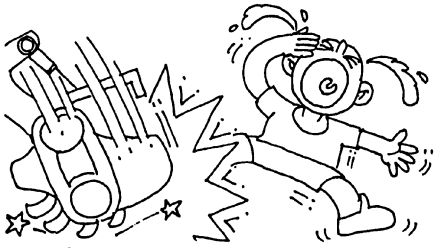
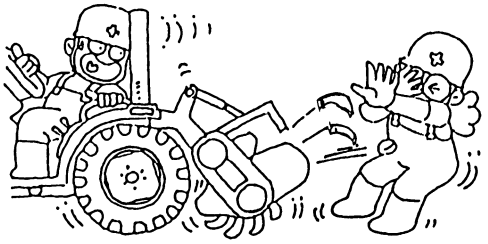
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ● 換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

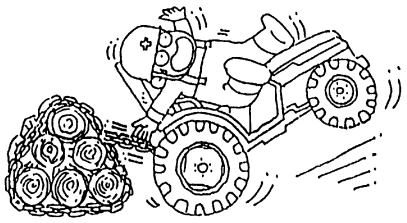
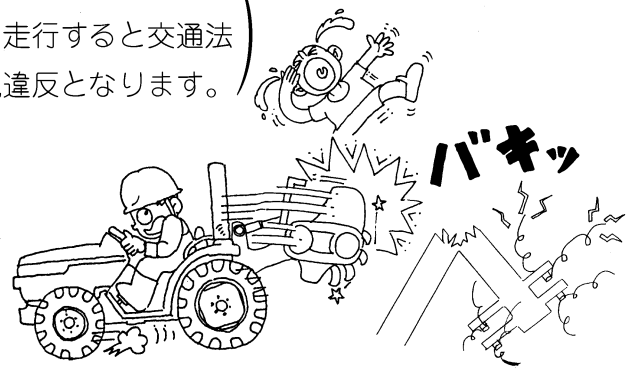
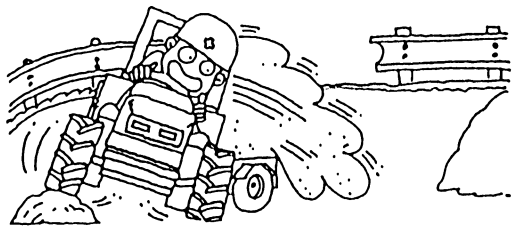
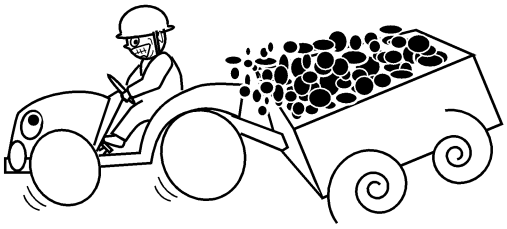
⚠作業機の装着および作業をするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業機を着脱する前に，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。 ●着脱は平坦な場所で，地盤のしっかりしたところで行う。 ●夜間は適切な照明をする。	トラクタが動き出したりして，思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆トラクタに適合した作業機を装着してください。 ●作業機の取扱説明書を読む。 ●吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。 ●左右のチェックチェンを調整し，作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業機の着脱で2人作業のときは合図を確実にし合って行なってください。 ◆スーパーヒッチで作業機を着脱するときは周囲を確認しトラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。 ●トラクタを移動して作業機を着脱するときは，トラクタと作業機の間に進入しない。 ●装着は手順通り正しく行う。 ●確実に装着して，ピンに抜け止めピンをする。 ●作業者以外の人を近づけない。 ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。	機械にはさまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  作業機を上げたままで調整を行うと，トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり，傷害事故を引起こすことがあります。 

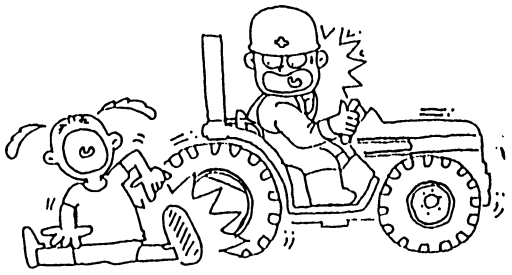
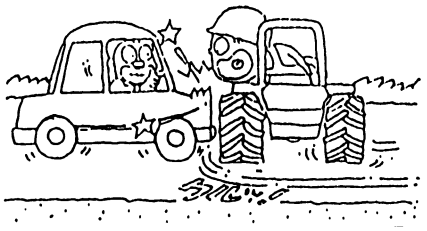
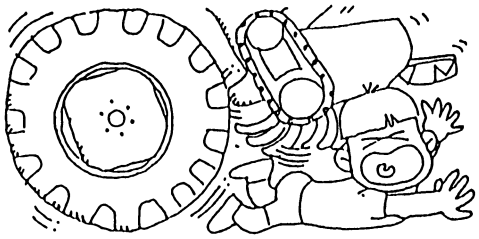
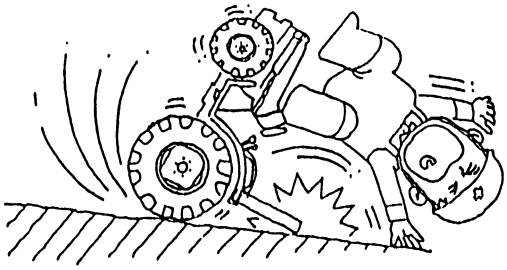
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。 ●安全カバーの回り止めをする。 ◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。 ●ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。 ●ヨークは作業中真っ直ぐになるように装着する。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。  作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆各部のボルト，ナット，ロータリの爪等がゆるんでないか確認してください。 ●ボルト，ナット類，耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば，直ちに締める。	作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆重い作業機を装着したときは，トラクタのフロントに，バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。	トラクタがバランスを崩し傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆フロントローダ作業をするときは，後方にウエイト又は他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。 ●ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。	バランスを崩し転倒事故を引起こす原因となります。 

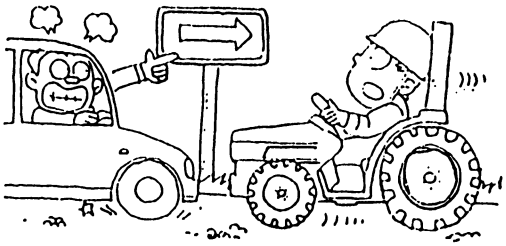
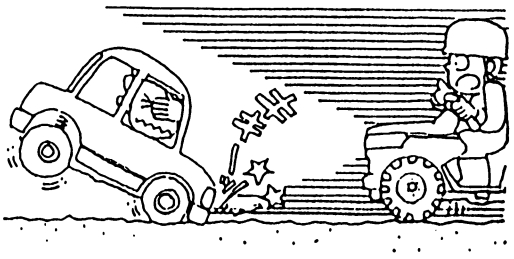
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業機の下へもぐったり，足を踏込んだりしないでください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆点検，調整時，爪交換時などに外したカバー類は，すべて元の位置に正しく装着してください。 ● ロータリカバーは泥や石等が飛散しないように調節する。	機械に巻込まれたり，泥や石等がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。	作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。
⚠警告 ◆作業機を上げて点検するときや，草・ワラの巻付を除去するときは，作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に「固定脚」を入れ，作業機が降りないことを確認してください。 ● 駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，PTO変速を「《N》（中立）」にする。 ◆ロータリの耕うん爪を交換する場合は，メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 確実に締付けないと，作業中に爪が抜けてとび，傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上で引っ張らないでください。 ● けん引するときは，トラクタが後方に転倒しないように純正ドローバを使用し，ゆっくりスタートする。	転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆公道を走行するときは，作業機を装着しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 （作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。） 
⚠警告 ◆けん引や傾斜地での作業をするときは，支障のない範囲で輪距を広くしてください。	転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆最大積載時総質量がトラクタの1.5倍を越えるトレーラは，けん引しないでください。	ブレーキが効きにくくなり，事故の原因となります。 
⚠注意 ◆PTO軸を使用しないときは，PTOキャップを取付けてください。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

⚠走行運転をするときは……

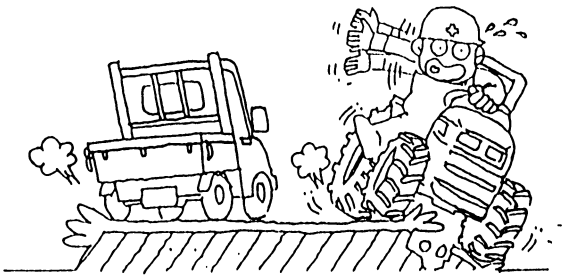
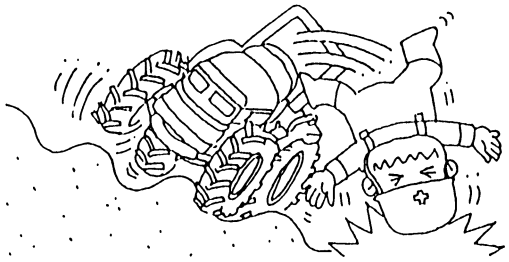
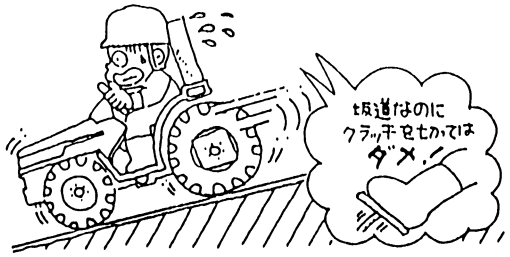
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

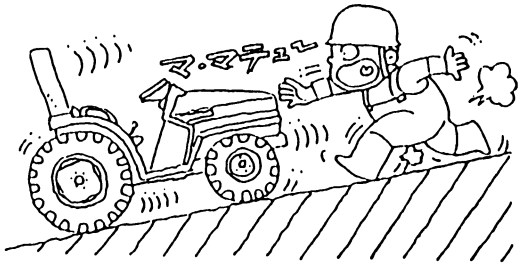
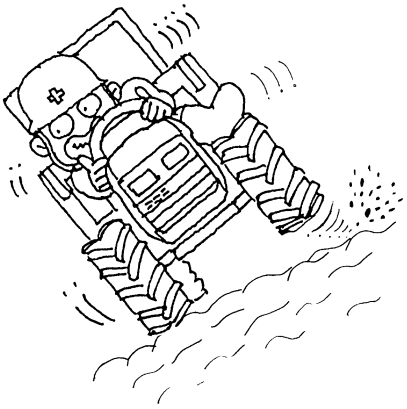
⚠警告 ◆発進するときは，周囲を確認してから発進してください。 ●子供等，人がトラクタ及び作業機に近づかないようにし，周囲にいる人を遠ざけてから発進する。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。 ●左右のブレーキペダルを連結する。 ●デフロックを解除する。	ブレーキが片ぎきになったり，ハンドル操作しても旋回できなかったりして事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆PTO変速の「《N》（中立）」を確認してください。 ●発進前に，4駆切替レバーを「4WD」（入）か「2WD」（切）にする。 ●発進前に，PTO変速を「《N》（中立）」にする。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●低速で発進する。 ●クラッチペダルはゆっくり離す。 ●旋回するときは，エンジン回転を低速にして行う。 ●エンジンコントロールレバーを「低」にし，フートアクセルで走行する。	転倒事故を引起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆公道を走行するときは，交通法規を守り，安全フレームを起こし，ヘルメットを着用し，シートベルトをしてください。 ●作業機は装着しない。 ●周囲を確認しながら走行する。 ●わき見運転をしない。 ●低速車線を走る。	思わぬ傷害事故の原因となります。 トラクタ運転中は，気のゆるみが大事故につながることを忘れないようにしてください。 
⚠警告 ◆夜間の移動はライトをつけてください。 ●夜間，対向車とすれ違う場合は，前照灯を下向きにして走行する。	対向車の運転者が目をくらまし，交通事故を引起こす原因となることがあります。 
⚠警告 ◆駐車・停車するときは，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。 ●作業機（ロータリ等）を降ろす。 ●座席を離れるときはエンジンを停止し，キーを抜取っておく。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

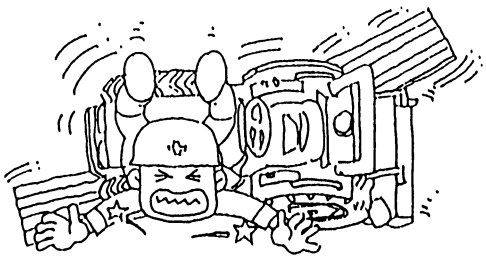
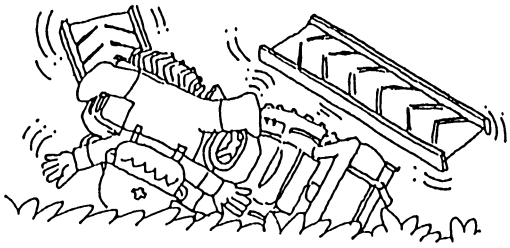
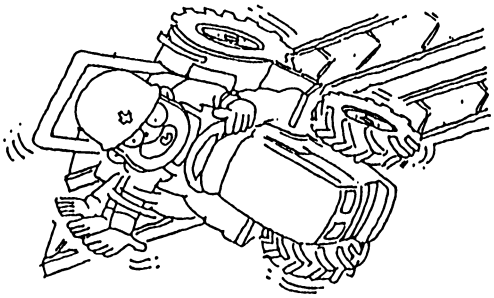
⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転するときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないでください。 ● 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ● 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。 ● 雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。	路肩がくずれ転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。 ● スピードを落として慎重に走行する。	転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地では，主変速や副変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして，ニュートラルで走行しないでください。 ● 坂にさしかかったら，坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。 ● 下り坂では，速度を下げてエンジンブレーキを使用する。	エンジンブレーキがきかなくなってスピードが速くなり事故の原因となります。 

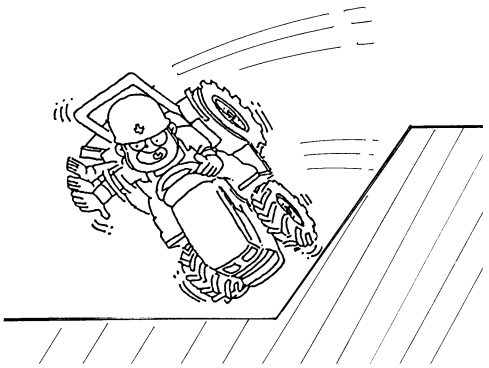
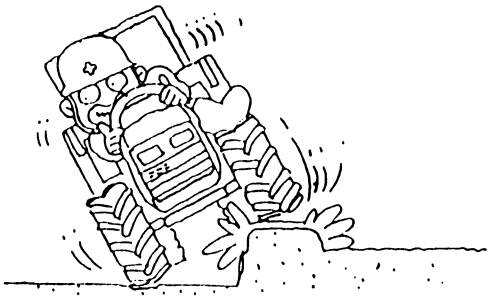
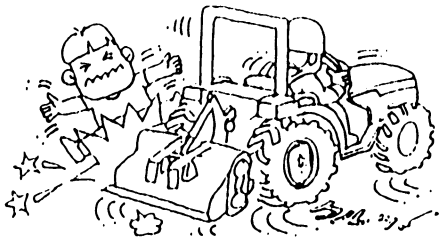
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて後輪に歯止めをしてください。 ●作業機（ロータリ等）は降ろす。 ◆副変速を「低」に入れ，主変速レバーを登り坂では「1速」，下り坂では「後進」に入れてください。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。	トラクタが転倒し傷害事故を引起こします。 
⚠警告 ◆果樹園作業，ハウス内作業では，走行速度を落とし周囲を確認して，慎重に運転してください。 ◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが，この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトはしないでください。 ●ヘルメットをかぶる。 ●切り株に乗り上げない。 ●枝にひっかからないようにする。	張り出した木の枝や，頭上の障害物で頭部や胸部を打って死亡または傷害事故になることがあります。 切り株等で転倒したり，ひっかけた枝にたたかれ死亡または傷害事故になることがあります。 

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フックのあるものを使ってください。 ● 前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。 ● 自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。 ● 自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。 ● 2枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き，荷台に対して真っ直ぐにする。 ● 荷台にアユミのフックを確実にかけ，外れないかを確認する。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆積込みは後進，積降ろしは前進で行なってください。 ● 補助者立会誘導のもとに行う。 ● 機械のまわりに子供等，人を近づけない。 ● 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。 ● アユミの上では，必要以上のハンドル操作はしない。 ● ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする。	進路変更するとバランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。 ● 途中でトラクタを止める必要がないよう，アユミの左右位置や平行，安定を確認し，低速で積込み・積降ろしを行う。	エンジンブレーキがきかなくなり，急降下して事故を起こすことがあります。

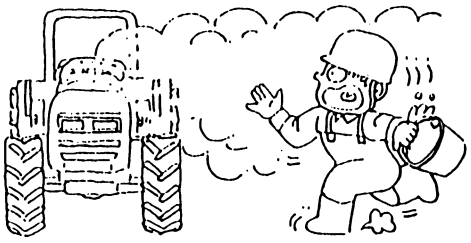
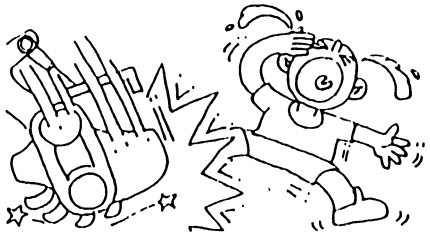
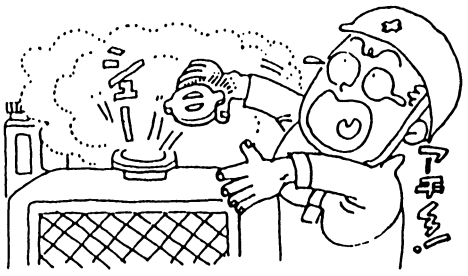
⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆急傾斜，溝越え，高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ほ場への出入りは上がるときは後進，降りるときは前進で低速で行う。 ●PTO変速を「《N》（中立）」にする。 ●アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，低速であぜに直角に行なってください。 ●左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業中は，トラクタに人を近づけないようにしてください。 ●ほ場に子供等，人を入れない。 ●子供等，人が近寄らないようにする。 ●わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。 ●あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回する。	作業機が衝突したりして傷害事故を引起こすことがあります。 

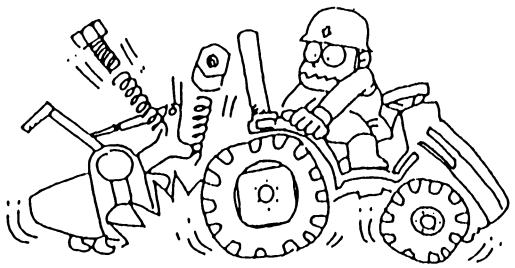
⚠１日の作業が終わったら……

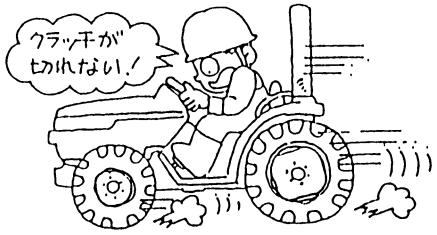
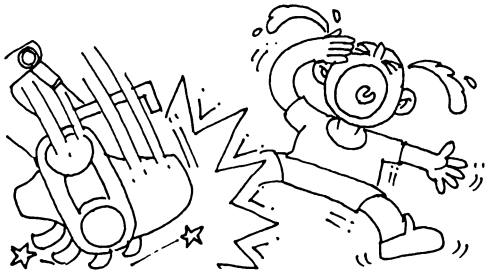
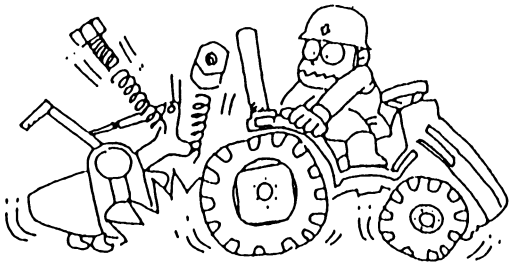
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン，マフラ，燃料タンクまわりのワラ，草等を除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，作業機（ロータリ等）は地面に降ろし，駐車ブレーキをかけてください。 ●キーは抜取っておく。 ●PTO変速は「《N》（中立）」にしておく。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シートカバーをかける場合は，マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

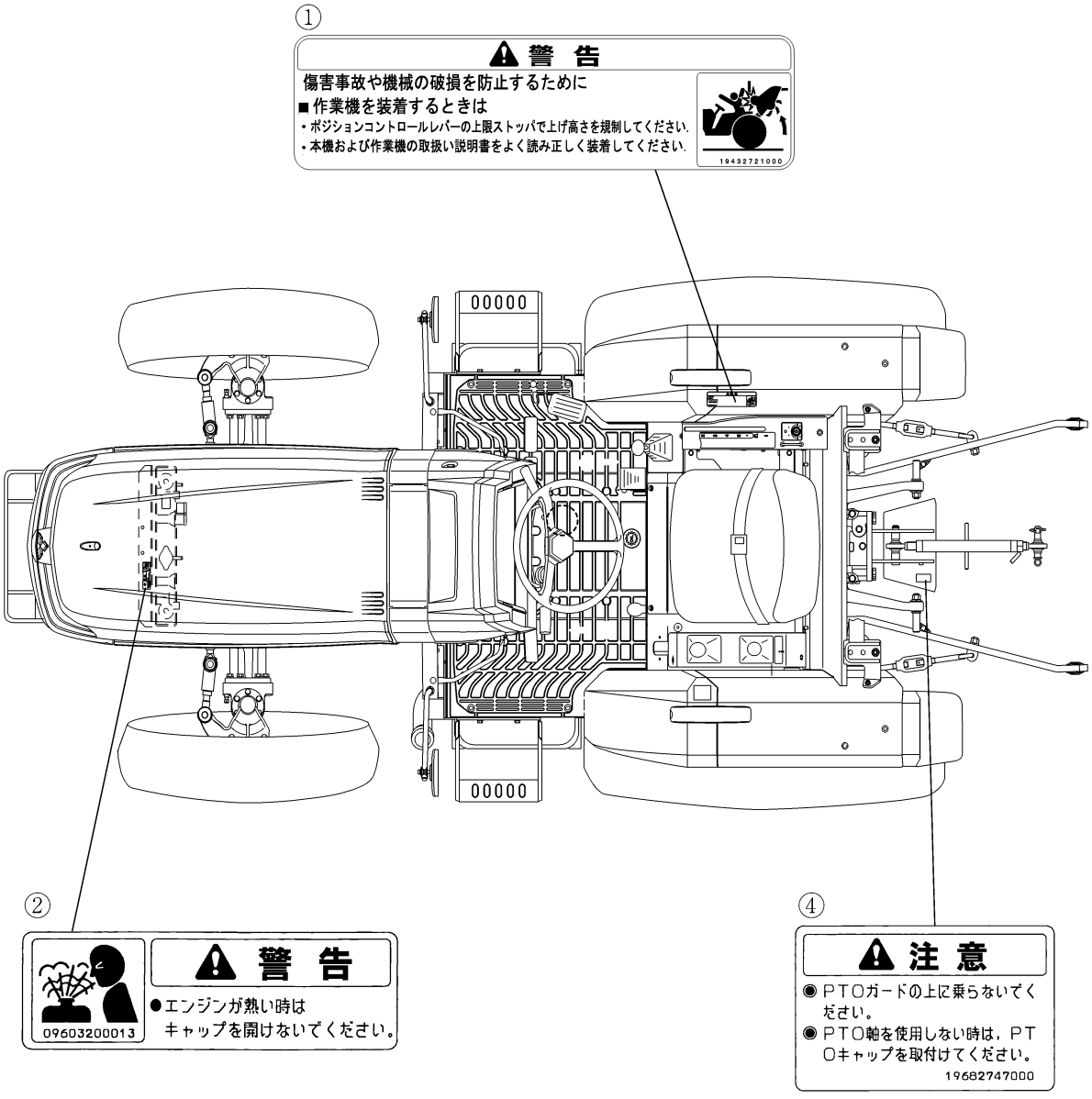
⚠警告 ◆各部を水洗いして，平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ，キーを抜取ってください。	機械から目をはなしたすきに子供等がイタズラをしたり，思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆故障個所，爪の摩耗があれば，早目に修理，交換します。 ◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締付けます。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆バッテリはトラクタから外して保管するか，㊀側のコードを外しておいてください。 ●バッテリをトラクタから外して保管するときは，㊀側のコードから外す。	火災事故の原因となることがあります。 

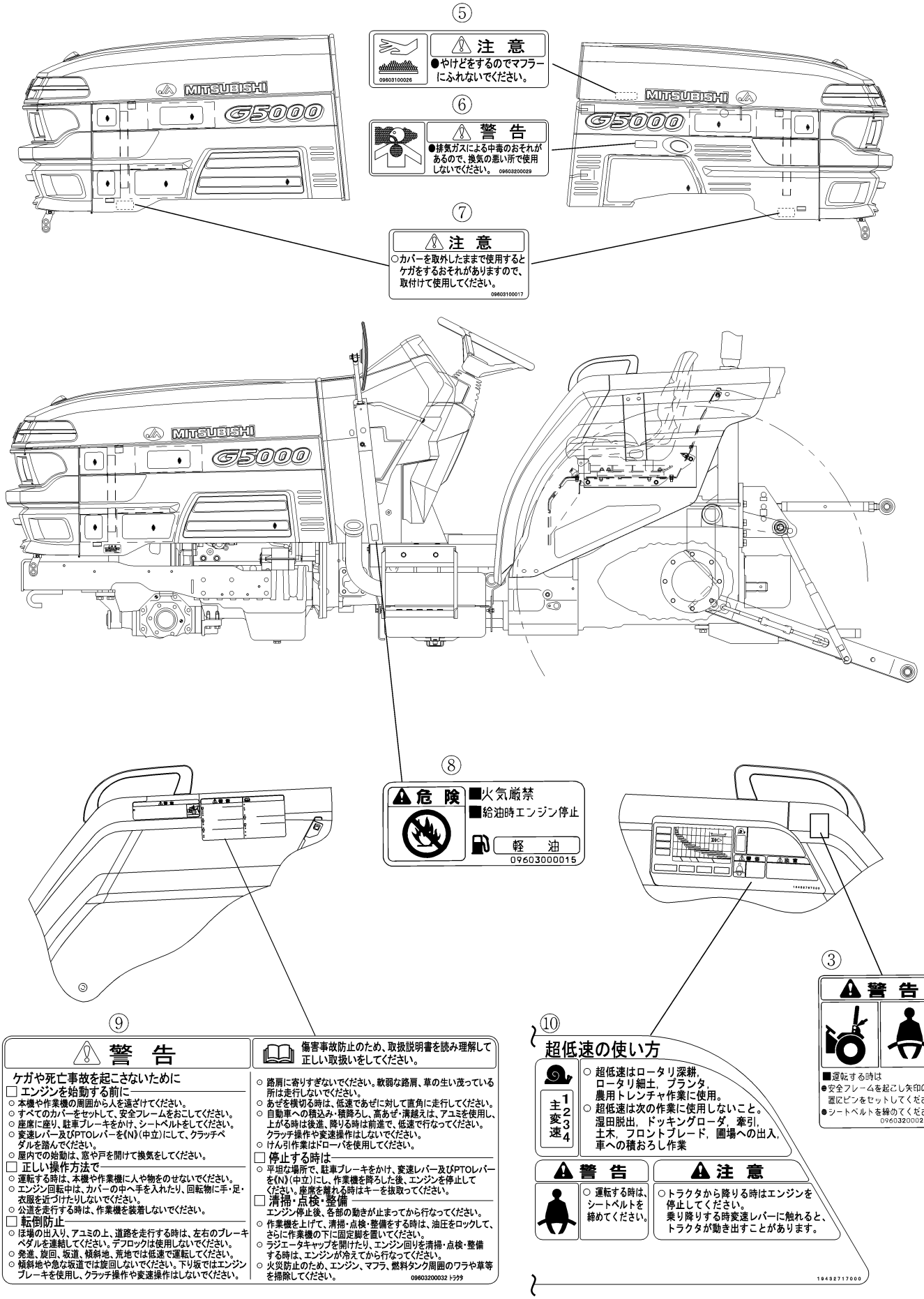
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆格納するときは，クラッチ板こう着防止のためクラッチ板を離した状態にしておいてください。 ● クラッチペダルを一杯踏込んでフックをかける。 ● 後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキをかけておく。	クラッチが切れなくなり思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆作業機は外すか，降ろしておいてください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 

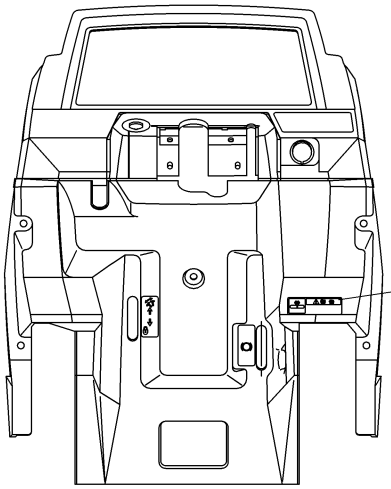
2．表示ラベルについて

このトラクタには各運転装置の近くに各々の安全な取扱いかたについて説明している「**表示ラベル**」が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき，注意を守って操作ください。

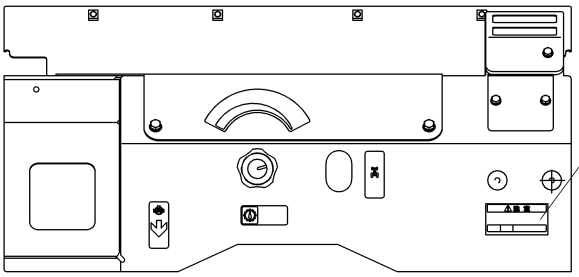
また，トラクタに貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。



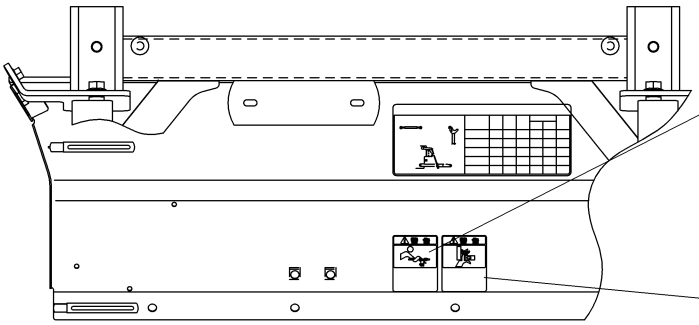

⑤
注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。
09603100026
⑥
警 告
●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。 09603200029
⑦
注 意
○カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
MITSUBISHI
G5000
⑧
危 険
■火気厳禁
■給油時エンジン停止
軽 油
09603000015
⑨
警 告
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
ケガや死亡事故を起こさないために
□ エンジンを始動する前に
○ 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
○ すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。
○ 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。
○ 変速レバー及びPTOレバーを(N)(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。
○ 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。
□ 正しい操作方法で
○ 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
○ エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
○ 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。
□ 転倒防止
○ ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。
○ 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
○ 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。
○ 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。
○ あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。
○ 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。
○ けん引作業はドローバを使用してください。
□ 停止する時は
○ 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを(N)(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。
□ 清掃・点検・整備
エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
○ 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。
○ ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
○ 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。
09603200032 トラクタ
⑩
超低速の使い方
主変速 1 2 3 4
○ 超低速はロータリ深耕、ロータリ細土、プランタ、農用トレンチャ作業に使用。
○ 超低速は次の作業に使用しないこと。湿田脱出、ドッキングローダ、牽引、土木、フロントブレード、圃場への出入、車への積おろし作業
警 告
○ 運転する時は、シートベルトを締めてください。
注 意
○ トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。
19432717000
③
警 告
■運転する時は
●安全フレームを起こし矢印の位置にピンをセットしてください。
●シートベルトを締めてください。
09603200021



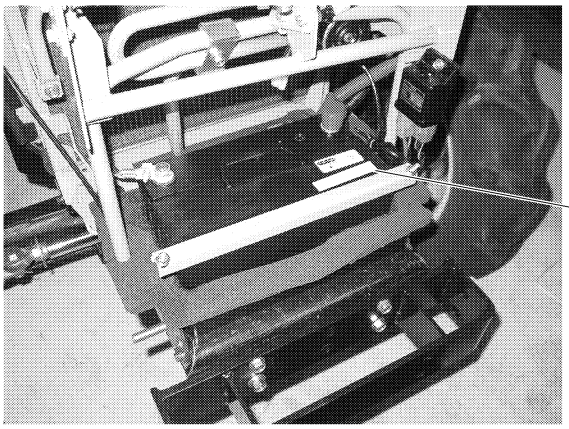
［運転席正面］



［運転席下方］



［トラクタ後方］



［バッテリ前方］

⑪

警 告

●駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。

09603200016

⑫

注 意

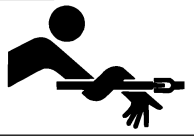
本車両は，　後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1150

10372766001

⑬

警 告



●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足衣服等を近づけないでください。

09603200019

⑭

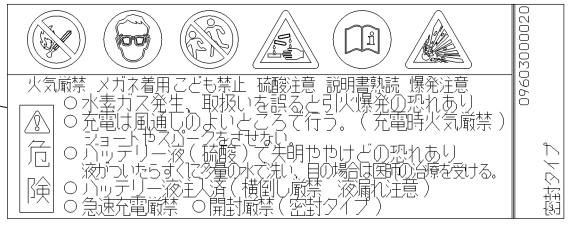
警 告



●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ，ケガをするおそれがあるので近づかないでください。

09603200045

⑮



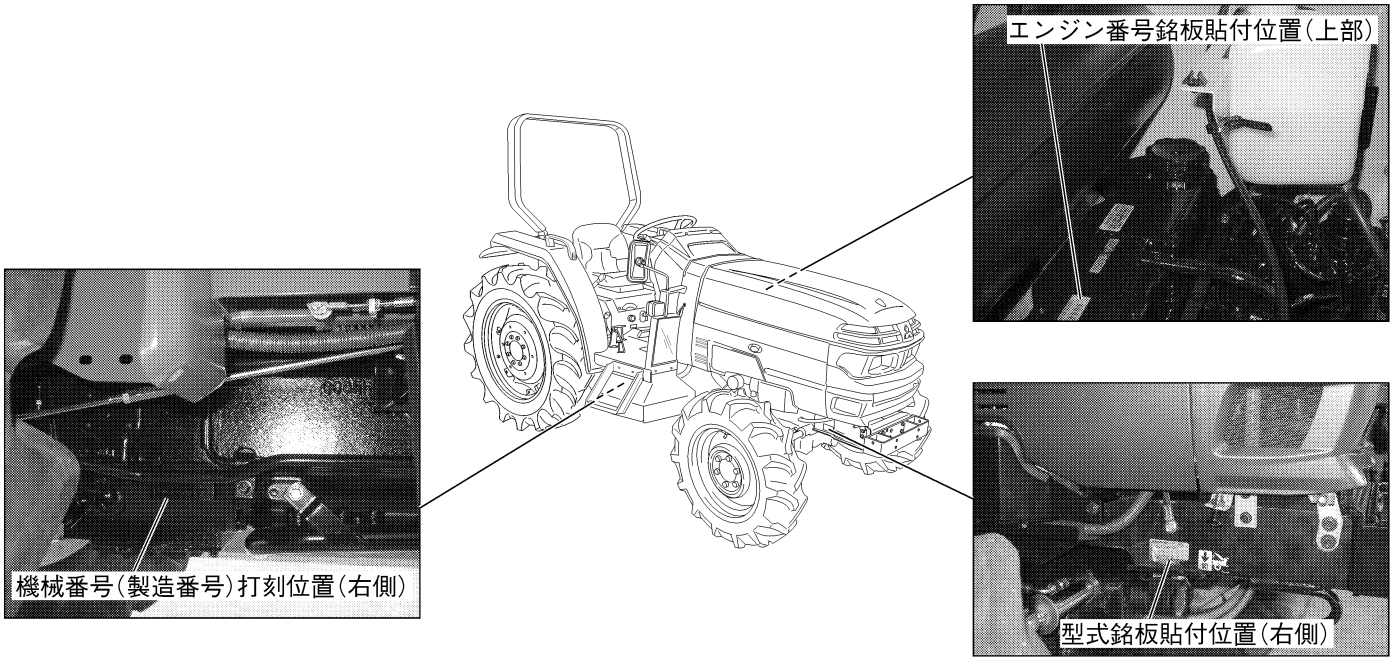
表示ラベル一覧表

No.	部　品　番　号	品　　号
1	1943 2721 000	LABEL（作業機上昇）
2	0960 3200 013	LABEL WARNING（ラジエータ）
3	0960 3200 021	LABEL WARNING（安全フレーム）
4	1968 2747 000	LABEL C，PTO（PTO）
5	0960 3100 026	LABEL CAUTION（ラジエータ）
6	0960 3200 029	LABEL WARNING（排気ガス）
7	0960 3100 017	LABEL CAUTION（カバー）
8	0960 300 015	LABEL DANGER（火気厳禁）
9	0960 3200 032	LABEL WARNING（総合警告）
10	1943 2717 000	LABEL SPEED（作業速度表）
11	0960 3200 016	LABEL WARNING（ブレーキ連結）
12	1037 2766 001	LABEL CAUTION（輪距）
13	0960 3200 019	LABEL WARNING（巻き込み）
14	0960 3200 045	LABEL W LIFT（挟み込み）
15	0960 3000 020	LABEL BATTERY（バッテリ）

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

機械の使用目的について

・機械は，**ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。**使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告
◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

主な仕様（装備）は次のようになっています。

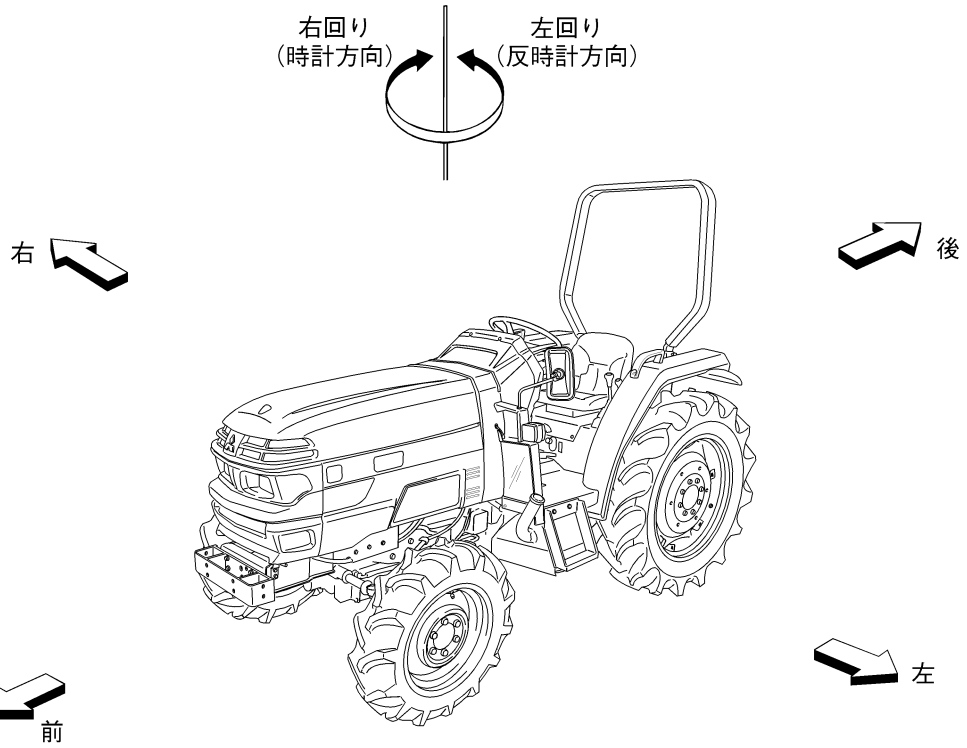
仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明していますので，お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行うことがあります。その際には，本書の内容および写真・イラストなどの一部が，本製品と一致しない場合がありますので，ご了承ください。

名称 / 型式名 / 仕様		三菱G5000Z / 三菱GX50
２柱フレーム		○
パワーステアリング		○
チルトハンドル		○
高速仕様		○
タイヤ	ハイラグ	○
ポジションコントロール		○

3．用語について

❶　この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のように決めています。



❷　**マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・ ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・ **取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

4．小型特殊自動車について

このトラクタは，道路運送車両法の「**小型特殊自動車**」に該当します。

1．小型特殊自動車の届出

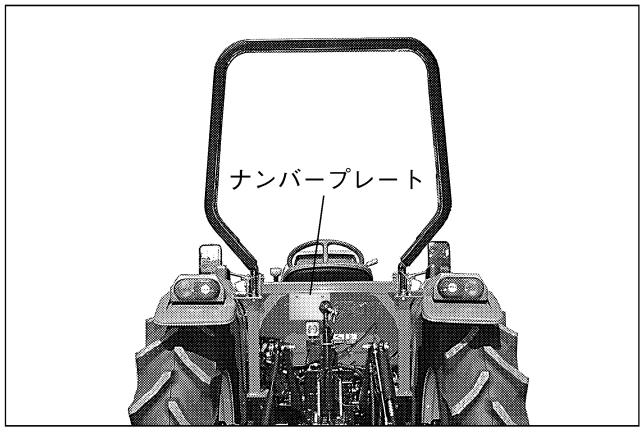
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」にご相談ください。

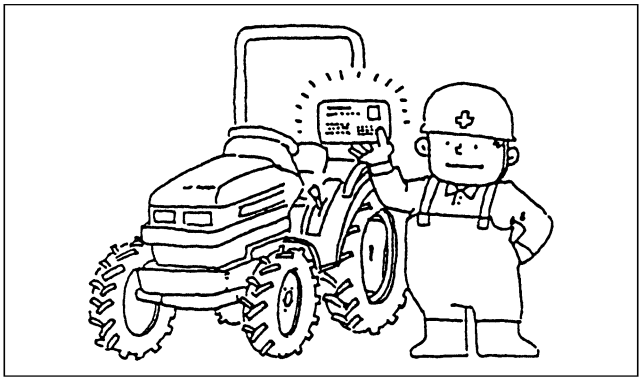
小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2．運転免許

❶　公道走行するときは，大型特殊自動車免許が必要です。運転免許証を所持してください。



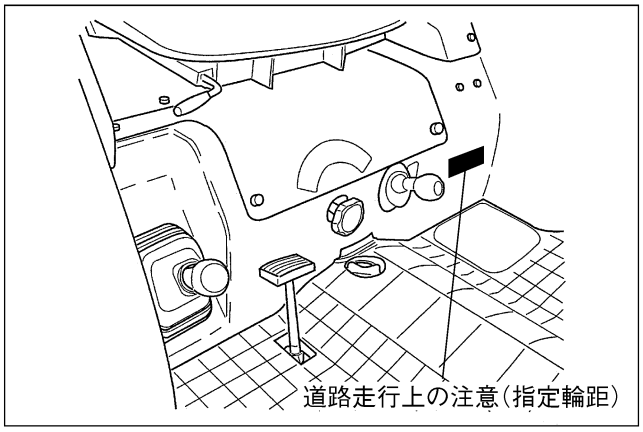
3．公道を走行するとき

公道を走行するときは，道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って，「**安全速度**」で走行してください。

❶ **作業機を取付けた状態では走行しない。**

❷ **指定輪距以外での走行はしない。**

シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。（44ページ参照）



❸ **任意保険のお勧め**

万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

❹ 公道走行中は作業灯を点灯しないでください。

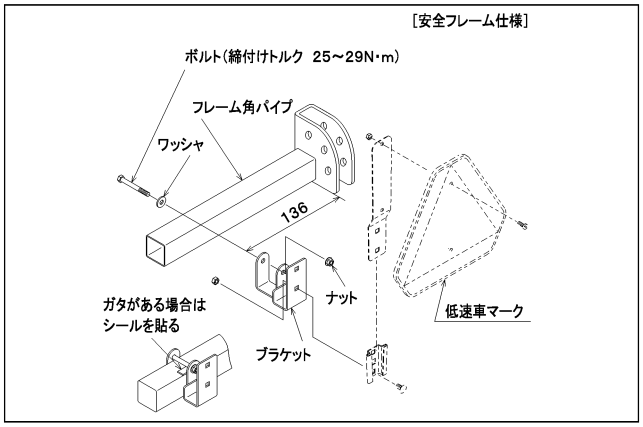
❺ **低速車マーク装着のお勧め**

公道を走行するときは後部に**“低速車マーク”**を装着されることをお勧めします。

・低速度で走っていることを早めに後方に知らせるためのマークです。

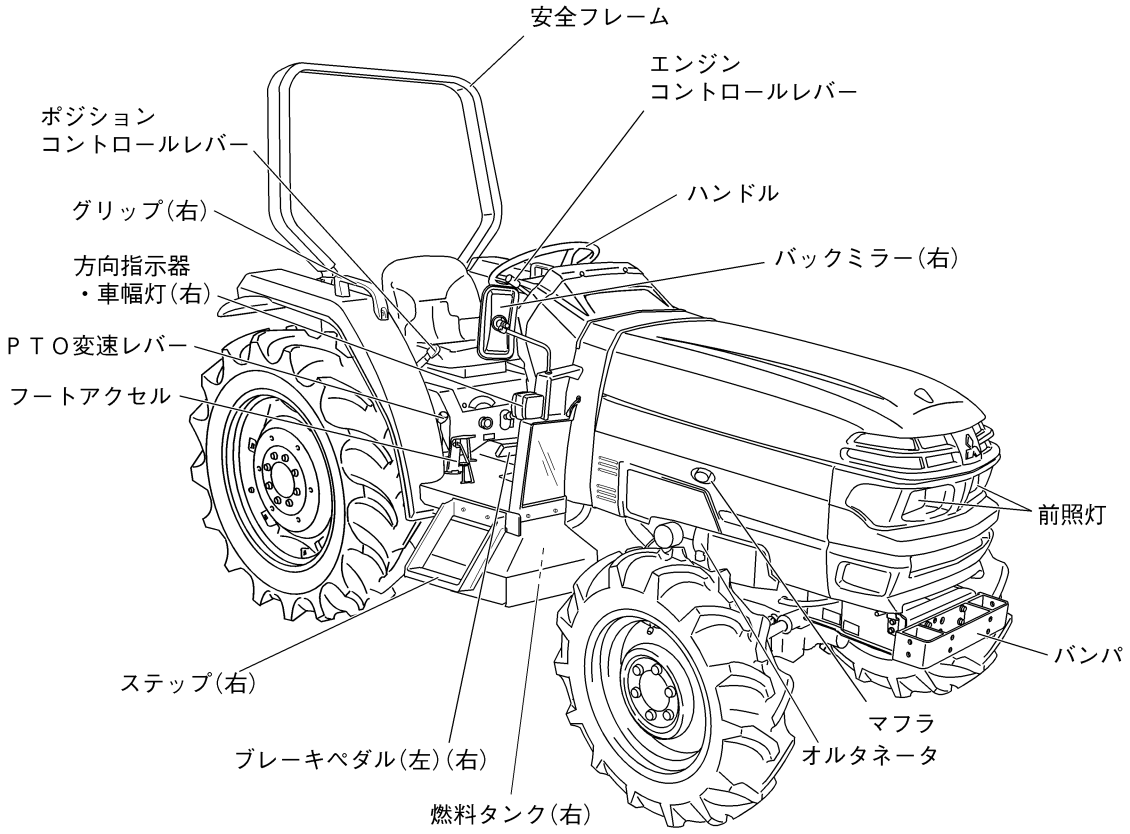
・**“低速車マーク”**の購入，取付けについては「**お買いあげ先**」に相談してください。

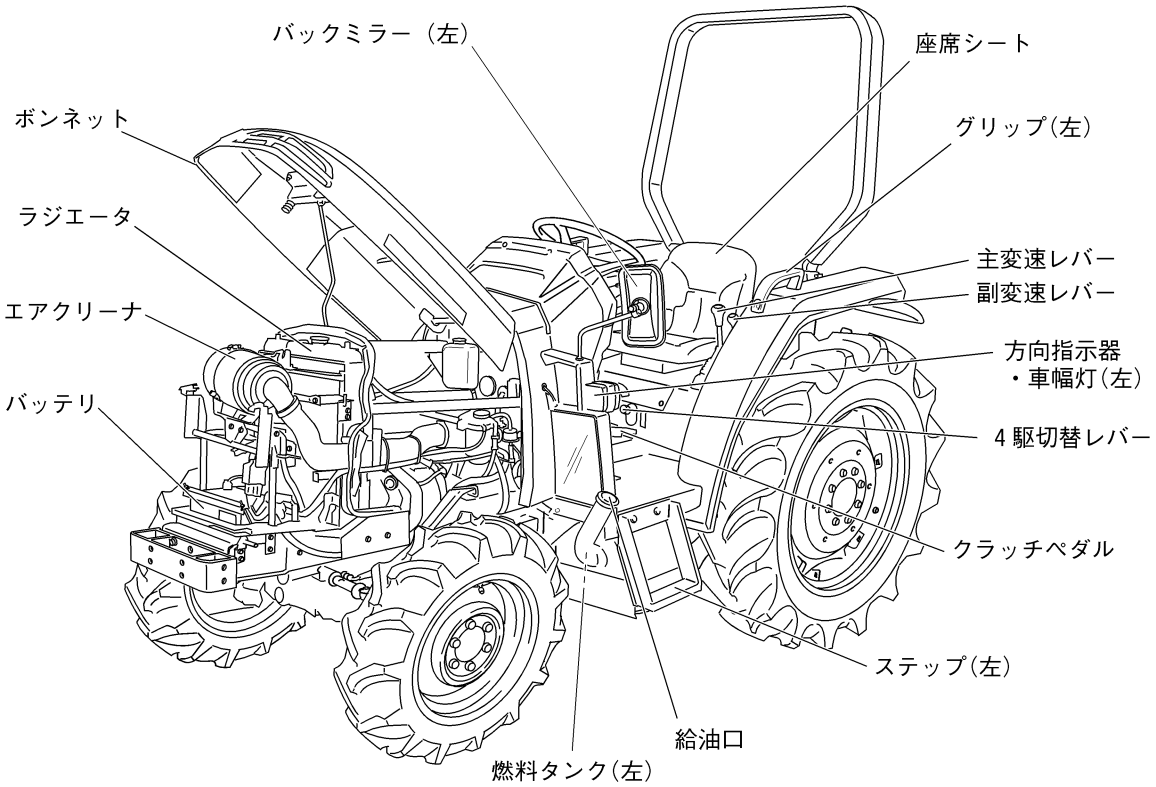
“低速車マーク”を本体に取付けるためのブラケットは部品袋に入っています。



各部のはたらき

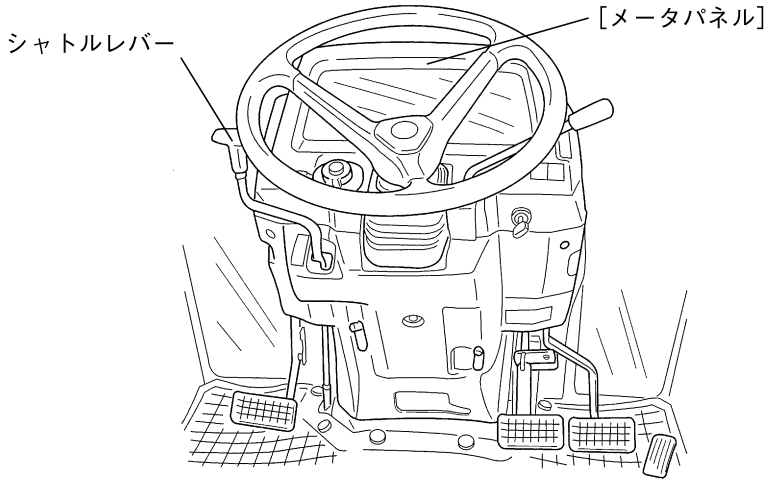
1．各部の名称

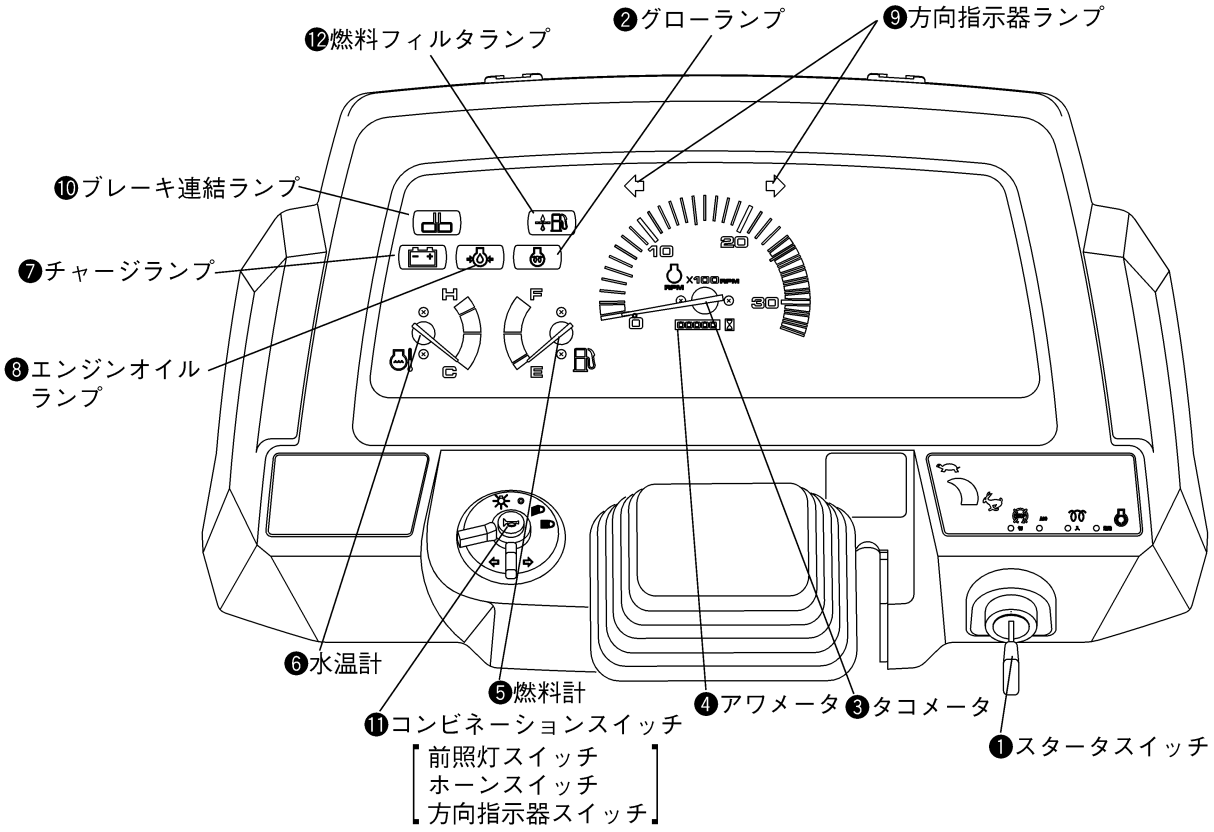




2．運転装置の取扱い

1．スイッチ，計器関係





❶ スタータスイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆トラクタを使用しないときはキーを抜いておいてください。

・《 切》（停止）
キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。
キーの着脱ができます。

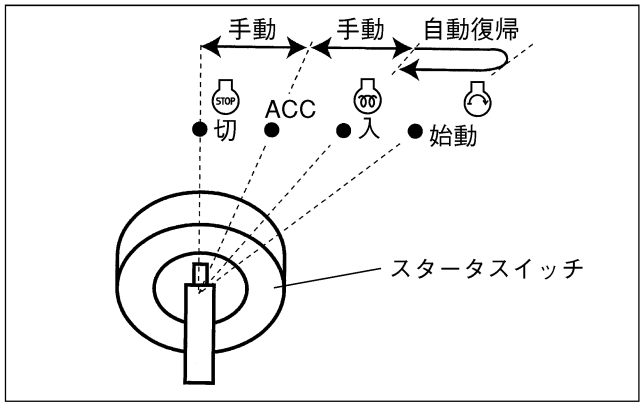
・《ACC》（アクセサリ）
キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。

・《 入》（予熱）
キーをこの位置にすると電源が入りメータ内のグローランプが点灯し，エンジンが予熱されます。予熱が完了するとグローランプが消灯しますので始動操作をします。
グローランプ点灯時間……約 6 秒

・《 始動》
キーをこの位置にするとエンジンが始動します。エンジン始動後手を放せば自動的に《 入》にもどりエンジンが運転状態になります。

取扱いのポイント

- **クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。**



❷ グローランプ（ ランプ）



キーを《 入》にすると，点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

❸ タコメータ

エンジン回転数を示します。

❹ アワメータ

エンジンの稼働時間を表示し，たとえば

0	0	1	9	1

は定格回転で19.1時間（19時間 6 分）使用したことを示します。

❺ 燃料計



キーを《 入》にすると燃料の残量を示します。

針が《E》近くになったら早めに補給してください。

❻ 水温計



キーを《 入》にするとエンジン冷却水温度を示します。

取扱いのポイント

- **水温計の針が《H》を示した場合は，オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量，ラジエータの目詰まり（62ページ参照），ファンベルトの張り（63ページ参照）を点検してください。冷却水量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。**



❼ チャージランプ（ランプ）

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止しているとき，キーを《入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中にランプが連続点灯するときは，エンジンを停止し，ファンベルトを点検してください。（63ページ参照）**
  ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。



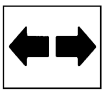
❽ エンジンオイルランプ（ランプ）

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止しているとき，キーを《入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

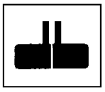
取扱いのポイント

- **運転中にオイルランプが点灯したときは，エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（54ページ参照）**
  オイル量が正規であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。



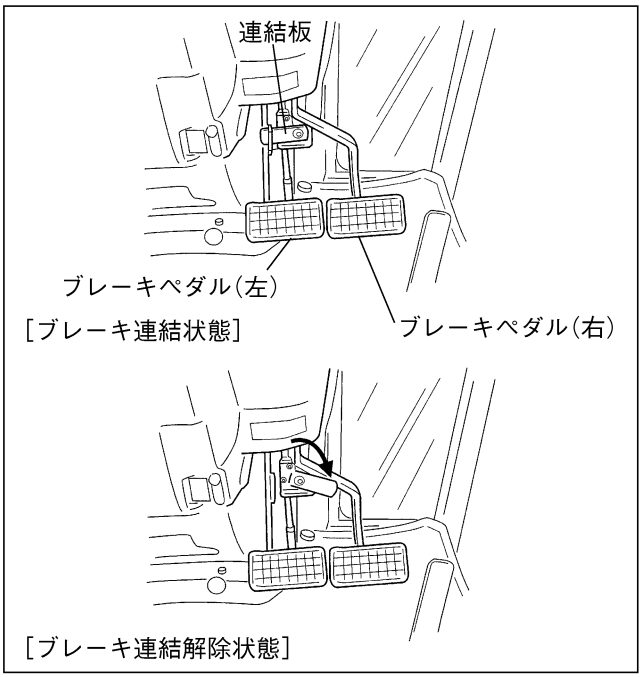
❾ 方向指示器ランプ

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

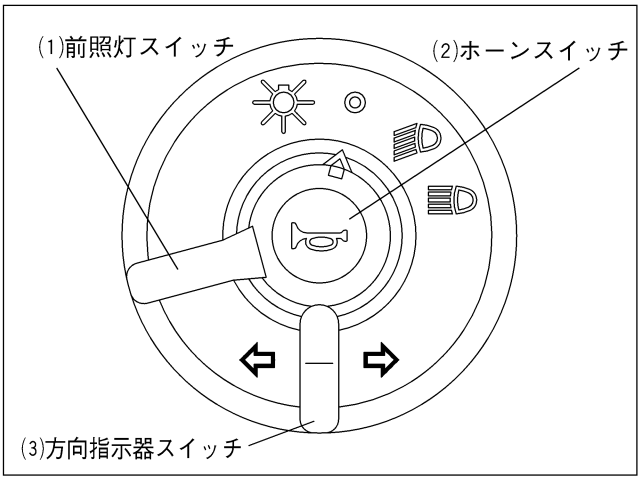


❿ ブレーキ連結ランプ（ランプ）

左右のブレーキペダルを連結板で連結すると消灯します。



⓫ コンビネーションスイッチ



(1) 前照灯スイッチ

○……消灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯下向点灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯上向点灯

(2) ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

(3) 方向指示器スイッチ

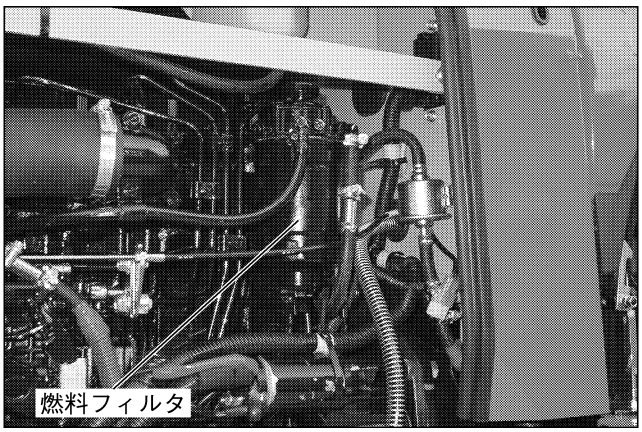
右折，左折のとき使用します。

……（右折）

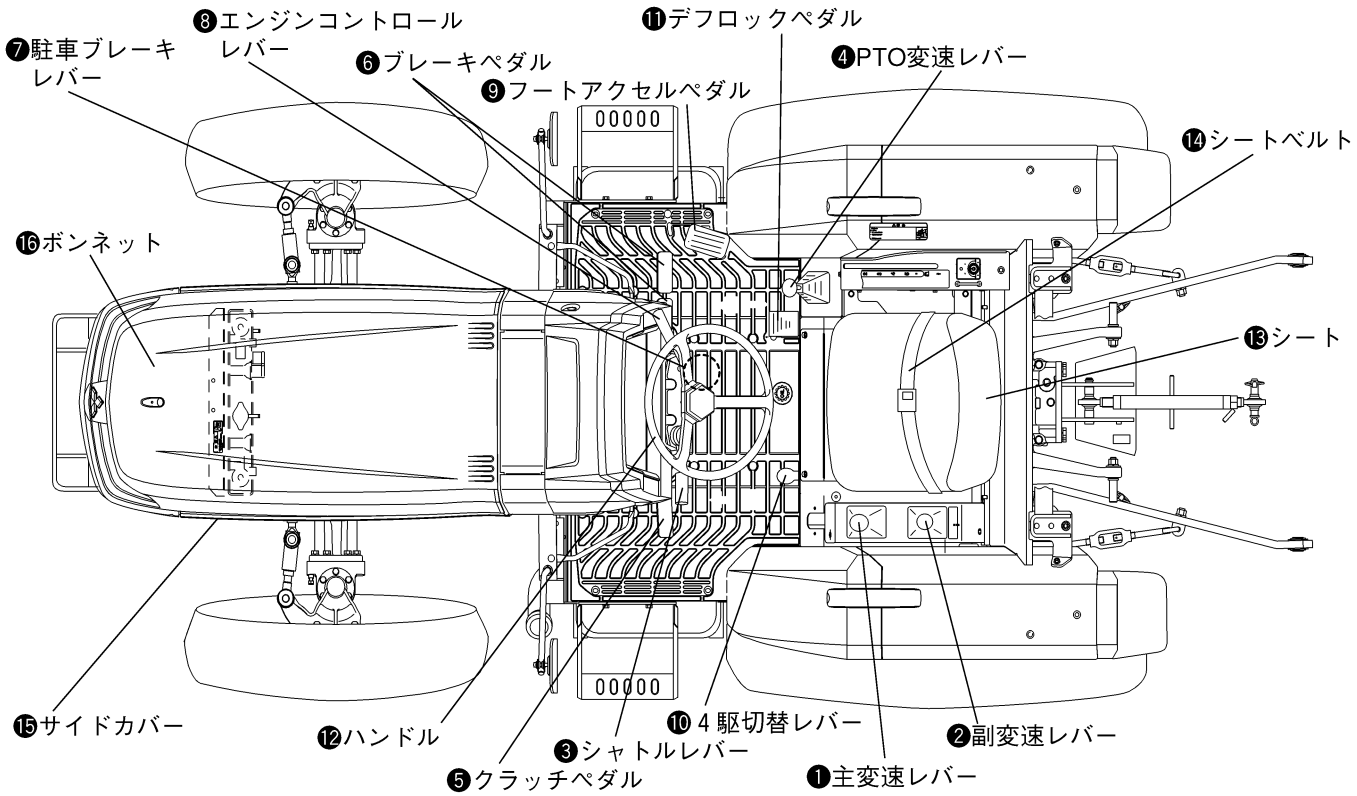
……（左折）

⓬ 燃料フィルタランプ

燃料フィルタに水が溜まると点灯します。ランプが点灯したときは「**水抜き**」を行なってください。（56ページ参照）



2．レバー，ペダル，シート関係



取扱いのポイント

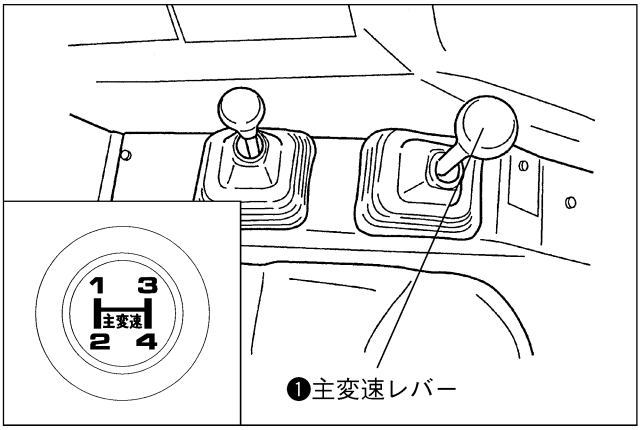
●変速操作時にクラッチペダルを踏込みます。

	クラッチペダル操作
主変速レバー	要
シャトル変速レバー	要
副変速レバー	要
PTO変速レバー	要
４駆切替レバー	要



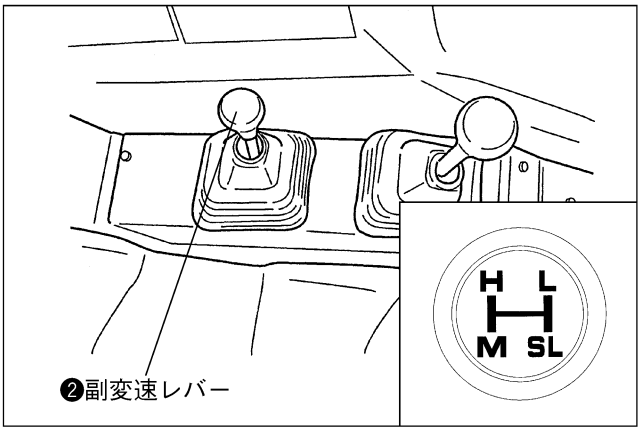
❶ 主変速レバー

4段の変速位置があります。副変速レバーと併せて，16段の変速ができます。



❷ 副変速レバー

H（高速），M（中速），L（低速），SL（超低速）の4段切替です。



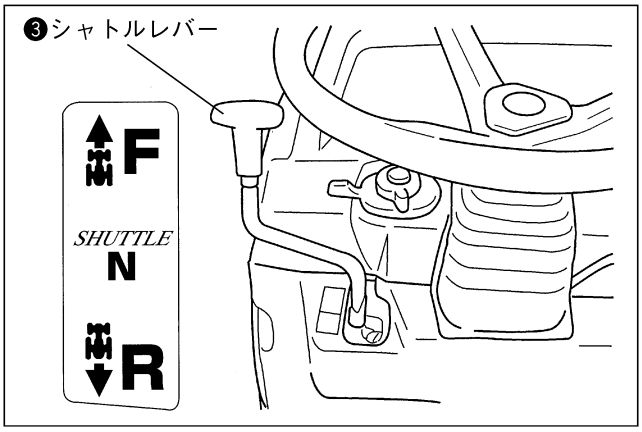
取扱いのポイント

- **主変速，副変速レバーの各々の位置での車速はフェンダ（左）に貼付けてある速度表をご覧ください。（作業速度とPTO回転速度は42ページ参照）**

❸ シャトルレバー

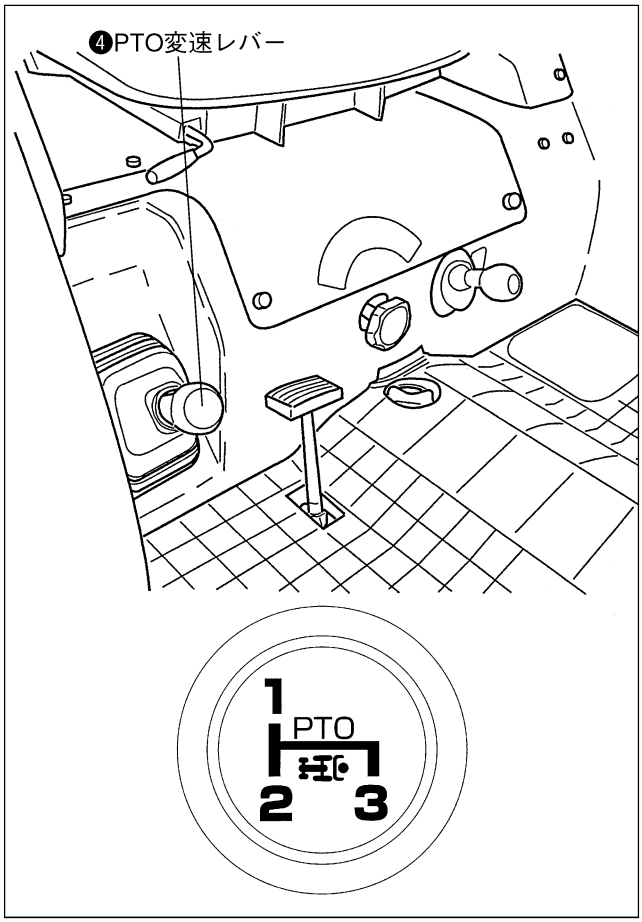
> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆後進は，エンジンの回転を下げて，後方を確認してから行なってください。

前進，後進の切換えができます。レバー位置は前側《F》が前進，後側《R》が後進となっています。



❹ PTO変速レバー

PTO軸の回転速度を正転３段に変速できます。



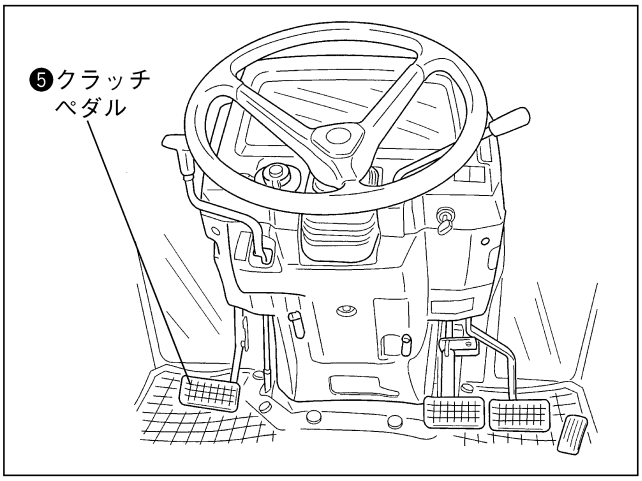
取扱いのポイント

- PTO変速レバーの操作は作業機（ロータリ等）を上げた後，クラッチペダルを踏込んで，PTO回転が停止してから行なってください。入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度，クラッチペダルを踏み直してから操作をします。

❺ クラッチペダル

ペダルをいっぱい踏込むと，クラッチが切れます。

エンジン始動，変速，停止のとき踏込みます。



取扱いのポイント

- クラッチペダルを踏込むときはす早く踏込み，離すときはゆっくり離してください。
- 始動安全スイッチが装備されており，クラッチペダルを踏込まないと始動できないようになっています。

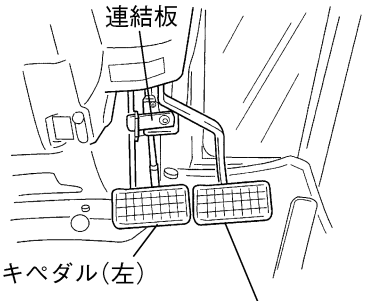
❻ ブレーキペダル

⚠警告 傷害事故防止のために

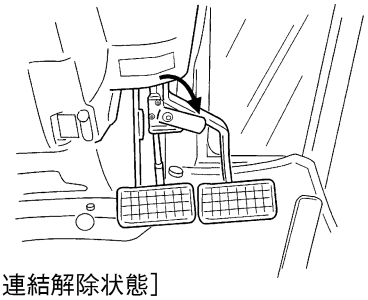
◆移動走行，ほ場への出入り，あぜ越え，アユミ使用，傾斜地作業，フロントローダ装着時等は連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転，衝突，転落等の事故になることがあります。

ブレーキペダルは左右のペダルに分かれており，連結板を解除して左のペダルを踏むと左後輪に，右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。

左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと，左右の後輪にブレーキがかかります。



［ブレーキ連結状態］



［ブレーキ連結解除状態］

取扱いのポイント

- ブレーキ連結板を外すとブレーキ連結ランプが点灯します。
- 運転時は，クラッチペダル，ブレーキペダルから足を離してください。足を乗せたまま運転すると故障の原因となります。
- 停止する場合は，ブレーキペダルと同時にクラッチペダルも踏込みます。

❼ 駐車ブレーキレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆駐車・停車時には，左右のブレーキペダルを連結して駐車ブレーキレバーをかけてください。

左右のブレーキペダルを連結し，駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを強く踏込み駐車ブレーキをかけます。

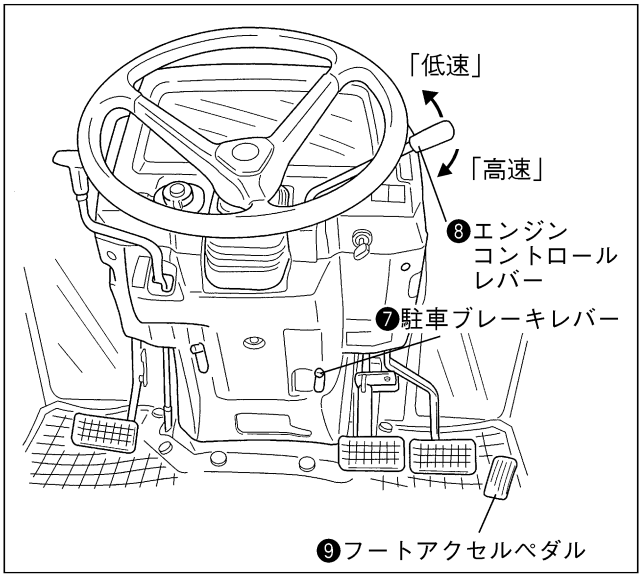
駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。

❽ エンジンコントロールレバー

レバーを手前に引けば《 》（**高速**）となり，前方へ押せば《 》（**低速**）となります。

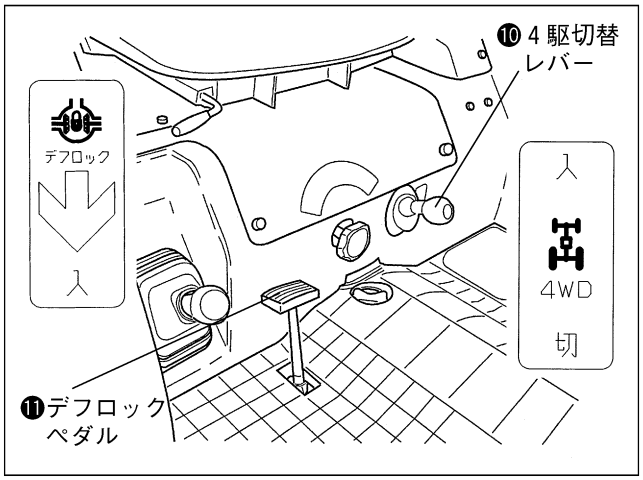
❾ フートアクセルペダル

ペダルを踏込むと高速となり，離すと低速になります。このとき，エンジンコントロールレバーは低速にしておきます。



⑩　4駆切替レバー

4駆切替レバーを上方に引上げると前輪駆動が入ります。



4輪駆動にすると，次のような場合に威力を発揮します。

(1)　傾斜地，湿田，トレーラ，フロントローダ，プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。

(2)　砂地で作業をする場合。

(3)　固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

(4)　固いほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積降ろしを行う場合。

取扱いのポイント

- **クラッチペダルを踏んでから，4駆切替レバーを操作してください。**
- **トラクタ単体で，平坦な道路走行時は，タイヤ摩耗防止のため，4駆切替レバーを《切》の位置にしてご使用ください。**
- **4駆切替レバーを操作するときは前輪タイヤを直進状態にしてください。**

⑪　デフロックペダル

⚠警告　傷害事故防止のために

◆自動車への積込み・積降ろしおよび道路走行するときは，デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると，ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると，思わぬ事故になることがあります。

ペダルを踏むと左右の後輪が同じ回転になります。

片側車輪がスリップするときに使用します。

ペダルから足を離すと解除されます。解除されない場合はクラッチペダルを踏込むか，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込みます。

取扱いのポイント

- **片側のタイヤが空転しているときはデフロックペダルを踏込んでもデフロックが入らないことがあります。この場合は一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。**

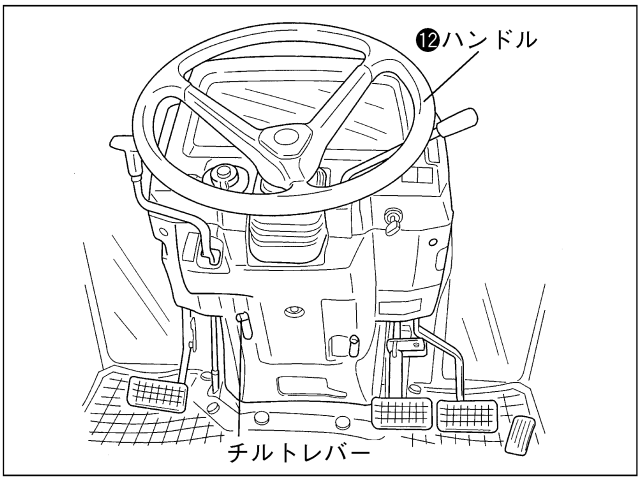
⑫ ハンドル

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルの角度を変えたときは，チルトレバーを下方に押し下げ，ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

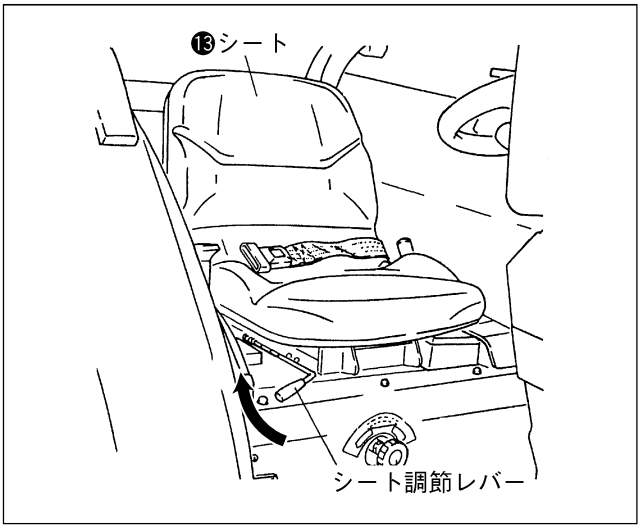
機械の進行方向を操作します。

チルトレバーを引き上げると，ハンドルの角度を変えることができます。



⑬ シート

シートの前後位置がシート調節レバーを矢印方向に回すことにより，調節できます。

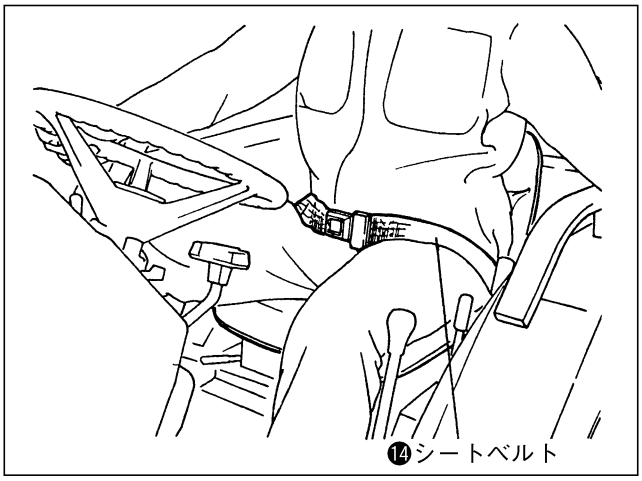


⑭ シートベルト

⚠警告 傷害事故防止のために

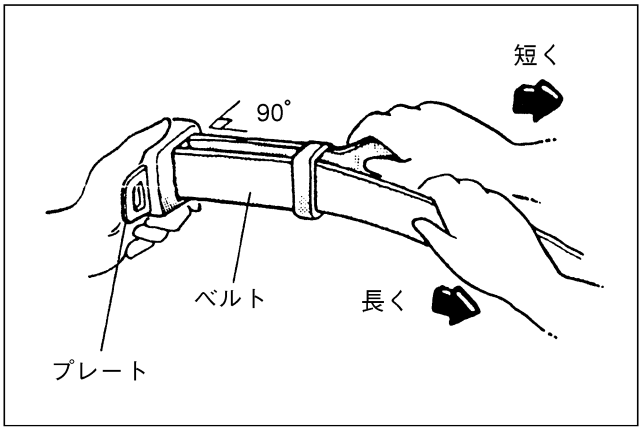
◆安全フレームをおこして使用するときは，シートベルトをしてください。

◆安全フレームをたおして使用するときは，シートベルトはしないでください。

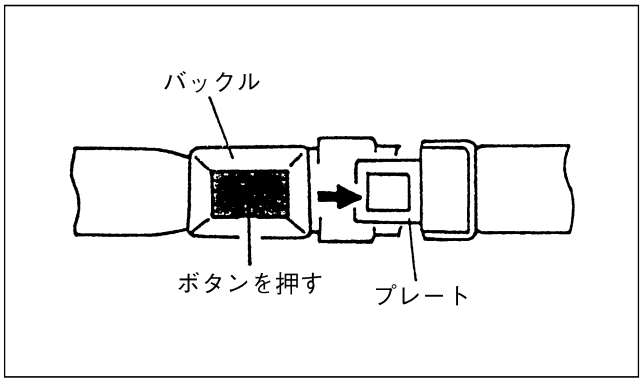


(1) シートベルトがねじれないようにして，プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。

(2) 長さの調整は，ベルトをプレートと直角にして行います。ベルトを着けたときに腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。



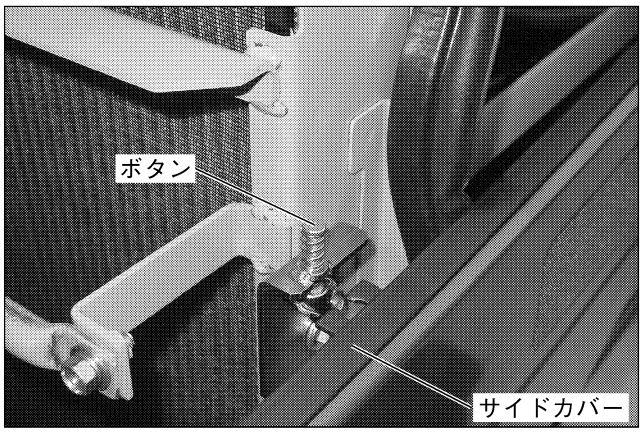
(3) シートベルトを外す時はバックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておきます。



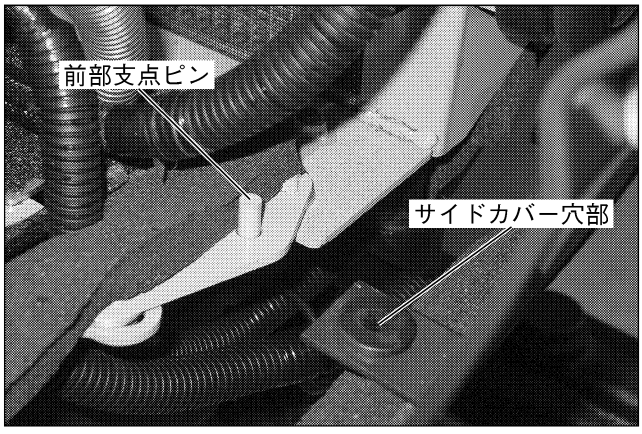
⓯ サイドカバー

(1) ボンネットをオープンして，固定します。

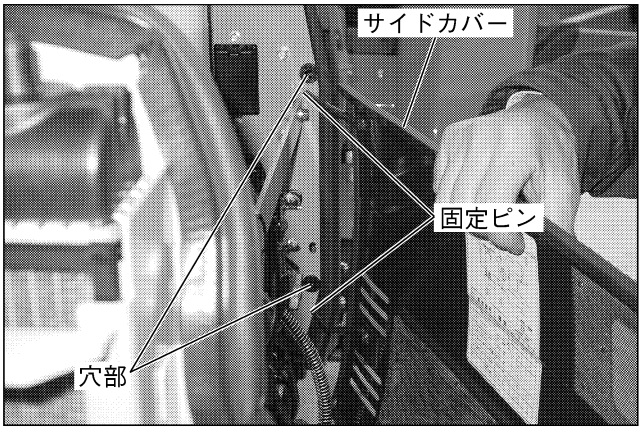
(2) サイドカバー前のボタンを押して，サイドカバーを外側に引きます。(以下手順は左右共同一)



(3) ボタン部からサイドカバーが外れたらサイドカバー前部を上方に持ち上げ，前部支点ピンからサイドカバー穴部を外します。



(4) サイドカバーを前方に引き出すようにスライドさせ，サイドカバー後方の固定ピン（上下2個所）を穴部から外し，サイドカバーを取外します。

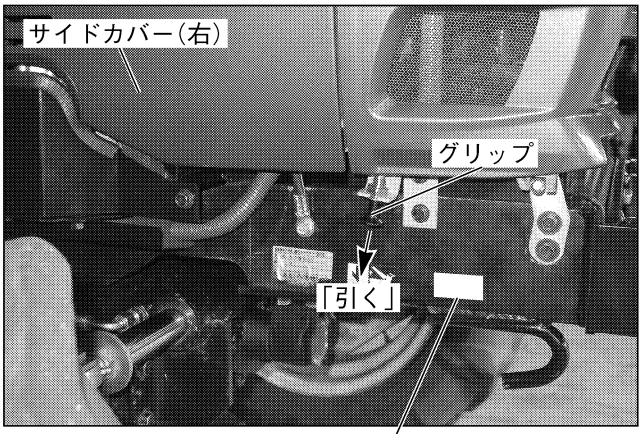


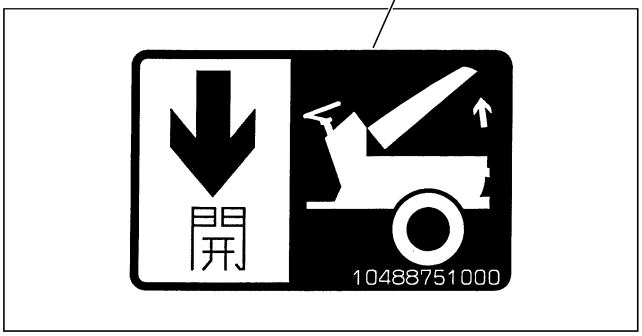
取扱いのポイント

- **サイドカバーの取付けは，取外しの逆の手順で行います。**(4)→(3)→(2)→(1)

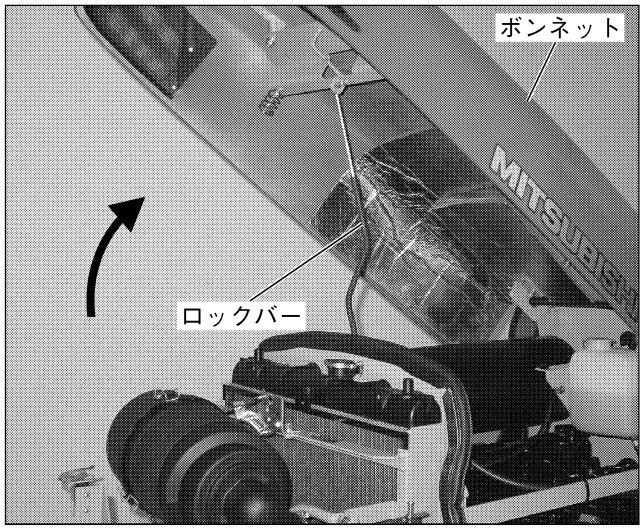
⓰ ボンネット

グリップを下に引いて，ボンネットのロック（固定）を外します。





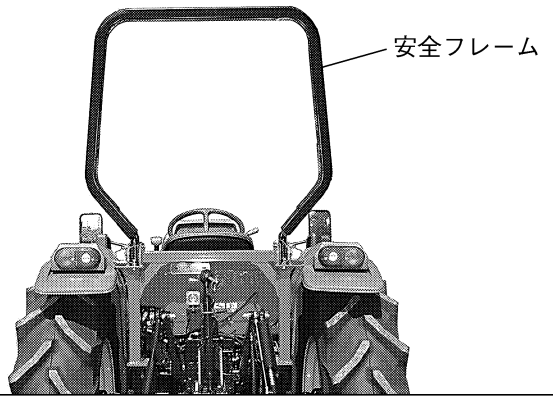
ボンネットを持ち上げてロックバーで固定します。



3．安全フレームの取扱い

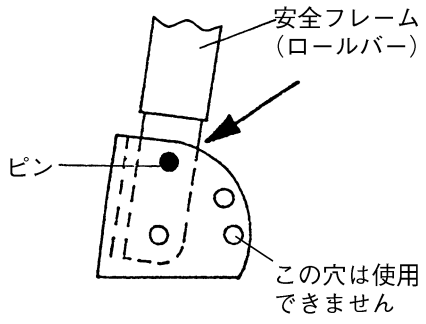
1．安全作業について

安全で快適な農作業をしていただくために，下記のことを守って行います。あわせて「**安全作業をするために**」の項をよく読み正しい取扱いをします。



⚠警告 傷害事故防止のために

◆安全フレームは，トラクタが転倒したときに身を守るものですから，安全フレームを「おこして」矢印の位置にピンをセットして使用してください。



◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトをしてください。

◆安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。

◆高さ制限のある屋内，果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおして行うことができますが，この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトはしないでください。

◆たおして使用するときは，フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり上げて当たらないことを確認してください。

◆安全フレームに別部品を溶接したり，穴をあける等の改造はしないでください。

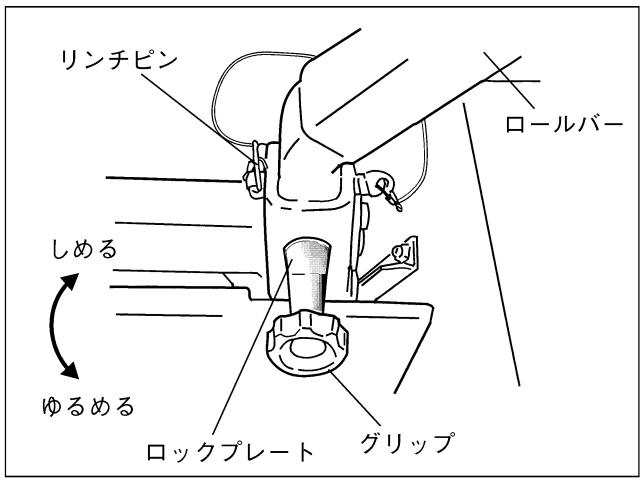
◆万一，事故により安全フレームが変形した場合は，新しい部品と交換してください。

◆交換部品は，純正部品を使用してください。

2．安全フレームのたおしかた・おこしかた

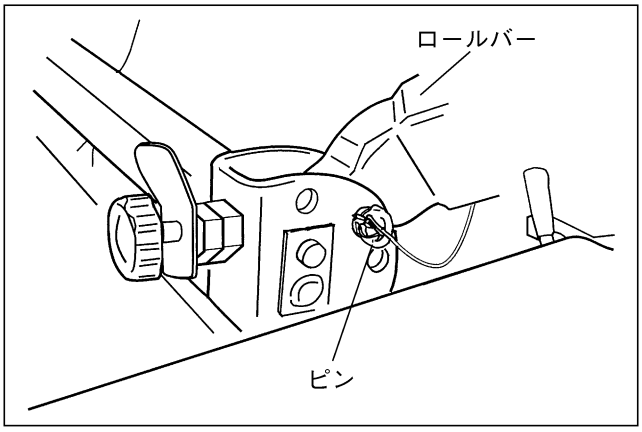
安全フレームを「**たおす**」または「**おこす**」ときは，次の要領で行います。

❶ たおしかた

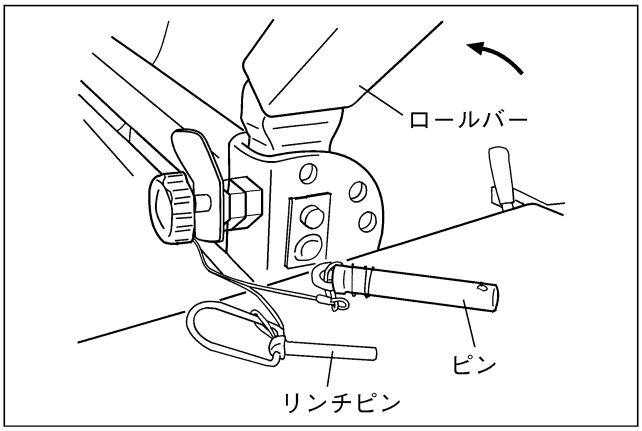


(1) リンチピンを抜きます。
(2) ロックプレートでロックナットをゆるめ，ピンが手で抜けるまでグリップをゆるめます。
(3) 反対側も同様にリンチピンを抜き，ロックナットとグリップをゆるめます。
(4) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
(5) ロールバーを後方にたおした位置で左右のピンを差込みます。
(6) 左右のリンチピンを差込みます。
(7) ロックプレートでロックナットを締込んでグリップを固定してください。

❷ おこしかた



(1) 左右のリンチピンを抜きます。
(2) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
(3) ロールバーを前方におこして直立にした位置で左右のピンを差込みます。
(4) 左右のリンチピンを差込みます。



(5) グリップをいっぱい締込みます。
(6) ロックプレートでロックナットをいっぱい締込んでおきます。
(7) 反対側も同様にグリップとロックナットをいっぱい締込んでおきます。

4．電装関係の取扱い

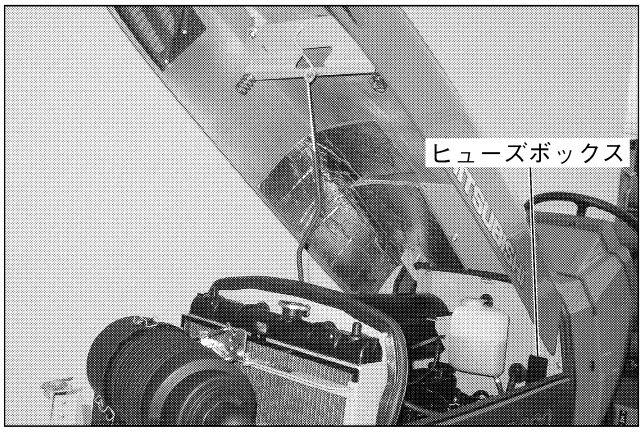
1．ヒューズの取扱い

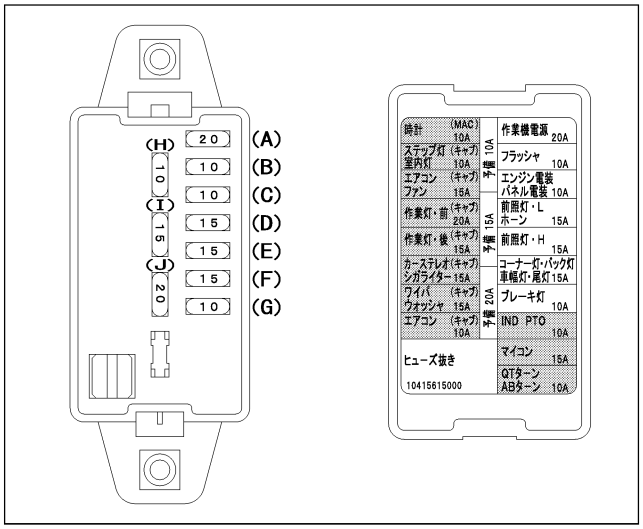
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズを設けています。

運転中，電気系統に異常を確認したときは，ヒューズが切れていないかチェックします。

❶　ヒューズボックス

エンジンルーム左側





(1)（A）のヒューズ溶断　（20A）
- 作業機用電源が作用しません。

(2)（B）のヒューズ溶断　（10A）
- 方向指示灯が点灯しません。

(3)（C）のヒューズ溶断　（10A）
- エンジンが作動しません。
- エンジン回転中に溶断するとエンジンが停止します。
- 前照灯，メータ照明が点灯しません。
- ホーンが鳴りません。

(4)（D）のヒューズ溶断　（15A）
- 前照灯の下向きランプが点灯しません。
- ホーンが鳴りません。

(5)（E）のヒューズ溶断　（15A）
- 前照灯の上向きランプが点灯しません。

(6)（F）のヒューズ溶断　（15A）
- バックライトが点灯しません。
- 車幅灯が点灯しません。
- 尾灯が点灯しません。

(7)（G）のヒューズ溶断　（10A）
- ブレーキ灯が点灯しません。

(8)（H）・（I）・（J）のヒューズ
- スペアヒューズです。

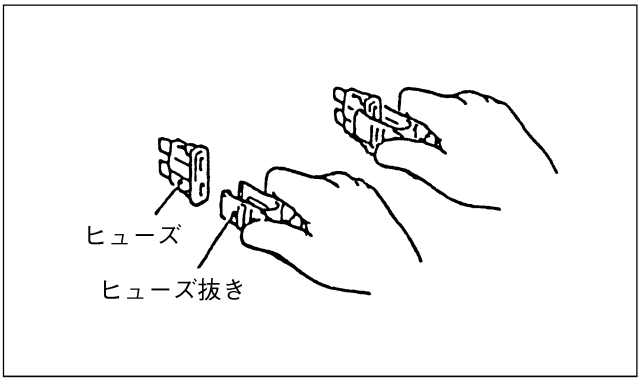
・ヒューズの交換

⚠警告　火災防止のために

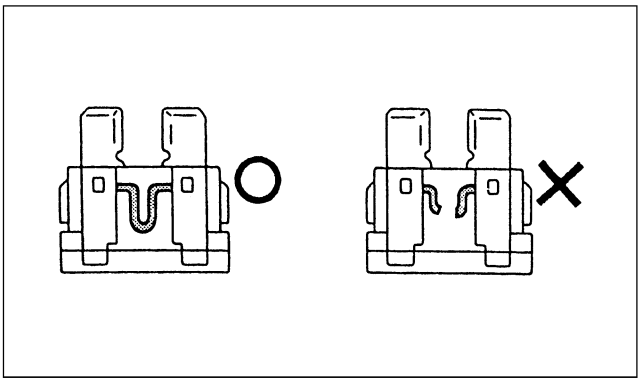
◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1)　キーを《STOP 切》にします。

(2)　ヒューズ抜きを使ってヒューズを引抜きます。（ヒューズ抜きはヒューズボックスの中に入っています。）



(3)　ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。

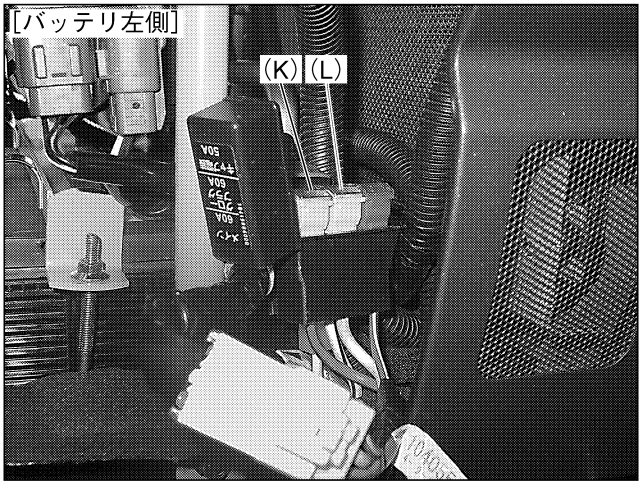


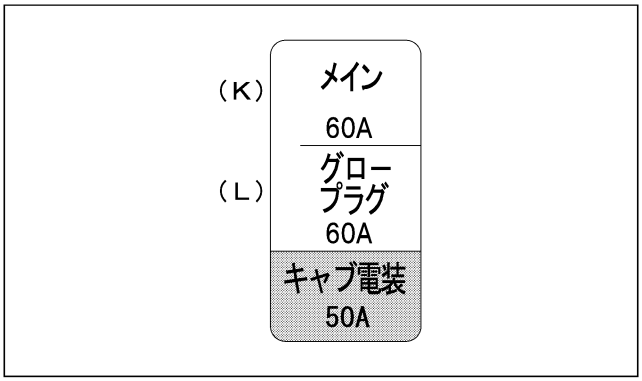
取扱いのポイント

- ヒューズボックスを開けるときは，ボックス蓋上下の凸部を押すように持ち，手前に引いてください。
- 交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❷　ヒューズ（大電流用）

・大電流用ヒューズが切れたときは,「お買いあげ先」で点検を受けてください。





(1)　（K）のヒューズ溶断（60A）

・全ての電気系統が作動しません。

(2)　（L）のヒューズ溶断（60A）

・グローが作動しません。

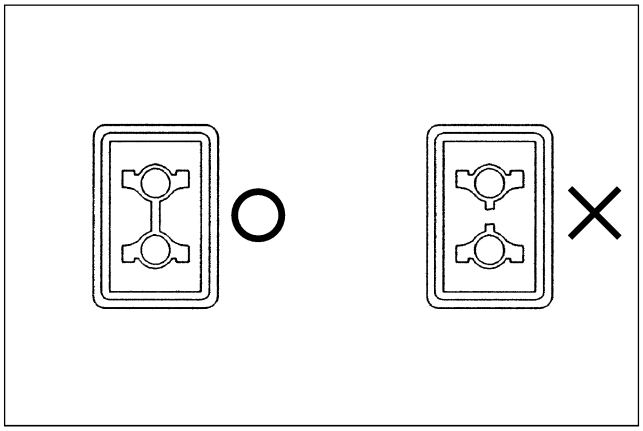
・ヒューズ（大電流用）の交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズ（大電流用）のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) バッテリ(－)端子を外します。

(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



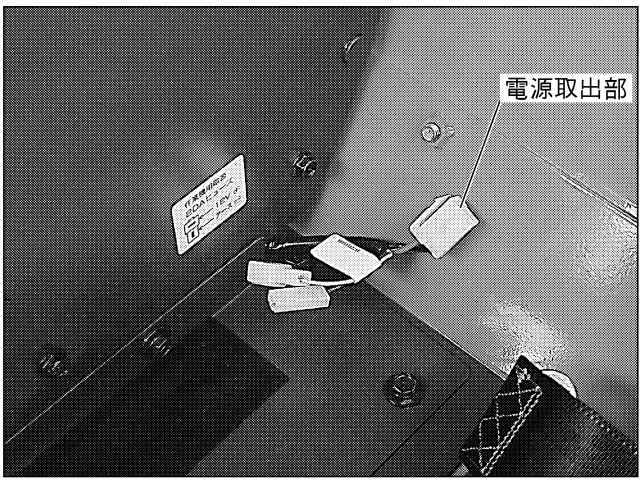
取扱いのポイント

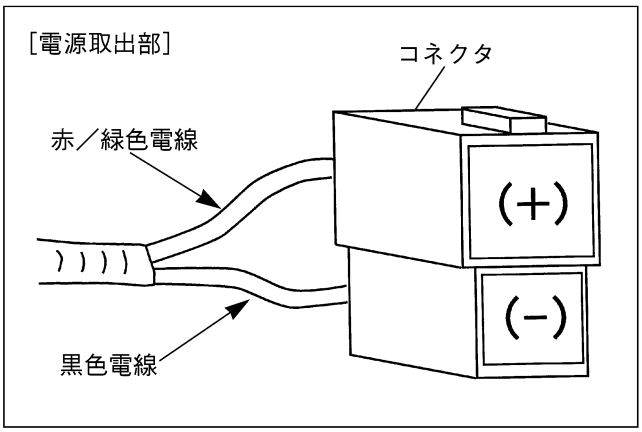
●バッテリ上側にあるヒューズボックスを開けるときは，奥側のロック部を引き外して開いてください。

2．作業機用電源の取扱い

・燃料ポンプ，作業灯キット，ローダ等作業機の電源として使用します。

・電源取出部は運転席右側後方にあります。





取扱いのポイント

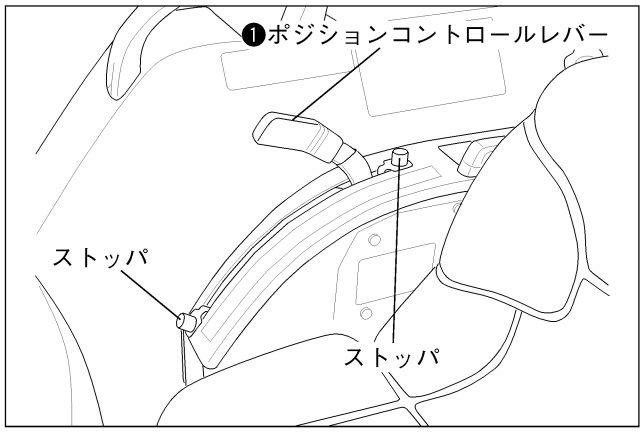
●この電源はDC12V，15A（最大）です。それ以上の負荷電流で使用するとヒューズが切れます。

●コネクタの（十），（ー）に針金等を差込まないでください。ショート（短絡）の原因になります。

5．油圧装置の取扱い

1．コントロールレバーの操作

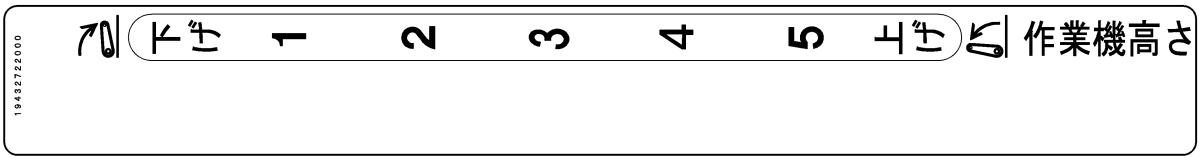
この油圧装置にはポジションコントロールレバーを備えています。



❶　ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーは作業機の位置（高さ）を自由に決め，一定に保つことができます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。

・ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。
・ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると，作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。
・作業機を一定の高さに保ちたい場合は，「**ストッパ**」を任意の位置に固定しポジションコントロールレバーの位置を決めることにより，作業機の上げ・下げの位置は同じになります。

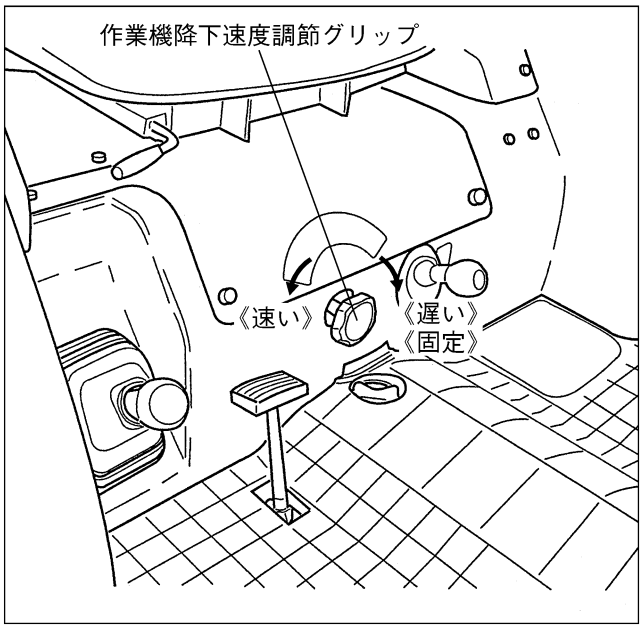


2．作業機降下速度の調節

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機を上げて，整備・点検・掃除を行うときは，エンジンを停止し作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。ポジションコントロールレバーを《下る》の方向にゆっくり動かして，作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。

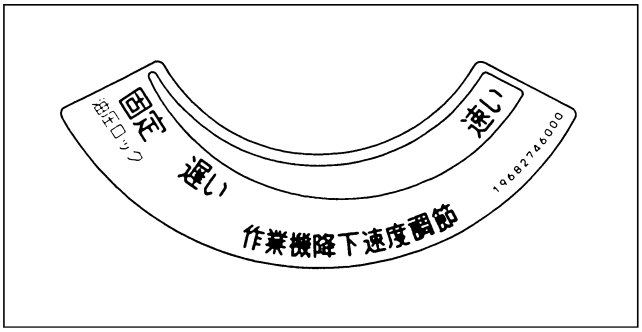
◆移動走行時は作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。



・作業機降下速度調節グリップはシートの下にあります。

・作業機降下速度調節グリップを回すことにより作業機の降下速度を調節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す《**遅い**》	遅くなる
左に回す《**速い**》	速くなる
右に軽く締込む《**固定**》	固定される



・作業機の種類，作業状況によって降下速度を調節してください。

ロータリ作業…降下速度を遅く

プラウ作業……降下速度を速く

3．パワーステアリングの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道，傾斜地ではエンジンを停止しないでください。作業中，走行中にエンジンが停止したときは，すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり，ハンドルが重くなり，衝突・転落等の事故になることがあります。エンジン低回転時もハンドルが多少重くなります。

◆高速走行時は，ハンドルが軽く感じますので，急にハンドルを切らないようにします。

◆エンジンをかけないで他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を5㎞/h以下としてください。

◆油圧シリンダ部のホースは「2年ごと」に交換してください。

このトラクタは，全油圧形パワーステアリングが装備されています。以下の内容を理解してから運転します。

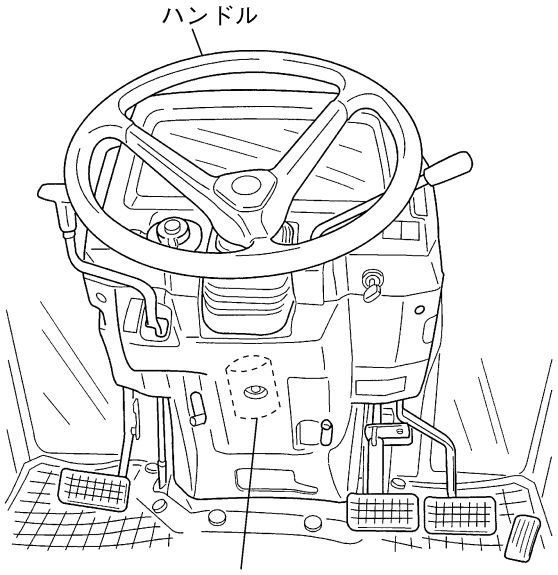
❶ ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので，いっぱいに切った後でも，力を加えることにより更にハンドルは回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため，必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにします。（リリーフ圧力以上の過大出力でパワーステアリング装置の寿命を縮める原因となります。）

❷ ハンドルを切ったときのみ車輪が切れますので，旋回から直進に移るときも，ハンドルを回して直進に戻します。

❸ エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

取扱いのポイント

- フロントローダ作業ですえ切り（走行しないでハンドルを切ること）ができないときには荷を軽くするか，前後に動くと操舵できます。
- 寒冷地等で始動時異音が発生し，使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時，油圧系から異音がする場合，油圧回路に空気が入っていることがあります。５秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けますので，異音はしなくなります。これでも音が止まらないときは「お買いあげ先」にご相談ください。



4．フロントローダの取扱い

❶ フロントローダ

フロントローダの油圧取出しは，トラクタ右側の油圧ブロックから取出します。

油圧ブロックのプラグ（P，N，Tポート）を外し，ホースを取付ます。

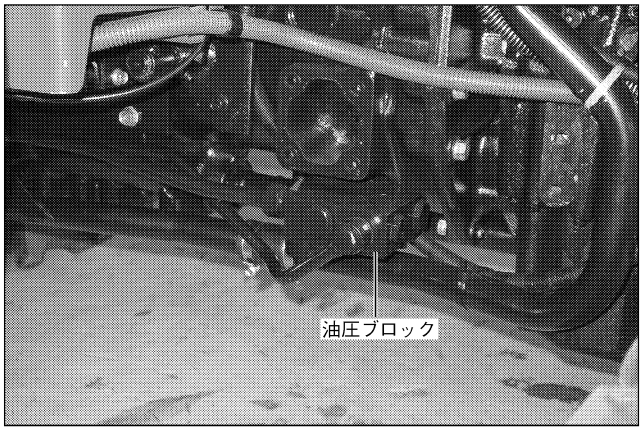
その後，図の切替プレートを“O”の位置から“S”の位置に切替ます。

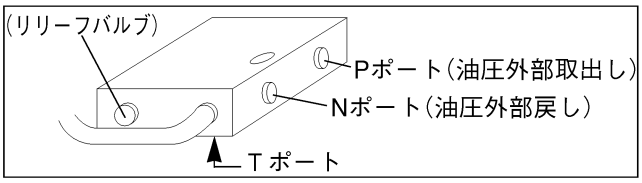
プラグを外したとき，油が洩れますので，下に油受けを置いてください。

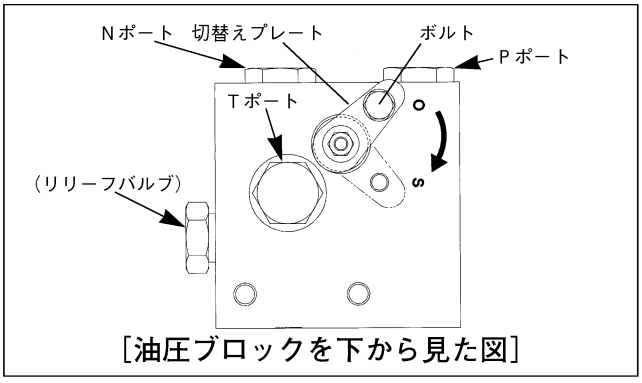
油圧取出しを取扱うときはフロントローダの取扱説明書に従って行います。

取扱いのポイント

- **フロントローダを装着するときは購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。**
- **フロントローダ以外の作業機で作業機側でコントロールバルブを準備している場合はこの油圧取出口を利用してください。但し，フロントローダとの共着はできません。**
- **フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を245kPa {2.5kgf／cm²} にしてください。**





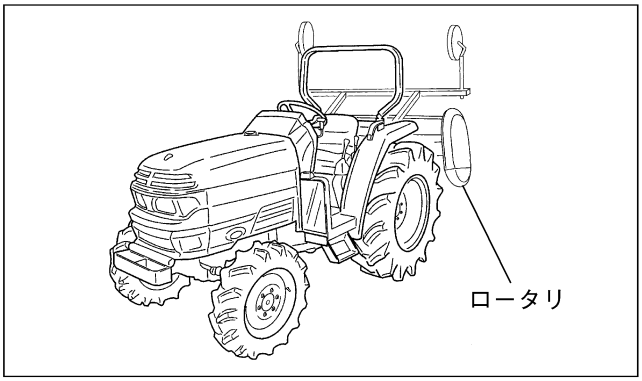


［油圧ブロックを下から見た図］

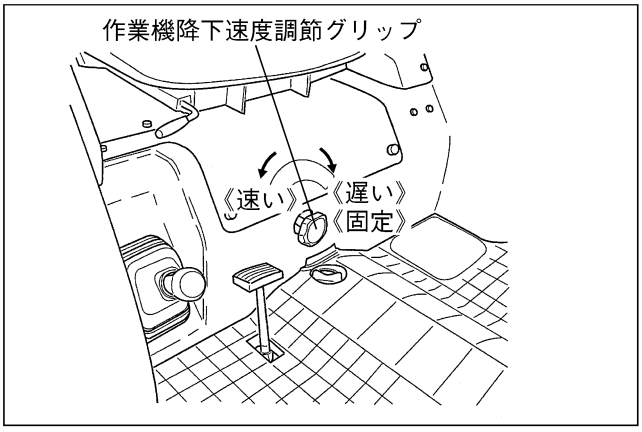
❷ 重量バランスの取り方

⚠警告 傷害事故防止のために

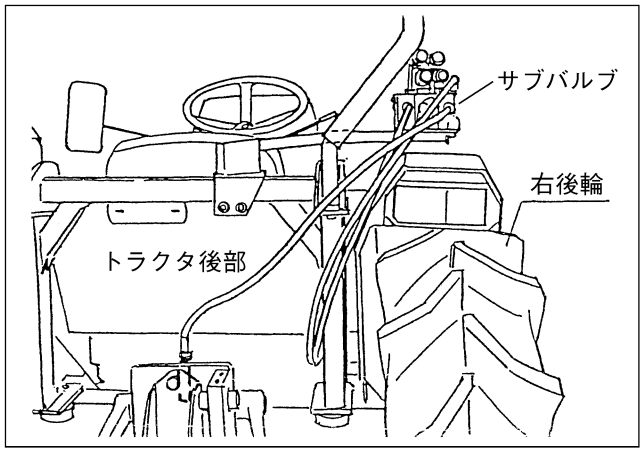
◆フロントローダ作業をするときは，後方に他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。

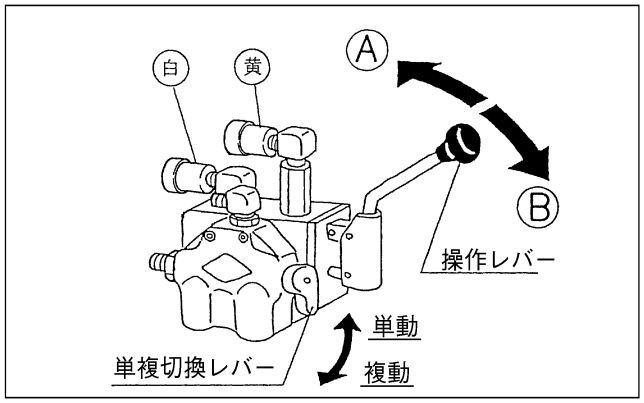


作業機はいっぱい上げて作業機降下速度調節グリップを《**固定**》にして作業機が下がらないようにします。



5．サブバルブの取扱い[オプション]





作動確認

レバーを操作する前に，㊪㊫ポートに必ず後部作業機のホース・継手類を取付けてください。

取扱いのポイント

- **後部作業機側にカプラが準備されていない場合は，本キット付属のカプラ（オス）をご利用ください。**

操作方法

❶ 単動の場合

⑴ 単複切換レバーを「**単動**」にします。

⑵ 後部作業機のシリンダからのホースおよびカプラを，バルブの㊪ポートにつなぎます。

⑶ 操作レバーをⒶ方向に動かすと，㊪ポートから圧油が出ます。

⑷ 操作レバーをⒷ方向に動かすと，後部作業機のシリンダから油が戻ります。
（トラクタのタンクに戻る。）

取扱いのポイント

- **単動の場合，レバーをⒷ方向に動かしても㊫ポートから圧油は出ません。**
- **上図は1連の場合。2連の場合も操作は同様です。**

❷ 複動の場合

⑴ 単複切替レバーを「**複動**」にします。

⑵ 後部作業機のシリンダからのホースおよびカプラを，バルブの㊪㊫ポートにつなぎます。

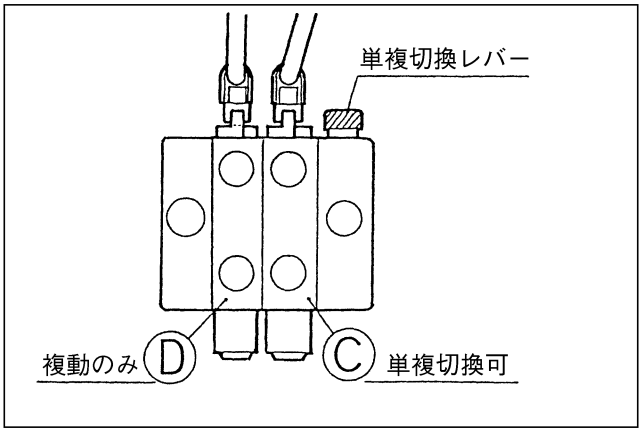
⑶ 操作レバーをⒷ方向に動かすと，㊫ポートから圧油が出ます。

⑷ 操作レバーをⒶ方向に動かすと，㊪ポートから圧油が出ます。

⑸ 動きを逆にしたいときは，㊪㊫ポートを逆につないでください。

取扱いのポイント

- **２連サブバルブの場合，単複切換ができるのは単複切換レバー横のバルブセクションのみです。（下図Ⓒ）**
- **他のバルブセクション（下図Ⓓ）は複動動作のみとなります。**



[オプションのサブバルブを装着する場合]

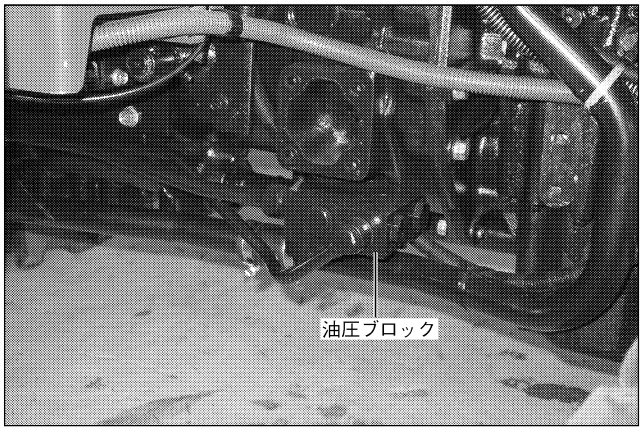
・作業機用キットのサブバルブ（１連用，２連用）を準備しています。

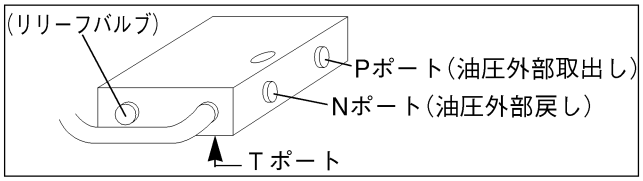
・サブバルブを装着するときは購入先にご相談ください。

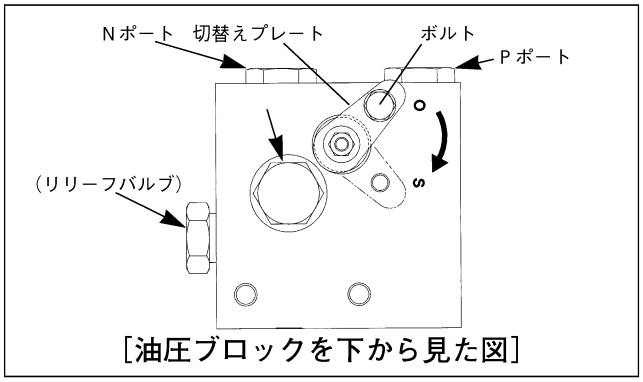
・フロントローダと共着する場合は装着・取扱いについて購入先にご相談ください。

取扱いのポイント

- サブバルブの油圧取出しは，トラクタ右側の油圧ブロックから取出ます。
  油圧ブロックのプラグ（P，N，Tポート）を外し，ホースを取付けます。
  その後，図の切替プレートを“O”の位置から“S”の位置に切替ます。
- プラグを外したとき，油が洩れますので，下に油受けを置いてください。
- 油圧取出しを取扱うときはサブバルブの取扱説明書に従って行います。





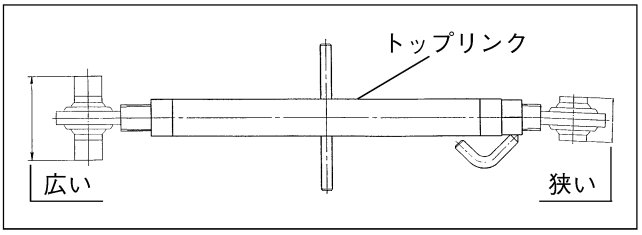


［油圧ブロックを下から見た図］

6．3点リンクの取扱い

1．トップリンク

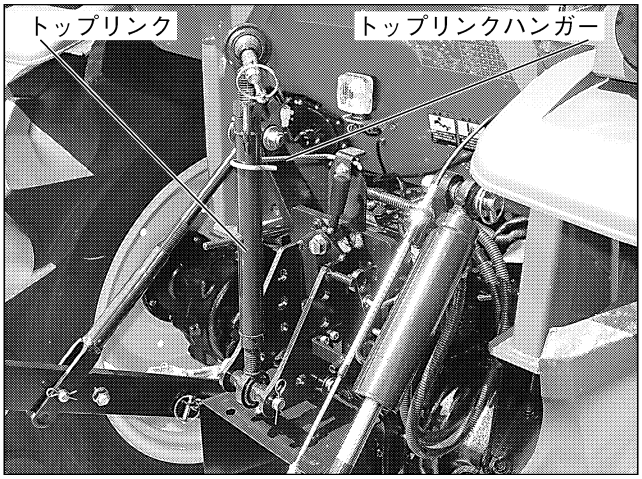
トップリンクブラケットにトップリンクの取付部が広い方を取付けます。





2．作業機を取付けないときは

・トップリンクハンガーにトップリンクをはめ込み固定します。



取扱いのポイント

● ロワリンクの振れ止めスプリングが装備されています。

3．ドローバ［オプション］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆けん引作業をするときは，純正ドローバを使用し，ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。

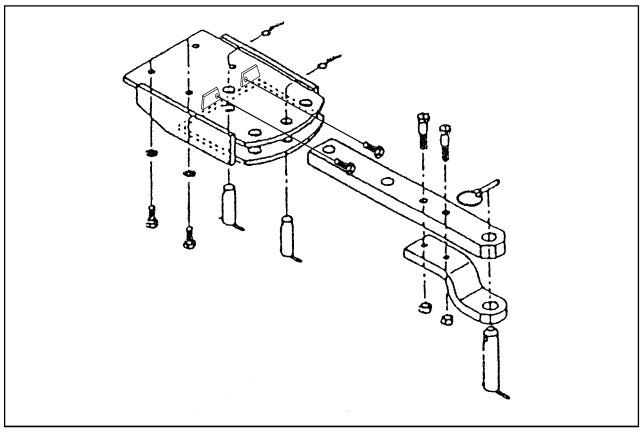
◆ドローバは，横方向へは引かないようにしてください。横方向では，ドローバが外れたり，フレームが曲がるおそれがあります。

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。
（44ページ参照）

・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し，無理なけん引は避けてください。

・けん引作業をする場合は，ドローバを使用します。他の所を使用してけん引すると転倒することがあります。

（装着の際はドローバの取扱説明書に従って行います。）



取扱いのポイント

● ロータリ等でジョイントを装着の際はドローバを横に振っておきます。

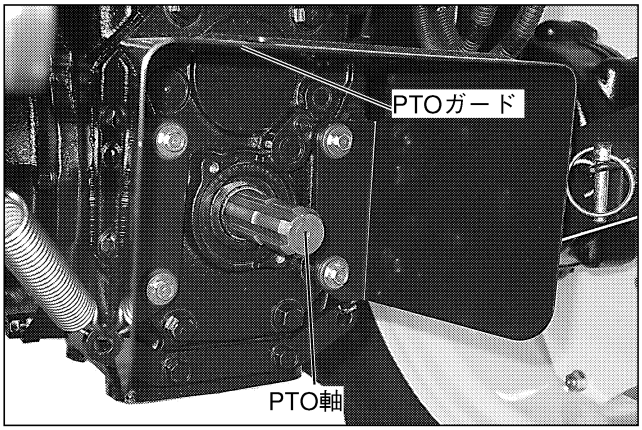
4．PTOキャップ

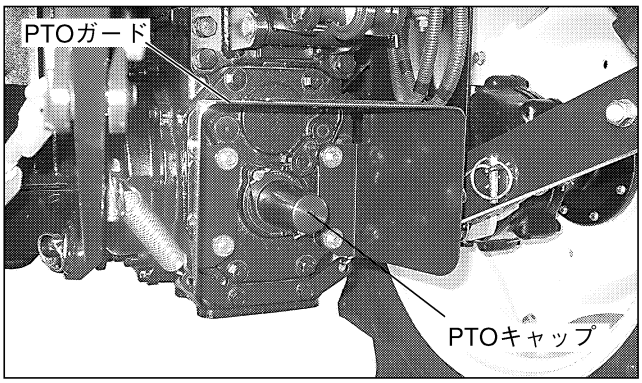
⚠警告 傷害事故防止のために

◆PTO軸を使用しないときは，PTOキャップを取付けてください。PTOキャップを取付けないで作業をすると巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。

◆PTOガードを取外さないでください。

PTOを使わないときは，PTO軸にグリスを塗布し，PTOキャップを取付けておきます。





5．ロータリの取付け

ロータリの取付けは「**ロータリ取扱説明書**」をよく読んでから行います。その他の作業機についても，作業機の取扱説明書をよく読んでから行います。

運転のしかた

1．運転まえの点検

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆点検や整備または給油・給水・注油するときには，トラクタを平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは燃料補給をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

1．点検項目

・点検は「**定期点検整備表**」（48～49ページ）を参照して作業前に欠かさず行なってください。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けてください。

点検個所			処置
運転まえに	エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・レベルゲージの上下限線の間に油量があれば良い。	・不足時は油面がレベルゲージの刻み線「**上限**」になるまで補給する。（54ページ参照）
	冷却水（ラジエータ）	・リザーブタンクに適量あるか。（給水レベルの上限と下限の間にあること）	・不足していれば冷却水をリザーブタンクに適量補給する。（58～59ページ参照）
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・ラジエータスクリーンの目詰まりはないか。 ・ラジエータフィンの目詰まりはないか。	・スクリーンを抜取り掃除してください。 ・圧縮空気で掃除してください。（62～ページ参照）
	エアクリーナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰まりはないか。	・エレメントを取外し掃除してください。（62ページ参照）
	タイヤ	・空気圧は適正か。 ・ボルト，ナットのゆるみはないか。	・前輪147kPa {1.5kgf/㎠}，後輪98kPa {1.0kgf/㎠} （66ページ参照）
	ホース	・燃料ホース，油圧ホースの損傷，外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料，油もれがないか。	・もれている場合，ホースの交換。（67ページ参照）
スタータスイッチを《入》にして	燃料計	・作業に必要な燃料があるか。	・ディーゼル軽油を補給する。（55ページ参照）
	ホーン	・ホーンスイッチを押せば鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。（21～23ページ参照）
	方向指示灯等の保安部品	・正常に作動するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。（21～23ページ参照）
エンジンを始動して	インジケータランプ	・グロー，チャージ，エンジンオイルランプは消灯するか。	・エンジンオイルを補給する。・充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。
	回転計（タコメータ，アワメータ）	・正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。
	ステアリング及び各レバー類	・ハンドルを回し正常に作動するか。 ・各レバーを操作し正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。
	ブレーキペダル クラッチペダル	・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。

2．運転操作のしかた

各項目の操作手順に従って行なってください。

1．エンジンの始動

⚠警告 傷害事故防止のために

◆安全フレームをおこしてください。
◆ステップの左側から乗降してください。
◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
◆トラクタに乗車する前に，トラクタの外周を見て回り，異常がないことを確認してください。
◆主変速，シャトル変速，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし，駐車ブレーキをかけてから，エンジンを始動してください。
◆エンジンの始動，発進するときは，周囲の人に合図をしトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
◆エンジンの始動はシートに座って，シートベルトをしめてから行なってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆トラクタや作業機に子供等，人や物を乗せないでください。
◆暖機運転は主変速，シャトル変速，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

❶ 左右のブレーキペダルを連結し駐車ブレーキをかけておきます。

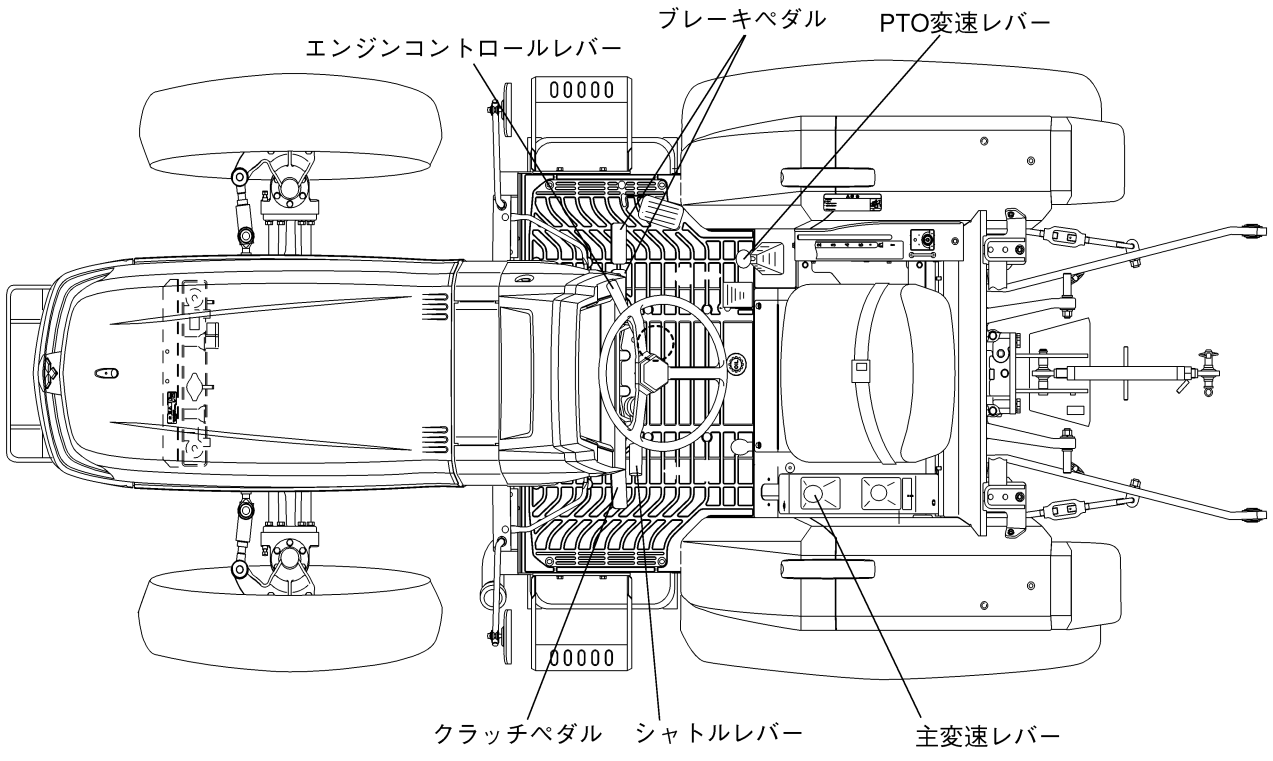
❷ 主変速レバー，シャトル変速レバー，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にします。

❸ エンジンコントロールレバーをいっぱいに押し出します。



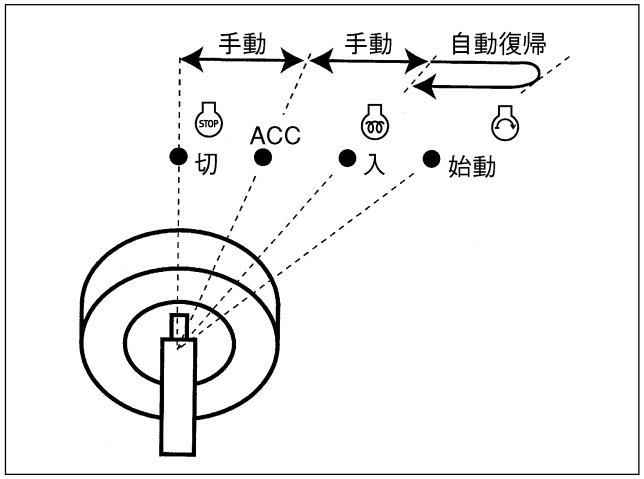
❹ クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

❺ キーを《 入》にすると ランプ， ランプ， ランプが点灯します。

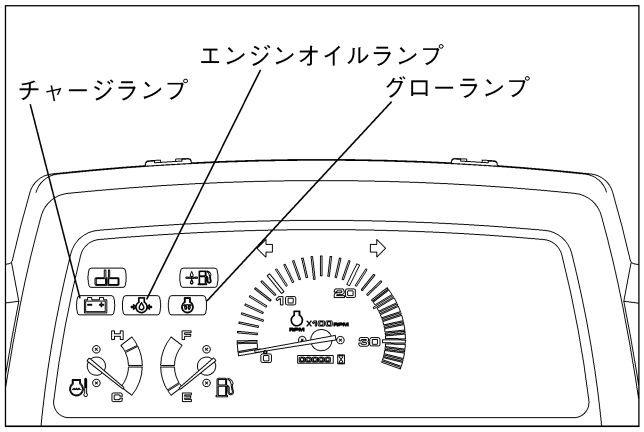


❻ ランプが消灯してから，キーを《 始動》にします。

❼ 始動したら，ただちにキーより手を離します。キーは自動的に《 入》の位置に戻ります。



❽ ランプ，ランプが消えれば正常です。消えないときは，すぐエンジンを停止して点検します。



❾ エンジン回転を約1,500回転にして暖機運転します。（約 5 分間）

取扱いのポイント

- クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。
- エンジンが少しでも回転しているときはキーを《 始動》にしないでください。
  故障の原因となります。
- 始動操作を繰返した場合，ランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか，点灯時間が短いことがありますが，保護回路が作動するためで，故障ではありません。
- 暖機運転は，寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると，エンジンの寿命を短くします。
- 寒冷時の始動

・下表を参照し気温にあったエンジンオイル，燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

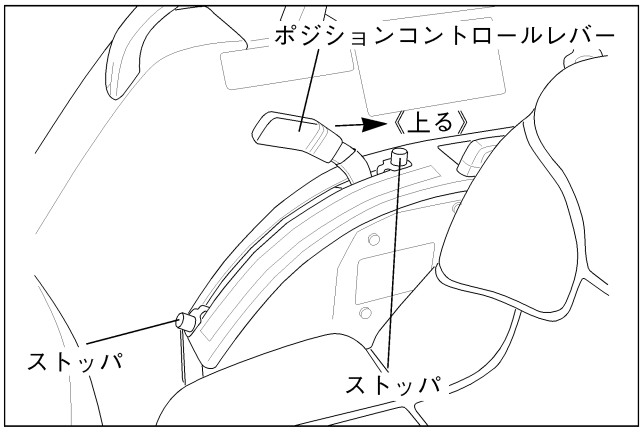
気温(℃)	−20	−10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W−30		SAE20		SAE30
燃料（軽油）	JIS特3号	JIS3号	JIS2号		

2．発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆発進するときはクラッチペダルをゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。

❶ ポジションコントロールレバーを後方にゆっくり引き，作業機を持上げます。



❷ エンジン回転を約1,500回転位にします。



❸ クラッチペダルを，いっぱい踏込みます。

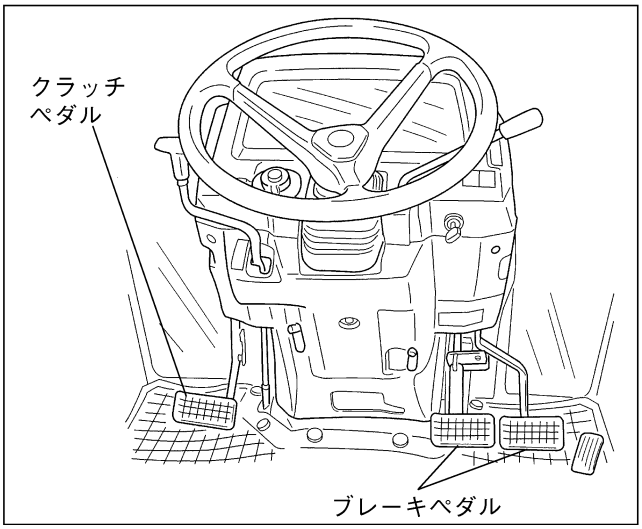
❹ 主変速レバー・副変速レバー・シャトルレバーを所要変速位置に入れます。

取扱いのポイント

- **変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで，行なってください。**
- **変速が入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度クラッチペダルを踏み直してから変速操作を行なってください。**

❺ ブレーキペダルを強く踏込み，駐車ブレーキを外します。

❻ クラッチペダルをゆっくり離して発進します。

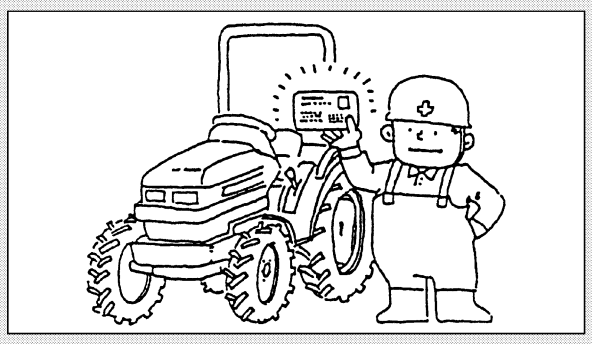


3．走行のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆公道を走行するときは，運転免許証を携帯し，交通法規を守り，安全のためヘルメットを着用してください。

- 作業機を装着しない。
- 補助車輪はつけない。
- 公道では低速車線を走行する。



◆運転者の他に子供等，人や物をのせないでください。

◆移動走行するときは，左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり,車体が急旋回して,転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆デフロックの解除を確認してください。

◆移動走行時には作業機降下速度調節グリップを《固定》にして作業機の落下を防止してください。

◆発進・旋回，傾斜地，荒地では低速にし，急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。

◆走行中は，クラッチペダルに足を置いたり主変速レバーに手を置いたままにしないでください。

◆重い作業機を装着すると，ハンドル操作をしても思うように旋回できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。

◆進路変更するときは，方向指示灯スイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。

◆バックミラーで後続車を確認し，追越しの妨害にならないようにしてください。

◆夜間走行時，対向車とすれ違うときは，前照灯を下向きにし，対向車の妨害にならないようにしてください。

❶　デフロックが解除されていることを確認します。

❷　作業機降下速度調節グリップを《**固定**》にして作業機の落下を防止します。

❸　走行スピードはフートアクセルペダルで調整します。

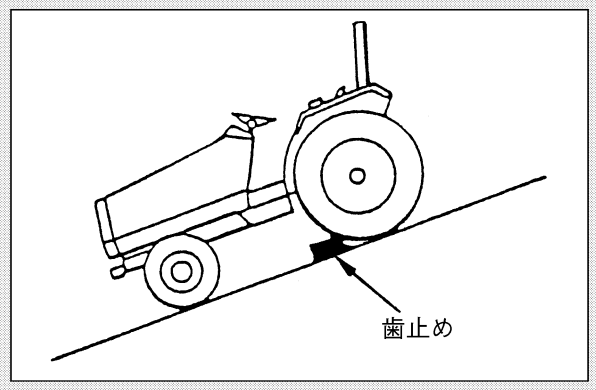
4．停止のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。

◆駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。

◆傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し変速レバーを低速位置に入れると共に後輪に歯止めをしてください。



◆作業機をおろすときはトラクタ，作業機の周囲に子供等，人を近づけないでください。

◆トラクタを離れる場合は，キーを抜取ってください。

⚠警告 火災防止のために

◆トラクタを停止するときは，乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると，火災のおそれがあります。

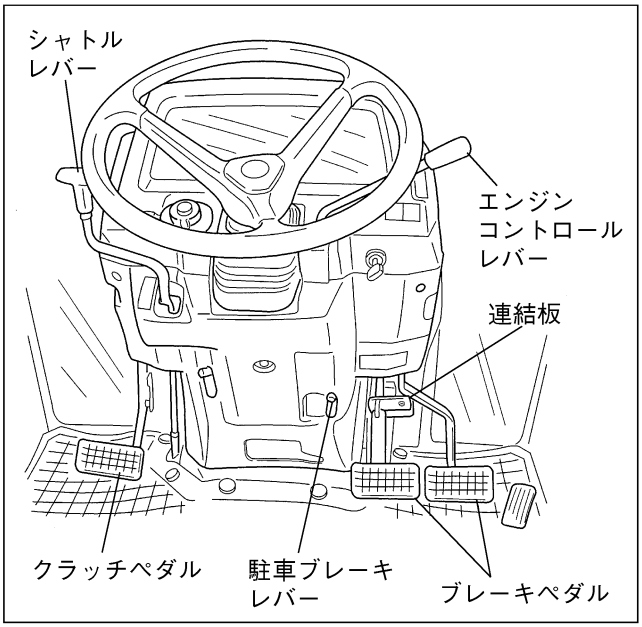
◆停車時，エンジンを空吹かししたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火することがあります。

❶ エンジンコントロールレバーを前方に押して，エンジンを低速回転にします。

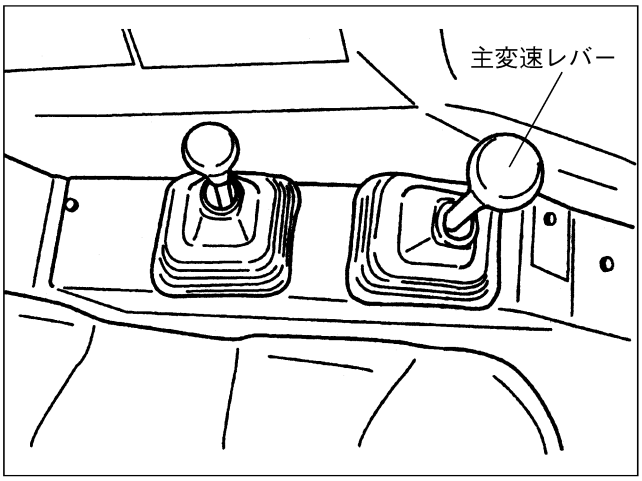


❷ ブレーキペダルとクラッチペダルを踏込んで停止します。

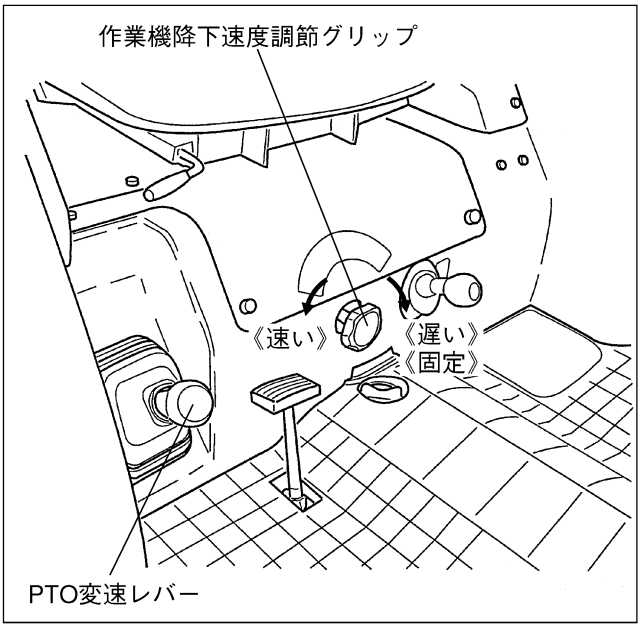
❸ 左右のブレーキペダルが連結してあることを確認し，駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキをかけます。ブレーキペダルより足を離します。



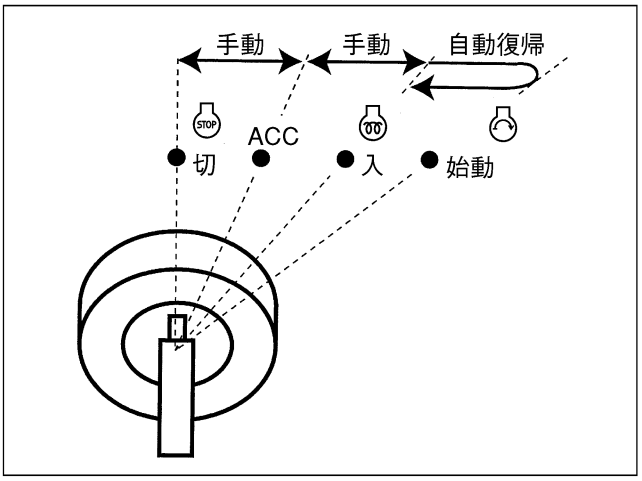
❹ 主変速レバー，シャトルレバーおよびPTO変速レバーを「《N》(中立)」にしてから，クラッチペダルより足を離します。



❺ 作業機降下速度調節グリップを《**速い**》方向に回して作業機をおろします。



❻ キーを《 **切**》にします。



取扱いのポイント

- **作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず，アイドリング回転で 5 分間ほど回転させてください。**
  すぐ停止させますと，エンジンの冷却が悪くなり，寿命を縮めます。

5．自動車への積込み・積降ろし

⚠警告 傷害事故防止のために

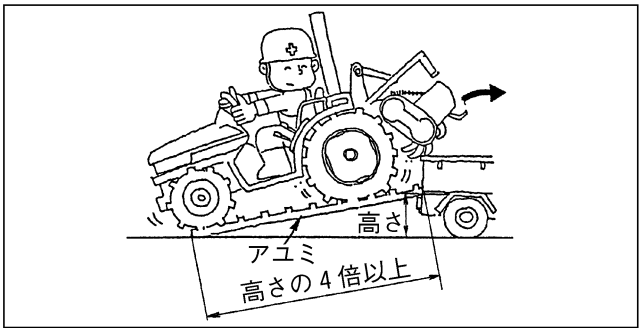
◆補助者の立会い，誘導のもとに行います。
◆トラクタの周囲に子供等，人を近づけないでください。
◆アユミは，充分な強度，幅（前後輪が外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用してください。
◆トラクタの重量で，アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで行なってください。
◆アユミのフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように荷台に対して真っ直ぐに掛けてください。
◆アユミの上でのクラッチ操作，変速操作をしなくてもいいように，前後輪のタイヤをアユミに，真っ直ぐにのせてください。
◆自動車への積込み，積降ろし中は，変速レバー，クラッチペダル，デフロック，片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落するおそれがあります。
◆積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行い，必要以上のハンドル操作はしないでください。
◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。
◆トラックで輸送するときは駐車ブレーキをかけロープで固定してください。

❶ 積載重量を超えない自動車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車はエンジンを停止し変速を「**1速**」か「**バック**」に入れて駐車ブレーキをかけ，歯止めをします。

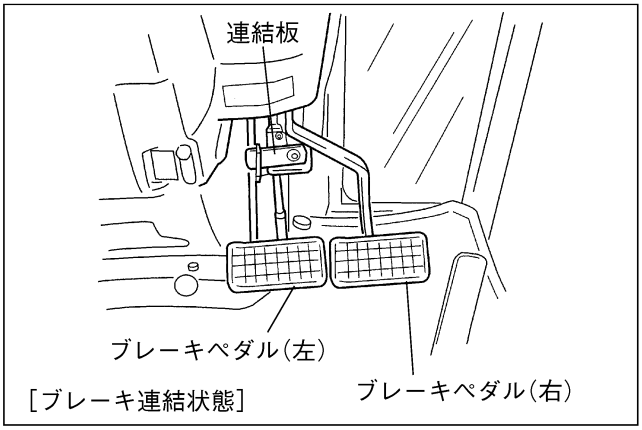
❷ アユミは，充分な強度，幅（前後輪のタイヤが外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用し，トラクタのタイヤの間隔に合わせ荷台に対し真っ直ぐにかけます。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの4倍以上
幅	45㎝以上
数量	2枚
強度	1枚が1,500㎏以上の重量にたえるもの

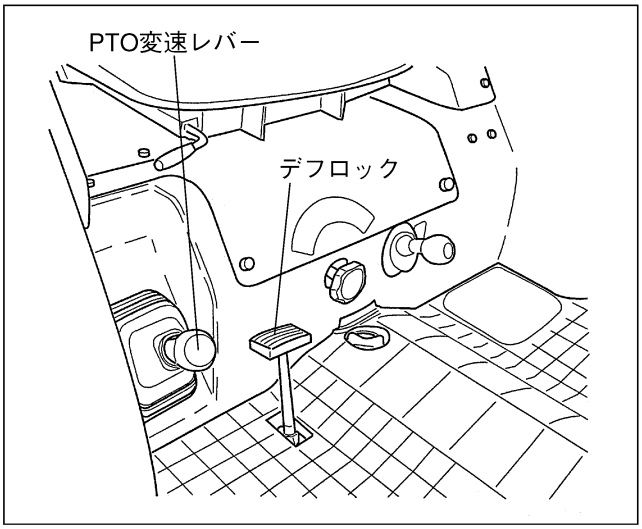


❸ 左右のブレーキペダルを連結します。

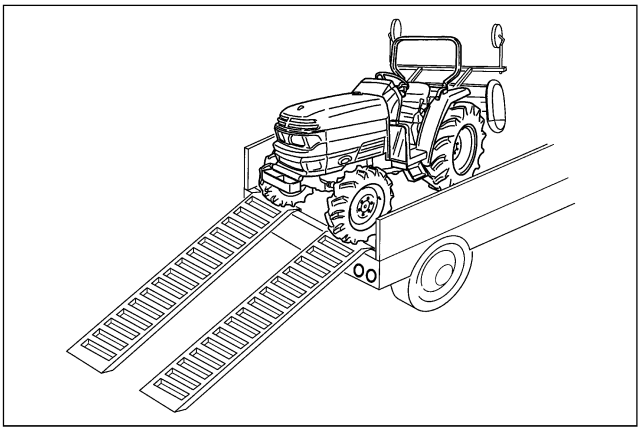


❹ デフロックが解除されていることを確認します。

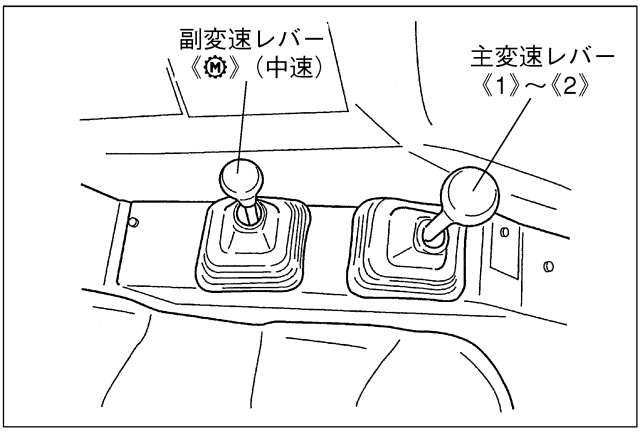
❺ PTO変速レバーを「《**N**》(**中立**)」にします。



❽　トラクタのタイヤとアユミを一直線上に合わせ，作業機をいっぱいに上げます。



❾　変速は低速位置（下図に示す以下の速度）で４駆切替レバーを《４WD》にし，積込みは後進，積降ろしは前進で行います。



❿　途中でエンジンが停止した場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，徐々にブレーキをゆるめ，いったん下まで降りてエンジンを再び始動します。

⓫　ハンドル操作は脱輪しないように慎重に行います。

⓬　積込み後は，駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし，エンジンを停止し，変速を低速位置に入れロープでトラクタを固定します。

６．坂道での運転のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆坂道を走行するとき，左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。

◆下り坂では，エンジンブレーキを使用し，クラッチペダルは踏込まないでください。

◆下り坂では主変速，副変速，シャトルレバーを「《N》（中立）」にしたり，クラッチを切ったままで走行しないでください。

◆坂道では変速をしないでください。あらかじめ変速を低速位置にしてから走行してください。高速位置で急発進すると前輪がはね上がったり，トラクタがすべりおちたりして傷害事故を引起こすことがあります。

◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは，駐車ブレーキをかけ，変速を登りでは前進側に，下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをしてください。

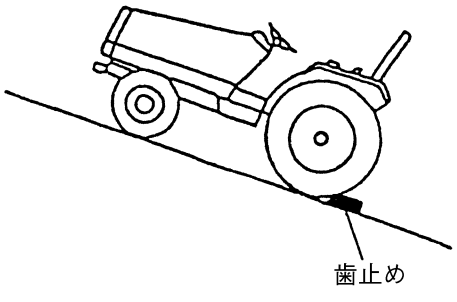
❶　坂道では，速度を落として走行します。

❷　坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。

❸　変速は坂を登りきってから，適切な変速位置に入れます。

❹　上り坂で発進する場合は，変速を低速位置に入れ，エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。

❺　急な下り坂ではエンジンブレーキを使用します。変速を低速位置にするとエンジンブレーキがよくききます。



作業のしかた

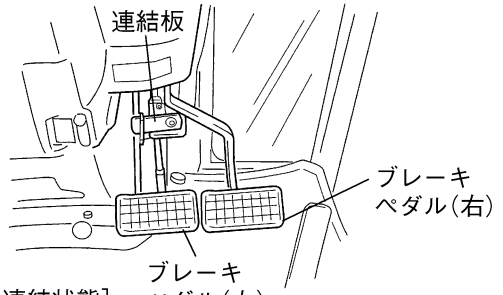
1．ほ場作業のしかた

1．ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りや，あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えはＰＴＯ変速レバーを中立にしてください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えは低速で，あぜに直角に行なってください。
◆高あぜ，急傾斜，溝越えは，アユミを使用してください。
◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。
◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

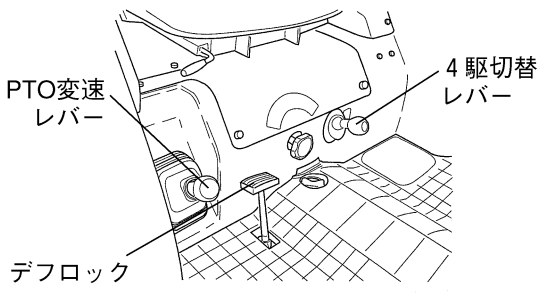
❶ 左右のブレーキペダルを連結します。



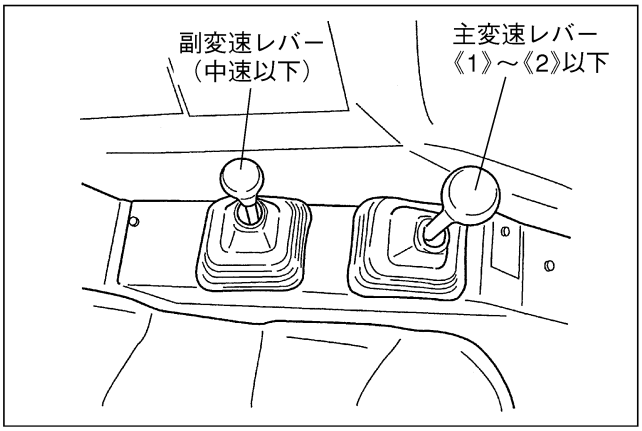
［ブレーキ連結状態］

❷ デフロックが解除されていることを確認します。

❸ PTO変速レバーを「《**N**》(**中立**)」にし，4駆切替レバーを《**入**》位置にします。



❹ 変速は低速位置（下図に示す以下の速度）にします。



❺ ゆるい傾斜を前進で登るときは，登り始めは，作業機を下げて行うと前輪が浮き上がりません。トラクタの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。

常に前・後輪のバランスを考えながら，操作します。

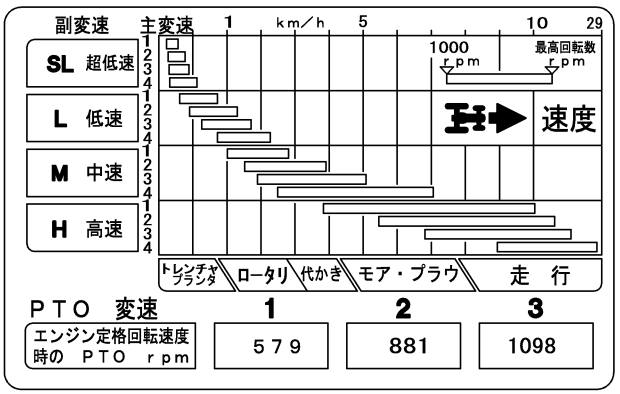
❻ 4輪駆動の特色を生かして，後進で上がると上がる能力が増します。そのときは，作業機をいっぱい上げて行います。

❼ ほ場への出入りの際は，途中で変速しないようにします。

2．作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度及びPTO回転速度は，作業内容，ほ場の条件によって異なります。安全で最適な速度で運転します。

❶ 走行速度



❷ PTO回転速度（エンジン定格回転時）

PTO		作 業 内 容	PTO回転速度
正転	1速	ロータリ耕うん・うね立	579
	2速	ロータリ耕うん・うね立・代かき・砕土	881
	3速	代かき・砕土	1.098

取扱いのポイント

- **一般作業機のPTO回転速度は，作業機の取扱説明書に従ってください。**

3．デフロックの使いかた

⚠警告　傷害事故防止のために

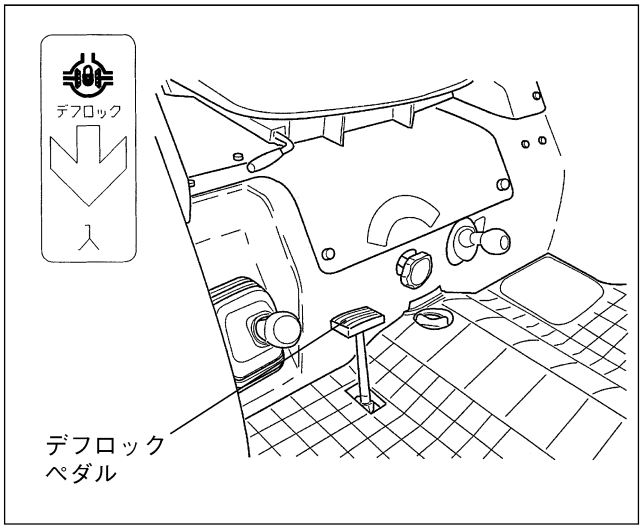
◆自動車への積込み・積降ろし及び移動走行するときは，デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると，ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると，思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏込みます。デフロックペダルを踏込むと，差動装置がロックされ，左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果がでます。

・軟らかいほ場

・プラウ作業



ペダルから足を離すとデフロックが解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など，片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが，使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

取扱いのポイント

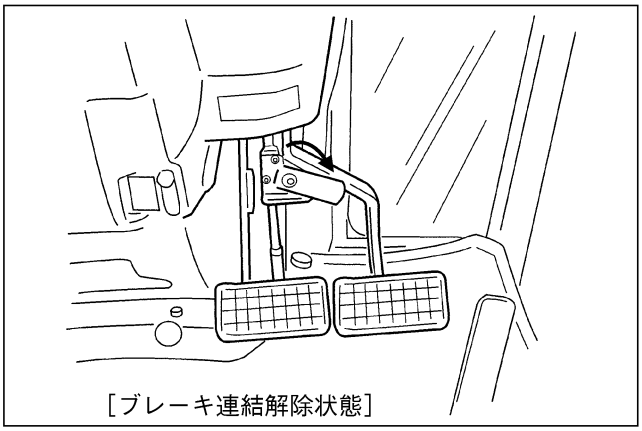
- デフロックを《入》にするときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
- 両輪の回転差が大きい場合は，一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。
- 解除しにくいときは，クラッチを切るか，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込んでください。
- 超低速でのデフロックは使用しないでください。

4．ほ場での旋回のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆急傾斜地では作業をしないでください。
急傾斜地で旋回すると，転倒による傷害事故を起こすことがあります。

❶　ほ場では，ブレーキペダルの連結板を外し，左右独立して使用すれば小さく旋回できます。そのときは旋回する側のブレーキを踏込みます。


［ブレーキ連結解除状態］

❷　作業速度やほ場の傾斜の度合を考慮し，周囲を確認して作業をします。

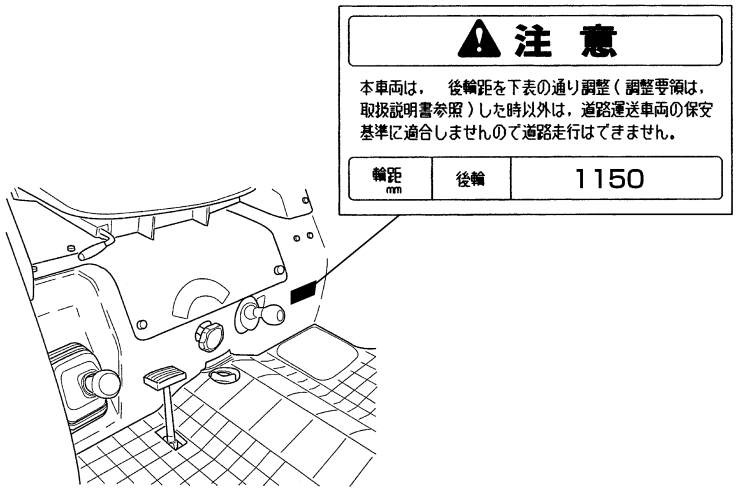
2．作業に必要な装置の使いかた

1．トレッドの調節のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
怠ると転倒による傷害事故を起こすことがあります。

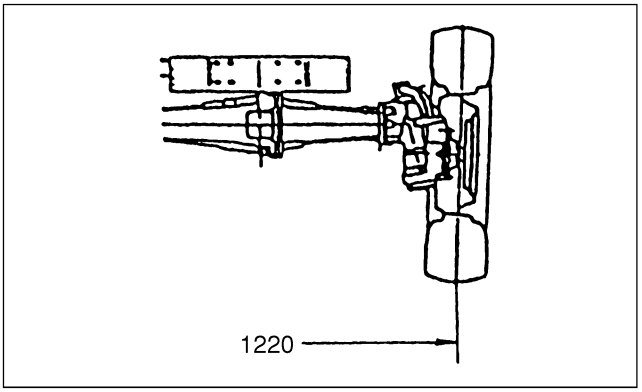
◆公道は指定輪距（シートの下のカバーに道路走行上の注意として指定輪距を貼付しています）で走行してください。



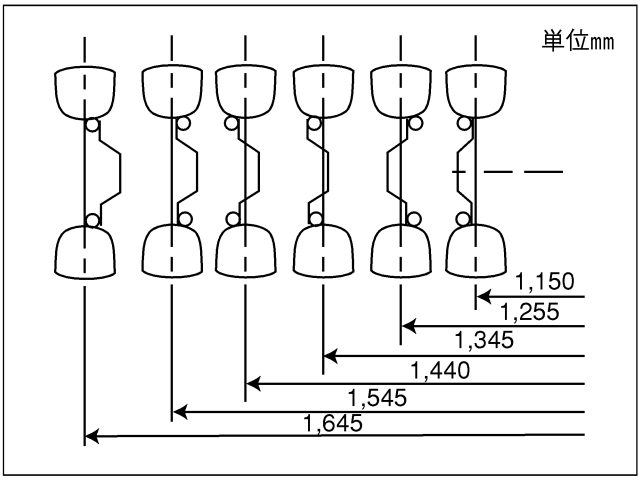
前，後輪トレッドは左右タイヤの入替え，またはリムとディスクの組替えにより行います。公道を走行するときは，指定輪距（※印）にします。

タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前輪トレッド(㎜)	後輪トレッド(㎜)		備　考
前輪	後輪		前輪	後輪	※（指定輪距）	※最小（指定輪距）	最　大	
8－18	12.4－28	4駆	1	6	1,220	1,150	1,645	

・前輪



・後輪

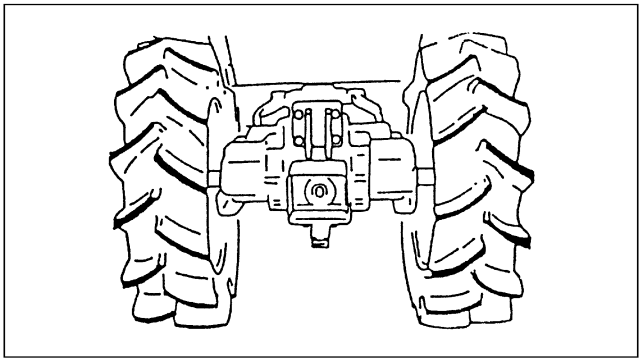


● タイヤホイル締付トルク
［ボルト］
前輪……152.0～171.6 N･m {15.5～17.5kgf･m}
後輪……152.0～171.6 N･m {15.5～17.5kgf･m}
［ナット］
後輪……152.0～171.6 N･m {15.5～17.5kgf･m}

● リムとディスクの締付トルク
後輪……196～215 N･m {20.0～22.0kgf･m}

取扱いのポイント

● トレッド調節するときはタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。
（後方より見て「ハ」の字になるように）



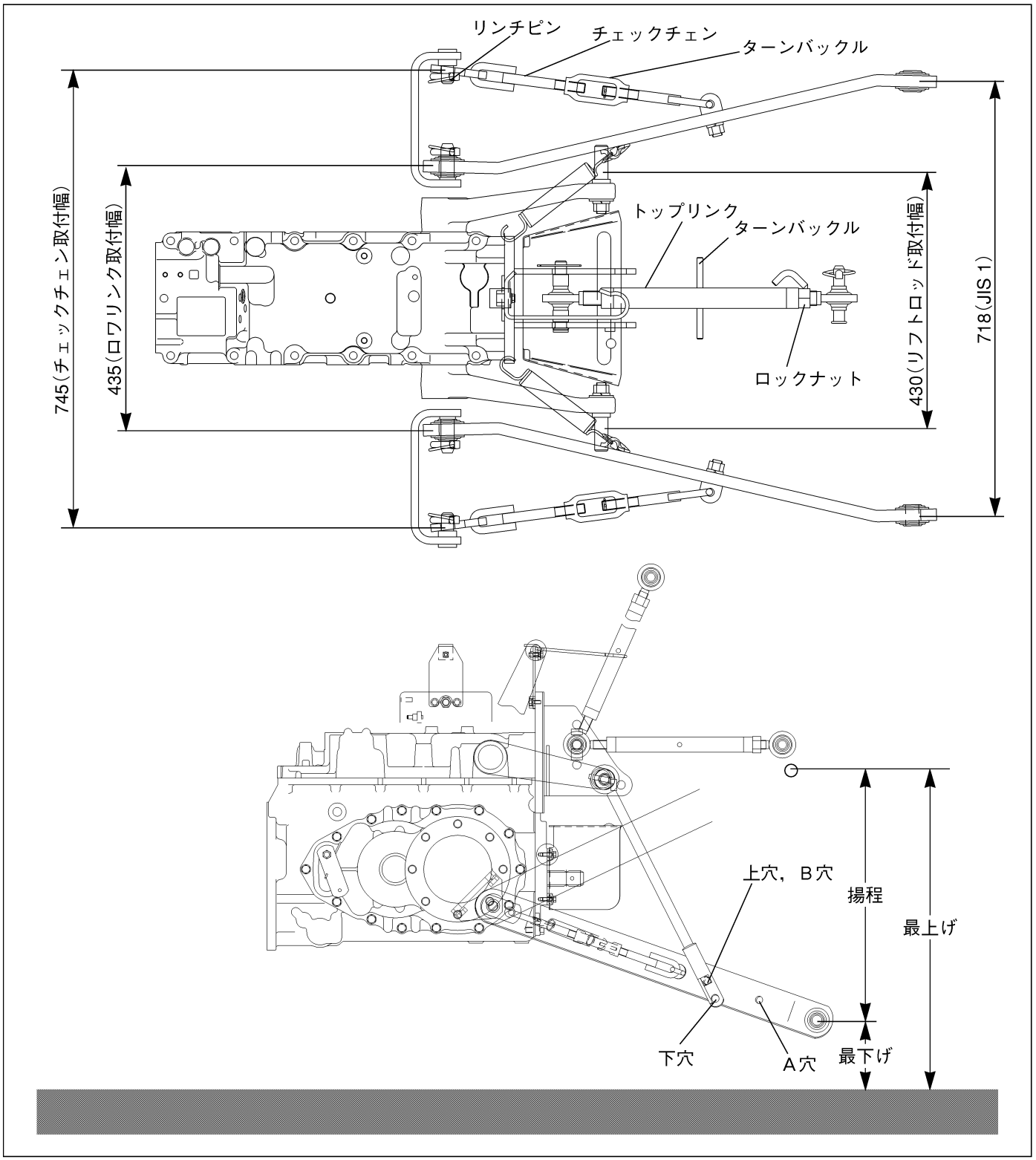
● トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。

2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付けるときは作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「**作業機の取扱説明書**」を参照してください。

❶ リフトロッド，トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。

・リフトロッド右（標準機）およびトップリンクの調整は，リンチピンを外し，ターンバックルを回して調整します。調整後リンチピンを取付けます。



❷ ロワリンク後方目玉の地上高　（単位㎜）

		ロワリンク	B穴	A穴
リフトロッド	上穴	最上げ	831	使用不可
		最下げ	256	
		揚程	575	
	下穴	最上げ	761	844
		最下げ	164	359
		揚程	597	485

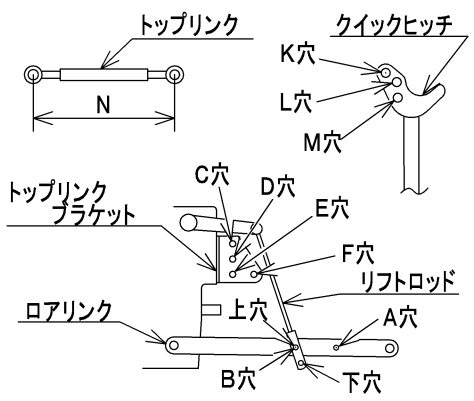
※A穴＝後穴，B穴＝前穴

❸ 3点リンクの取付け

3点リンクの取付けは作業機によって異なりますので，下表及び作業機の取扱説明書により取付けを行なってください。

10414736000

ロータリ･ドライブハロー取付要領　●ロータリを取付ける時は3点リンクを下表に合わせてください



装着方式（クイックヒッチ）	三菱スーパーヒッチ	松山ヒッチ	小橋ヒッチ	ササキヒッチ	スターヒッチ
リフトロッド取付穴	上	下	上	上	下
ロアリンク取付穴	B	B	B	B	B
トップリンクブラケット穴	F	F	F	D	E
トップリンク長さ(N) mm	460	473	540	545	562
クイックヒッチ取付穴	K	K	K	K	K

❹ チェックチェン

作業機の横振れをナットをゆるめターンバックルで次のように調整します。調整後は確実にナットをロックします。

⑴ プラウ，ハロー，サブソイラ等の作業機は，作業機取付部が左右に5～6㎝動く程度に調整します。調整後，作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。

⑵ ロータリ，モア等の作業機は，作業機取付部が1㎝程度左右に振れる程度に調整します。

取扱いのポイント

●作業機の横振れはポジションコントロールレバーで作業機を上げたときと下げたときに異なる場合がありますので作業機を上げ下げして振れを確認し，振れの最小値を上記調整寸法に合わせます。

3．作業機の取扱い

下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

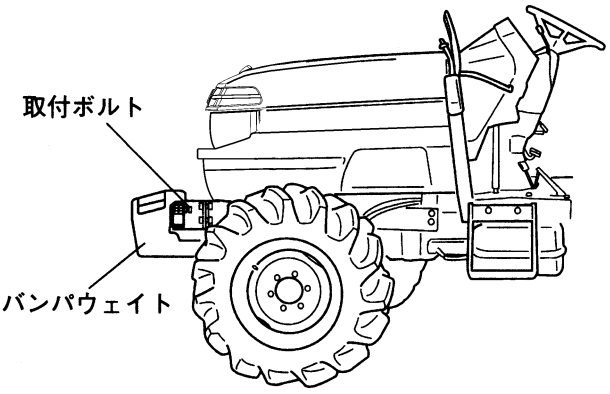
◆作業機の着脱は，平坦な場所で，作業機の取扱説明書に従って行なってください。
◆作業機を着脱調整するときは，トラクタの駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にして行なってください。
◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は，トラクタと作業機の間に人が入らないようにしてください。
◆重い作業機を連結または装着した場合は，トラクタにバランスウエイトを付けて，バランスを保ってください。
◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のＰＴＯ回転速度を守ってください。
◆けん引作業，傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
◆作業機を装着すると，長さが長くなりますので，旋回時は周囲を確認して行なってください。
◆公道を走行するときは，作業機を取外し別の自動車で運搬してください。
作業機を装着して走行すると道路運送車輌法の違反になります。
◆最大積載総質量がトラクタの1.5倍を越えるトレーラは，けん引しないでください。
ブレーキが効きにくくなり，事故の原因となります。

4．バンパウェイト（オプション）

⚠警告　傷害事故防止のために

◆重い作業機を連結または装着した場合は，トラクタのバンパにバンパウェイトを付けて，バランスを保ってください。

・バンパウェイトは純正品を使用してください。
・バンパウェイトを取付けるときは固定ボルトで固定してください。
・バンパウエイトの取付けについては「**お買いあげ先**」へご相談ください。



手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備するときは，トラクタを平坦な広い場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろし，エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆作業機を上げて，掃除・点検・調整・整備するときは，作業機降下速度調節グリップを《固定》にし，作業機が降りないことを確認し，作業機の下に固定脚を置いてください。
◆取外したカバーは，全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。

1．定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」を参考に点検・整備をします。
・「**定期点検整備表**」は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。

・**表示記号の説明**
○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔 運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	備考	参照ページ
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	軽油JIS２号又は３号・特３号	56
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		エレメント	56
	燃料ホースの劣化と洩れ	点検・交換	○			●			67
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●			ディーゼルオイルCD級以上SAE10W－30	54
	エンジンオイルフィルタ	交換		●（初回のみ）	●			フィルタ	55
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・掃除・交換	○					２年ごとに交換(ロングライフクーラント）及びラジエータ内部洗浄	58～59
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				ゴミの多いところでは作業前	62
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換		◎				１年ごとに交換	62
	ファンベルト	点検・調整・交換		◎				ベルト中央部押し 10～13㎜，損傷がある場合，張り調整代がなくなったら交換	63
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○						68～70
	電気配線（配線，接続部のゆるみ，損傷）	点検・修正	○					損傷の場合交換	67
	計器類	点検	○						－
本機関係	油圧オイルフィルタ	交換			●（初回のみ）		●		60
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	●（初回のみ）	●		純正油または，API.GL－４級以上で湿式ブレーキ用	59
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎	●（初回のみ）	●		純正油または，API.GL－４級　SAE80W	61
	タイロッド（左・右），ロッドエンド	点検・補給		◎				グリス適量	61
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				〃	65
	クラッチペダル	点検・調整	○					遊び　20～30㎜	63
	ブレーキペダル	点検・調整	○					遊び　20～30㎜	65
	各レバー類の作動	点検	○						11～18
	ボルト，ナットのゆるみ	点検	○						－
	タイヤ空気圧	点検	○					前輪　147kPa {1.5kgf／㎠}，後輪　98kPa {1.0kgf／㎠}	66
	トーイン	点検・調整				◎		０～10㎜	64
	パワステシリンダ油圧ホース	点検・交換						２年ごとに交換	67
	ハンドル	点検	○					遊び20～30㎜	66

取扱いのポイント

- 機械または，部品等を廃棄するときは「お買い上げ先」にご相談ください。
- 使用済み廃棄物の処理について

■廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

○機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

○地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

○廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，「お買い上げ先」，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

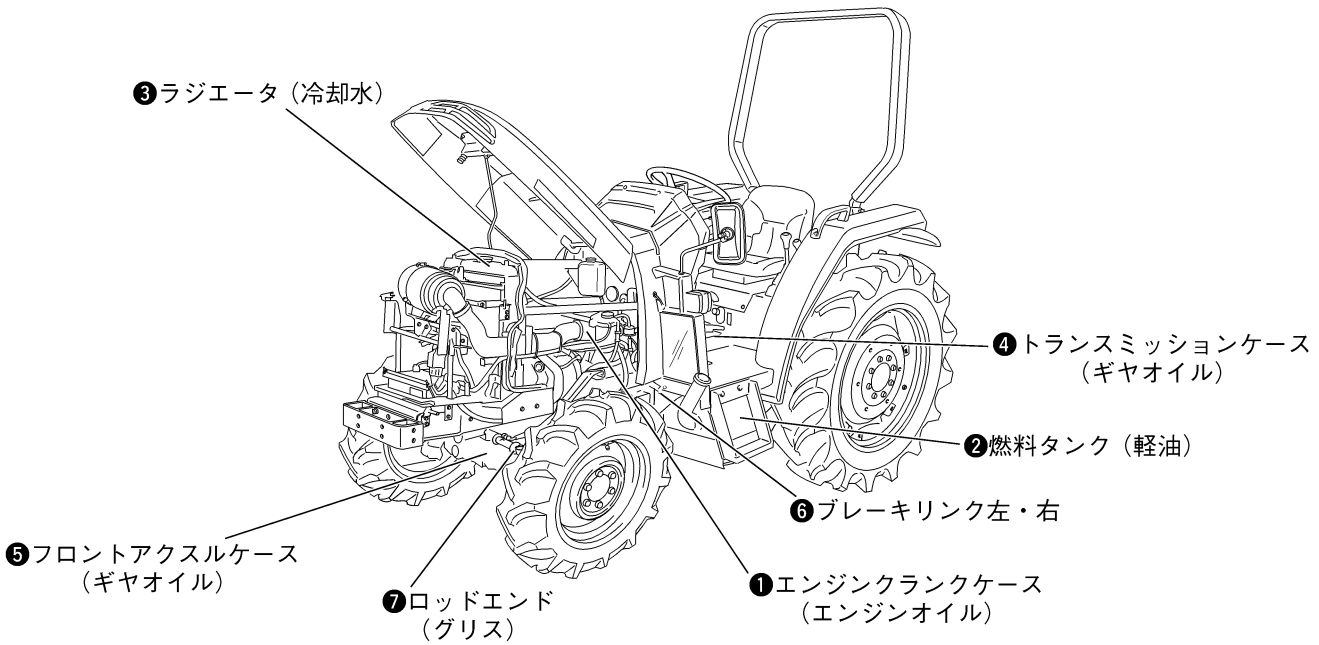
2．給油・給脂・給水のしかた

1．給油・給脂・給水個所

・工場から出荷のときは，各給油・給脂・給水個所ともオイル・グリス・冷却水は入っていますが，使用する前に点検します。

取扱いのポイント

● 各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。



2．給油・給脂・給水表

	No.	個所	種類	分類 APIサービス分類	分類 SAE粘度番号	容量 (L)	交換時間	参照ページ
全型式	❶	エンジンクランクケース	エンジンオイル	CD級以上	10W－30	6.5	作業前点検・100時間ごと交換（初回点検時50時間で交換）	54
	❷	燃料タンク	軽油	－	－	55	作業前点検（必要量補給）	55
	❸	ラジエータ	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	7.6	〃（〃）	58～59
	❹	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－4	純正油又は80W	40	初回100時間，後は200時間ごと交換	59
	❺	フロントアクスルケース	ギヤオイル	GL－4	80W	6.5	〃	61
	❻	ブレーキリンク（左・右）	グリス	－	－	適量	作業前点検・50時間ごと給脂	61
	❼	ロッドエンド…4個所	〃	－	－	〃	〃	61

●エンジンオイル……三菱農機純正油
　またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CD級以上，SAE・10W－30
●燃　　料……ディーゼル軽油　JIS 2 号（－10℃まで）
　JIS 3 号（－10℃から－20℃まで）
　JIS特 3 号（－20℃以下）
●ギ ヤ オ イ ル……：三菱農機純正油
　またはAPI分類GL－ 4 級以上，SAE・80Wのオイルで湿式ブレーキ適正のあるもの。
※使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。（83ページ）

取扱いのポイント

●トランスミッションオイルは工場出荷時はスーパーマルチSTOUオイルが入っています。

3．エンジンオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

◆オイルレベルゲージとテールパイプが近接しています。テールパイプに触れないでください。又テールパイプが冷えるまでオイルレベルゲージに触れないでください。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**
- **エンジンオイルは推奨オイルをご使用ください。**
- **オイルの粘度は，外気温によって下表のように使い分けてください。**

気温℃	−20	−10	0	10	20	30
エンジンオイル	SAE10W−30					
	SAE20W			SAE30		

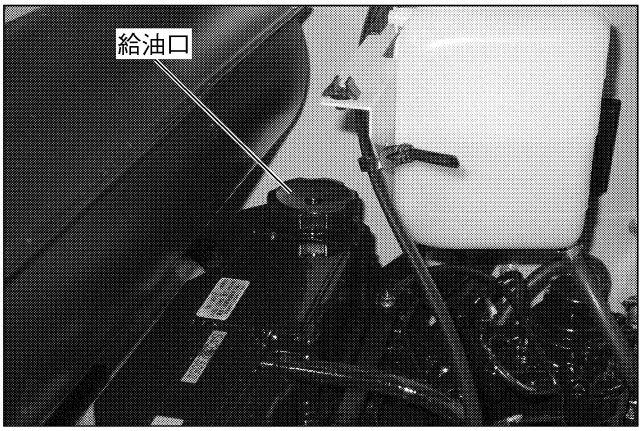
❶ エンジンオイルの点検

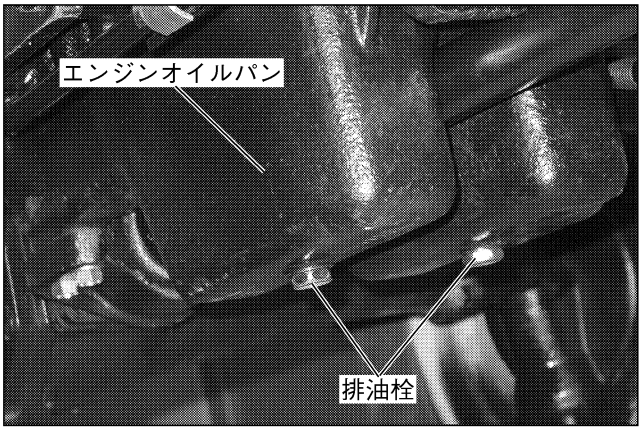
レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜出し，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」と「**下限**」の間（規定量）にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口よりオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで入れます。さらに，油もれのないことも調べます。

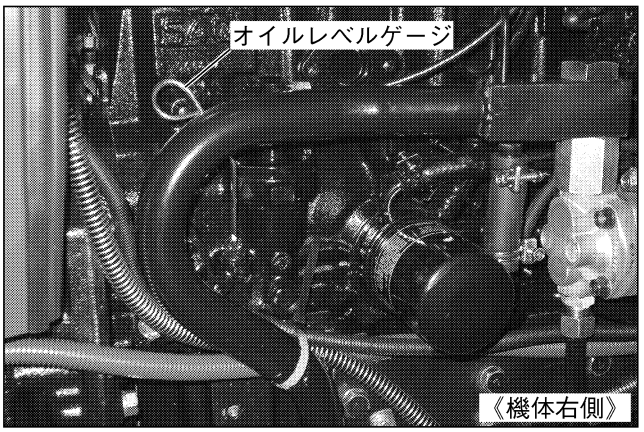
❷ エンジンオイルの交換

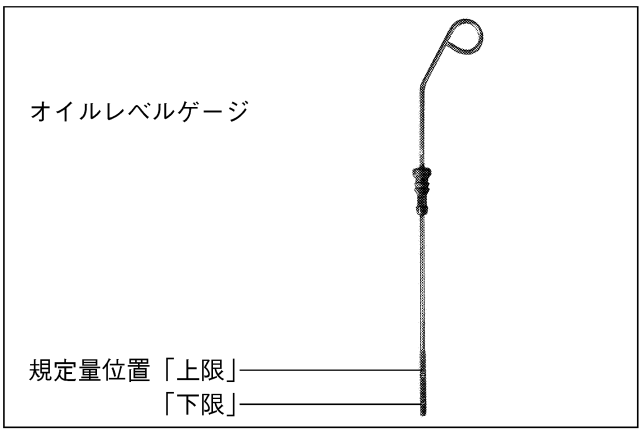
⑴ オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓（２個所）を外し，オイルを抜きます。

⑵ 排油栓を締め新しいエンジンオイルを，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。









4．エンジンオイルフィルタの交換

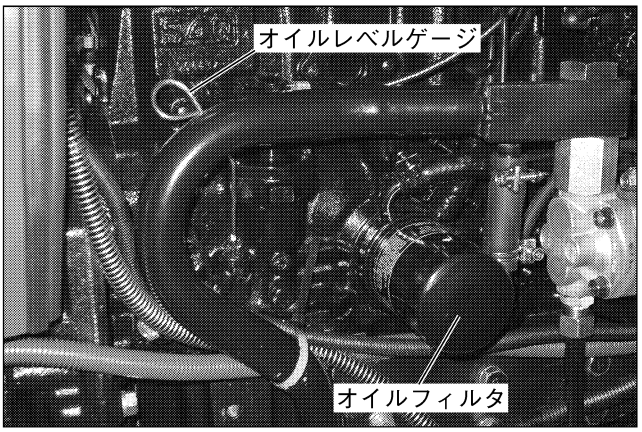
エンジンオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，ご購入のうえ交換します。

・第１回目……50時間運転後に交換

・第２回目より…100時間運転ごとに交換

❶ エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して，外します。

❷ エンジンオイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときはオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **エンジンオイルフィルタを取付けるときは，パッキン面にオイルを塗り，エンジンオイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。**

5－1．燃料の補給

⚠警告 火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。

◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし，もれている場合は交換してください。

❶ 燃料タンクの残量を確認し，「**こし網をとおして**」燃料（ディーゼル軽油JIS２号または３号・特３号軽油）を補給します。



取扱いのポイント

- **軽油は，気温に合わせて，JIS２号，３号，特３号軽油を使用してください。**

－10℃まではJIS２号

－10℃～－20℃まではJIS３号

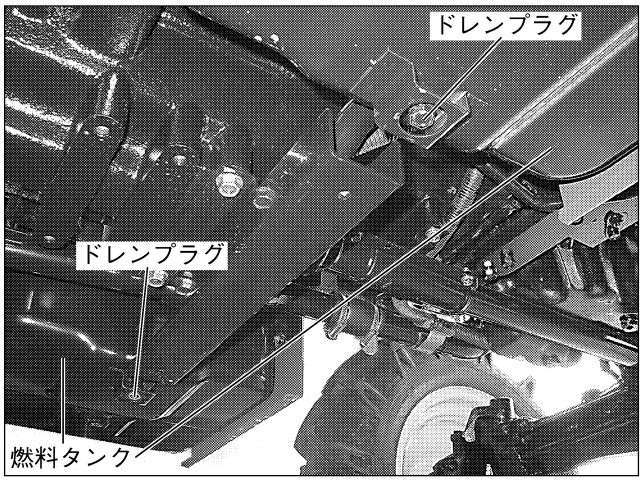
－20℃以下はJIS特３号

5−2．燃料タンクの掃除

次の場合はドレンプラグを外してタンク内の掃除を行ってください。

❶ 300時間運転時又は2年毎

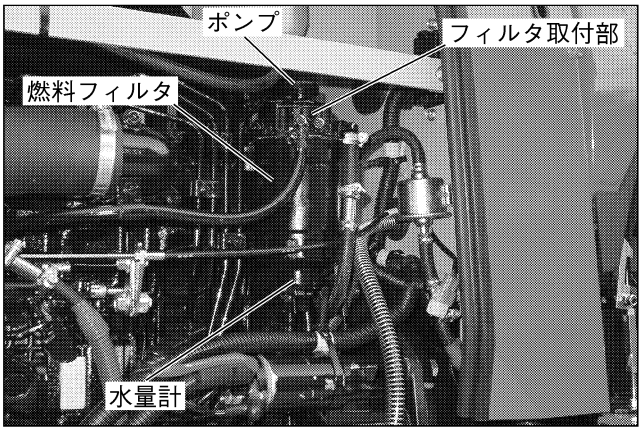
❷ 水，ゴミ等がタンク内に混入した場合。



取扱いのポイント

- **ドレンプラグを外す前に，給油口よりポンプで燃料を抜き取ってください。**
- **ドレンプラグを外すと，抜き残りの燃料が落下しますので，左右のドレンプラグの下に燃料受けを置いてから外してください。**
- **燃料タンクの掃除が終わったら確実にドレンプラグを締付けてください。又燃料漏れがないか点検してください。**

6．燃料フィルタの交換と水抜き



❶ 交換

(1) 水量計のコネクタを外します。

(2) 燃料フィルタをパイプレンチ等で回して，取外します。

(3) 取外した燃料フィルタに水量計が付いていますので，この水量計を取外します。

(4) 新品の燃料フィルタに，水量計を取付けます。

(5) 燃料フィルタをフィルタ取付部に取付けます。

(6) 水量計のコネクタを取付けます。

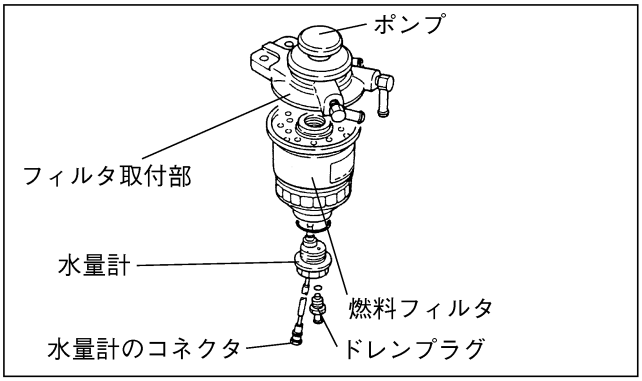
(7) **7．エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。

❷ 水抜き

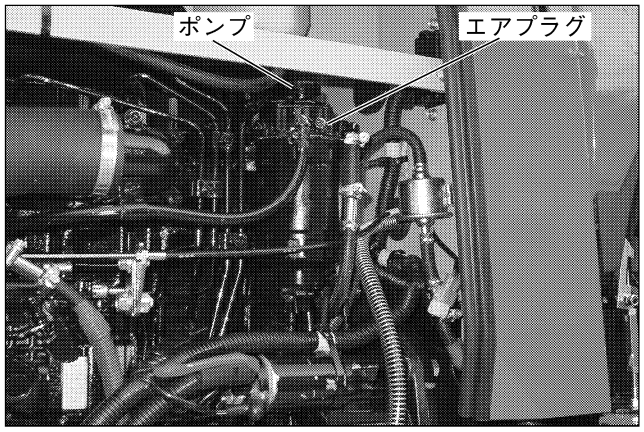
※燃料フィルタ内に一定量水が溜まった場合，水量計が作動し，メータパネルの「**燃料フィルタランプ**」が点灯します。

(1) 「**燃料フィルタランプ**」が点灯したらドレンプラグを緩めてポンプを10回程度押して，中に溜まった水を排出します。

(2) ドレンプラグを締め付け，**7．エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。



7．エア抜き要領

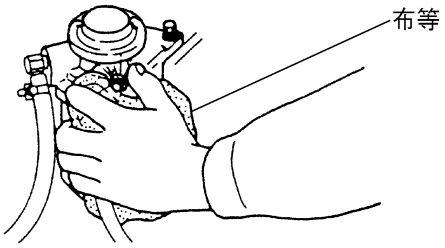


❶　燃料が空のときは5L以上給油します。

❷　左のサイドカバーを外します。

❸　スタータスイッチ（キー）を《 入》にして燃料ポンプを作動させます。

❹　燃料フィルタ上部のエアプラグを緩め，エアプラグに布等をかぶせます。エアプラグの取付部から気泡が出ますので，気泡が出なくなるまでキーを《 入》状態にしておきます。



❺　気泡が出なくなったらエアプラグを締付けます。

❻　エアプラグを締付けた後，10秒程度経過してからキーを《 切》にします。このとき，燃料ホースの接ぎ部から燃料等が漏れていないか点検します。

❼　以上でエア抜きは完了ですのでエンジンを始動します。

❽　始動しないときは，❸～❻項を繰り返します。

❾　左のサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- トラクタの燃料切れが発生した際，燃料タンクに燃料を満たし，エア抜きをせずにエンジン始動をすると，少量の空気混入ならエンジンを始動することができます。しかし，燃料ライン内の空気混入はエンジンに負荷をかけた際，馬力不足や，エンジン停止という症状を発生させますのでエア抜きを行なってください。

8．冷却水の保守管理

⚠警告　ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。エンジンが冷えてからゆっくり開けてください。

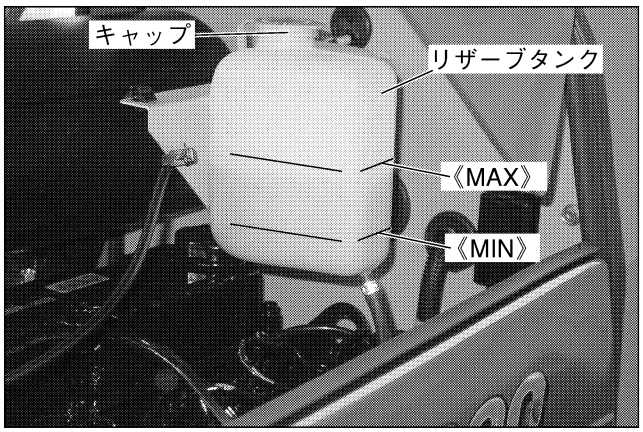
ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

❶ 冷却水の点検

(1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い冷却水が不足しているときは補給します。

(2) サイドカバー左を開いてリザーブタンク内の冷却水が《ＭＡＸ》（上限），《ＭＩＮ》（下限）の間にあることを確認します。

(3) 冷却水が不足しているときはリザーブタンクに補給します。



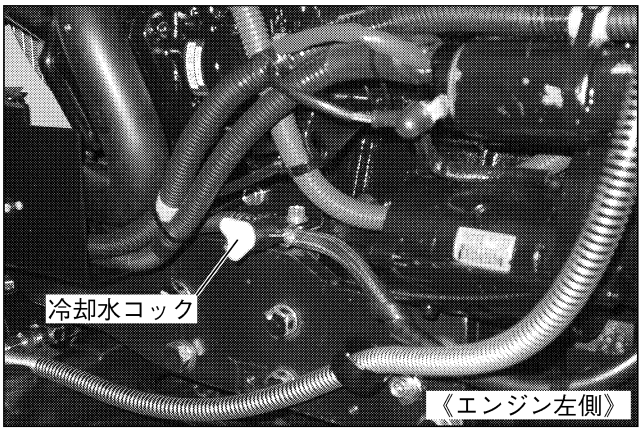
❷ 冷却水の交換

(1) ボンネットを開きラジエータキャップを外します。



(2) サイドカバー左を外し，エンジン冷却水コックをゆるめ，冷却水を排水します。

リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



(3) 冷却水コックを閉じてから水道水を入れ，エンジンを始動し，ハイアイドルで約15分間運転し，排水します。

排水した水が濁っているときは透明になるまで水洗いをくり返します。

・市販のラジエータ洗浄剤を使用すれば効果的に洗浄できます。

(4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。

(5) リザーブタンクの《ＭＡＸ》(上限) まで冷却水を入れます。

・冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸い込まれ，リザーブタンクの水量が減りますのでリザーブタンクの《ＭＡＸ》(上限) まで冷却水を補給します。

・エンジン，ラジエータ内部の腐食を防ぐため，冷却水は防錆剤，潤滑剤の入った不凍液「**ロングライフクーラント**」を使用します。

❸ 不凍液の注入要領

(1) 工場出荷のときは不凍液「**ロングライフクーラント**」が注入され「**外気温度－25℃**」まで効力がありますが，納入後１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

不凍液濃度基準表

外気温度	℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度	%	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

(2) 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。

(3) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

取扱いのポイント

- **冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。**
- **冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液「ロングライフクーラント」を混合してご使用ください。**
- **ラジエータ洗浄剤を使用する際には洗浄剤の取扱説明書を熟読のうえ使用してください。**
- **２年使用ごとに，冷却水の交換と，ラジエータ内部の洗浄を行ないます。**

９．ミッションオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ミッションオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶ 点検

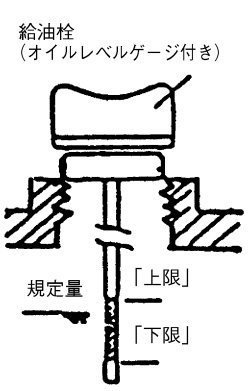
・給油栓を外し，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」から「**下限**」の間（規定量）までであれば適量です。

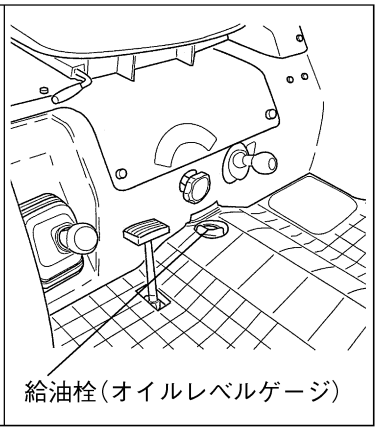
・エンジンを始動しているときは，オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して，５分以上たってから行います。

・エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

❷ 補給

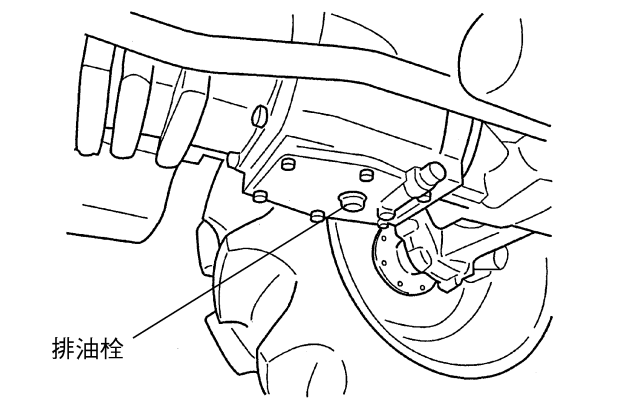
・不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。





❸ オイルの交換

(1) ミッションハウジング中央下部の排油栓を外しオイルを抜きます。



(2) 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**

10. 油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので，お買いあげのうえ交換します。

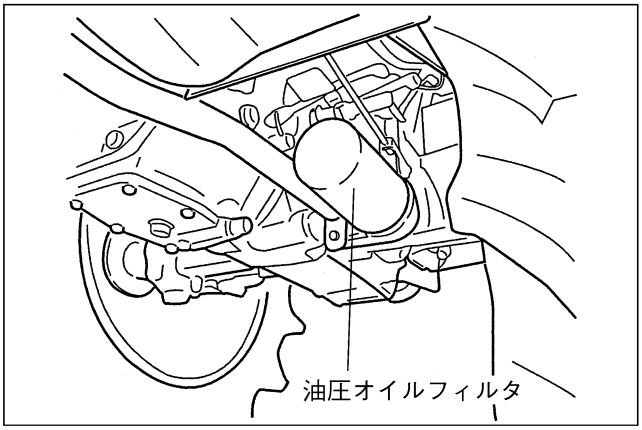
・初回……100時間運転後に交換。

・第2回目より……300時間運転ごとに交換。

❶ ステップ左下の油圧オイルフィルタの回りの土などを取除きます。

❷ 油圧オイルフィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して，外します。

❸ 油圧オイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るので，5分間運転してエンジン停止し5分以上たってからオイルレベルゲージで確認し不足している場合は，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **油圧オイルフィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り，油圧オイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。**

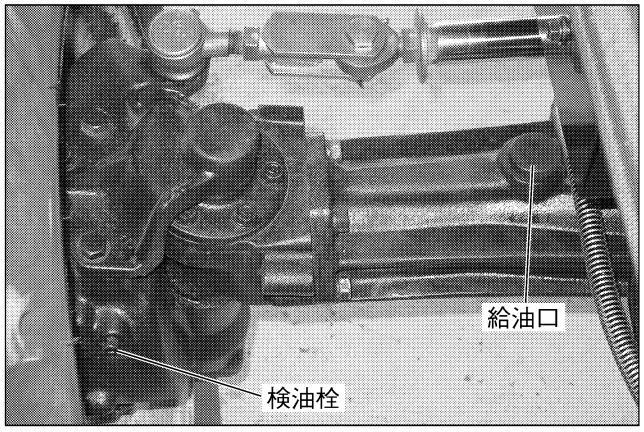
11．フロントアクスルオイルの点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆フロントアクスルオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶　点検・補給

検油栓を外しオイルが出れば適量です。不足している場合は検油穴からオイルが出るまで給油口より補給します。

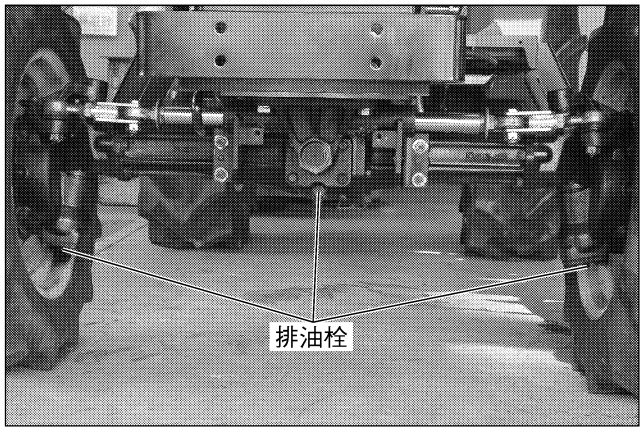


❷　オイルの交換

⑴　排油栓（3個所）を外し，オイルを抜きます。

⑵　排油栓を締め，新しいギヤオイルを給油口（左）より規定量給油します。

⑶　左右の検油栓を取外し，オイルが出たら栓を締めます。



取扱いのポイント

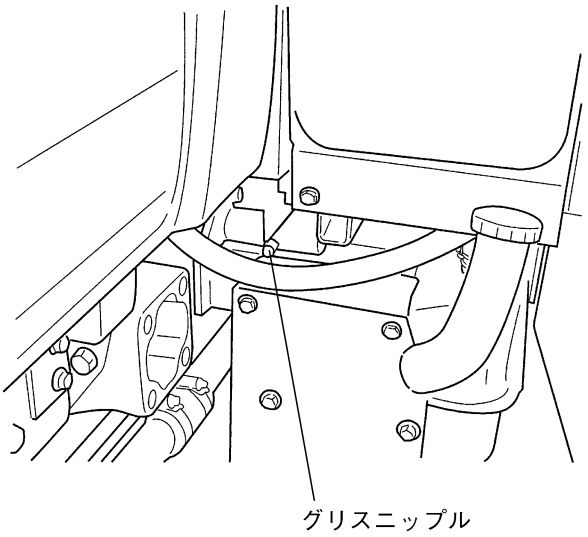
● オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。

12．各部の給脂

❶　ブレーキリンク（左，右）

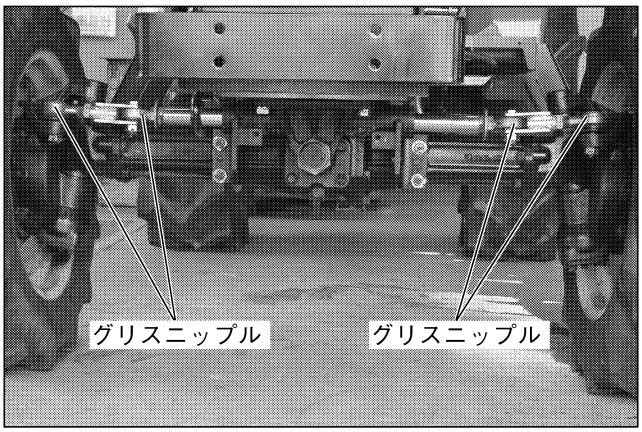
・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。

☆イラストはブレーキリンク左を示しています。



❷　ロッドエンド

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。（4個所）



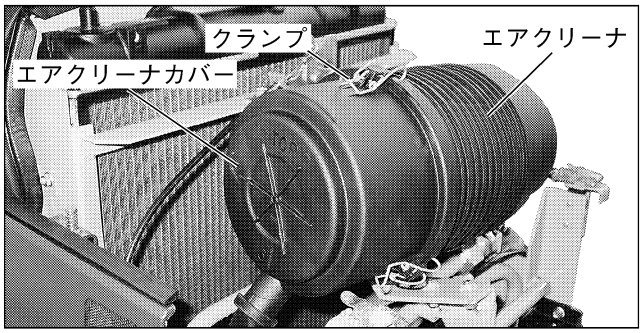
3．各部の掃除のしかた

1．エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると，エンジン内部が摩耗します。また出力が低下します。

❶ ボンネットを開き,フロントグリルを外します。

❷ クランプ（3個所）を外し，エアクリーナのカバーを取外します。



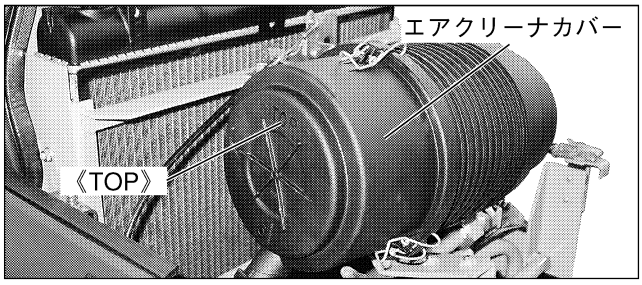
❸ エレメントを取出します。



❹ エレメント・エアクリーナボデーの内部を掃除します。

取扱いのポイント

- **コンプレッサで吹きつける場合は,空気圧「686kPa {7 kgf／㎠} 以下」で行なってください。**
- **エレメントは1年間使用後に交換が必要です。**
- **エアクリーナのカバーは「TOP」が写真の位置になる様に固定してください。**



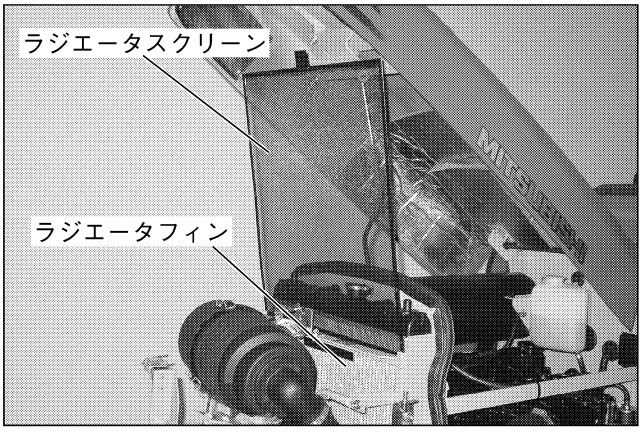
2．ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除をするときは，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

❶ ボンネットを開きます。

❷ ラジエータスクリーンを持ち上げます。



❸ ラジエータスクリーンの「**ゴミ・ワラ**」等を取除きます。

❹ ラジエータフィンの目詰まりを点検し,詰まっている場合は，まずラジエータ前面の手で取れる大きな「**ゴミ・ワラ**」等を取除き，エアをエンジンファン側より吹きつけ「**ホコリ・ゴミ**」等を取除きます。

4．各部の点検と調整のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

・各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

1．ファンベルトの点検・調整

❶　点検

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が「10～13㎜」となっていますか。

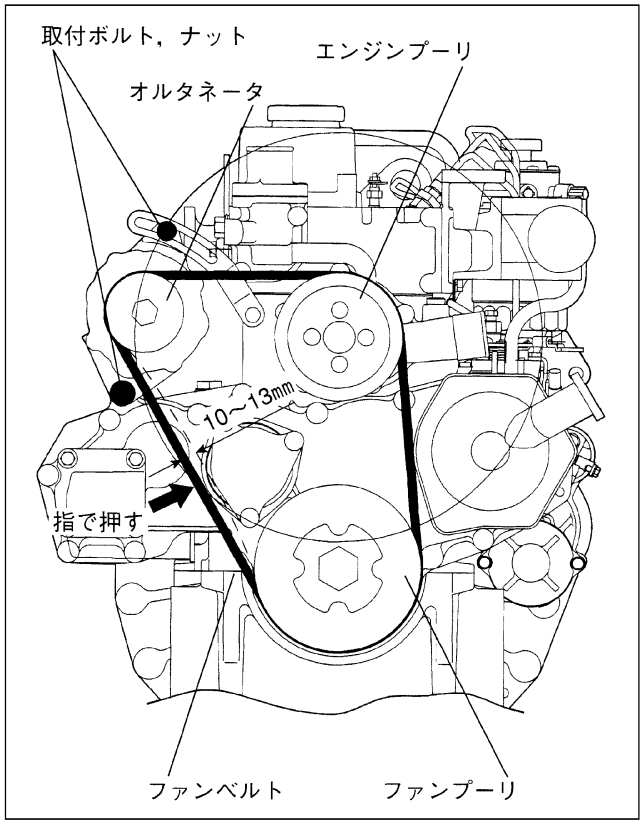
❷　調整

⑴　オルタネータ取付ボルト,ナットをゆるめます。

1）オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。

2）オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。

⑵　調整後は取付ボルトを確実に締付けます。



● 損傷がある場合，張り調整代がなくなった場合は交換します。

2．クラッチペダルの点検・調整

⚠警告　傷害事故防止のために

◆クラッチペダルの遊び調整後，クラッチペダルを踏込んで，クラッチが確実に切れることを確認してください。

❶　点検

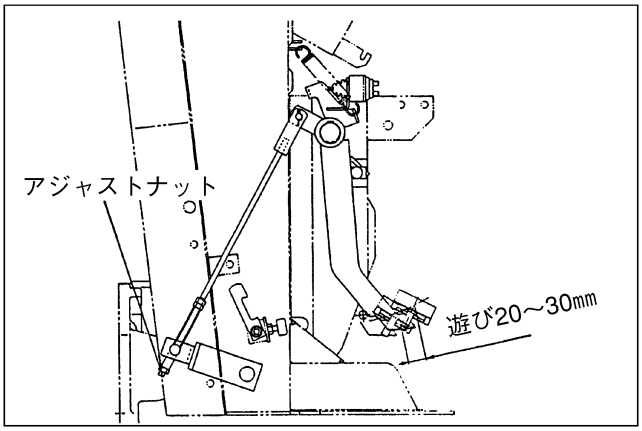
クラッチペダルの遊び量が「20～30㎜」となっていますか。

❷　調整

アジャストナットを回して調整します。

⑴　ねじ込む…遊びが少なくなります。
（右回転）

⑵　ねじ戻す…遊びが多くなります。
（左回転）



3．トーインの点検・調整

⚠注意

◆トーインの調整が悪いと走行が不安定になることがあります。

・トーインは車の走行安定性を左右する重要な役目を持っています。走行中にハンドルが取られやすくなったときはトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。
・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

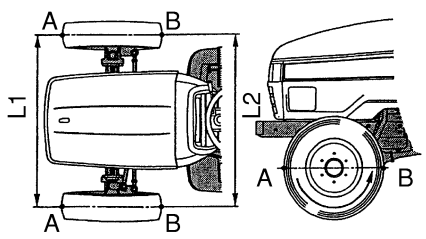
❶ 点検

(1) トーインがタイヤ中心で「0～10㎜」になっていますか。

トーイン＝L2－L1＝0～10㎜

(2) トーインの点検は次の方法で行います。

1）トラクタを水平な場所に置き，前輪を真っ直ぐにします。
2）左右タイヤの中心線上と同一高さのタイヤの真ん中にチョークで印をつけます。（A点）
3）左右タイヤのA点間の幅（L１）を測ります。
4）トラクタを前進させ，前輪タイヤを半回転させます。
5）A点が，半回転してB点となったときの左右タイヤのB点間の幅（L２）を測ります。
6）L２からL１を差し引いたものがトーインです。トーインが規定値であるか確認します。規定値でない場合は次の方法で調整してください。



※前輪タイヤを反回転させます。

❷ 調整

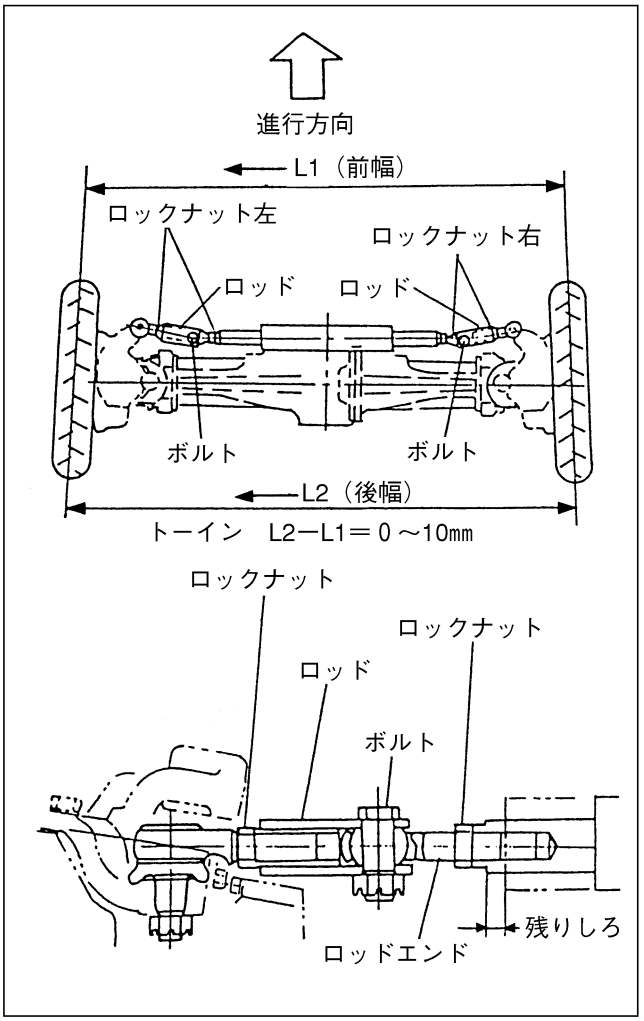
シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように，次の要領でロッドを調整します。

(1) 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。
(2) 調整する側のロッドのロックナット（２個所）をゆるめます。
(3) ロッドを回してロッドエンドをネジこめばトーインは大きくなります。

調整は１回転単位とし，ボルトの頭は必ず上方になるよう調整します。

(4) 調整後はロックナットを確実に締付けて，フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。

締付トルク　147～167N・m {15～17kgf・m}



4．ブレーキペダルの点検・調整

⚠警告 傷害事故防止のために

◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。
ブレーキの効きが悪かったり，片効きなどがあると転落，転倒事故の原因となります。

・ブレーキペダルの遊び調整

❶ 点検

左右のブレーキペダルの遊び量が各々「**20～30㎜**」になっていますか。

❷ 調整

(1) ロックナットをゆるめます。

(2) ジョイントを回して調整します。
ねじ込む…遊びが少なくなります。
ねじ戻す…遊びが多くなります。

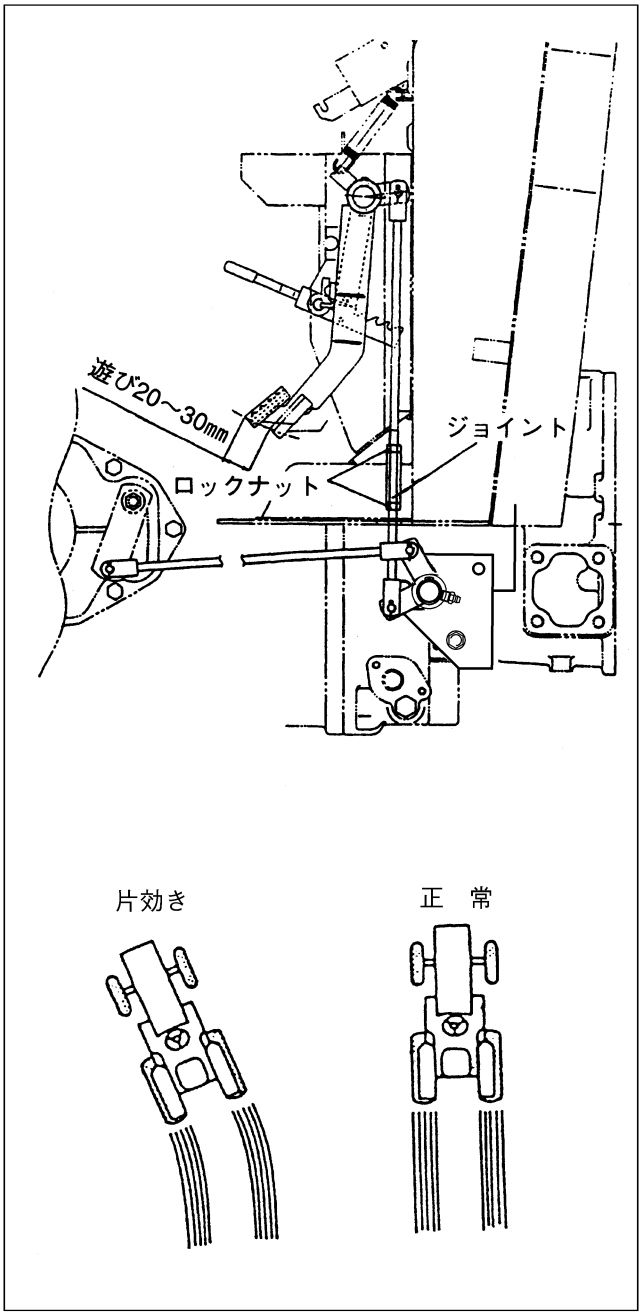
(3) ロックナットを締付けます。
締付トルク……20.6～29.4N･m {2.1～3.0kgf･m}

❸ 確認

左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。

(1) 効　き…片輪制動その場旋回をしてみてブレーキの効きを確かめます。(左右)

(2) 片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し，普通走行で走り，両方のブレーキペダルを一緒に踏んで，タイヤスリップ跡により片効きの有為を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが，曲がって止まる場合は再調整します。





5．タイヤの点検

⚠警告 死傷事故防止のために

◆タイヤの空気は入れすぎないでください。空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，タイヤが破裂するおそれがありますので，使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。

❶ 点検

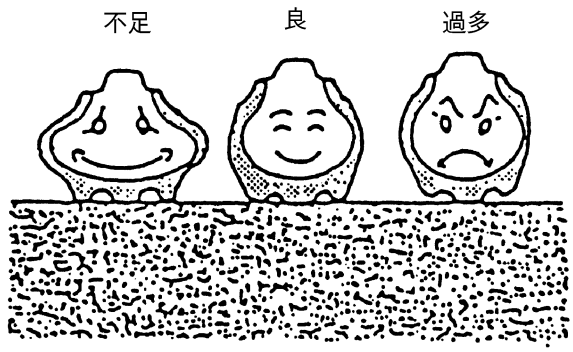
(1) タイヤにキレツ等損傷がないか点検します。パンク等損傷のひどい場合は，タイヤを交換します。

(2) タイヤの空気圧を作業前に点検します。

空気圧が［前輪147kPa {1.5kgf／cm²}　後輪 98kPa {1.0kgf／cm²}］になるようにします。（［ ］内は標準空気圧です。）

❷ 調整

標準空気圧になるよう調整します。



取扱いのポイント

● フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を245kPa {2.5kgf／cm²} にしてください。

6．ハンドルの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルに著しいガタや遊びがないか点検してください。著しいガタや遊びがあると思わぬ事故になることがあります。

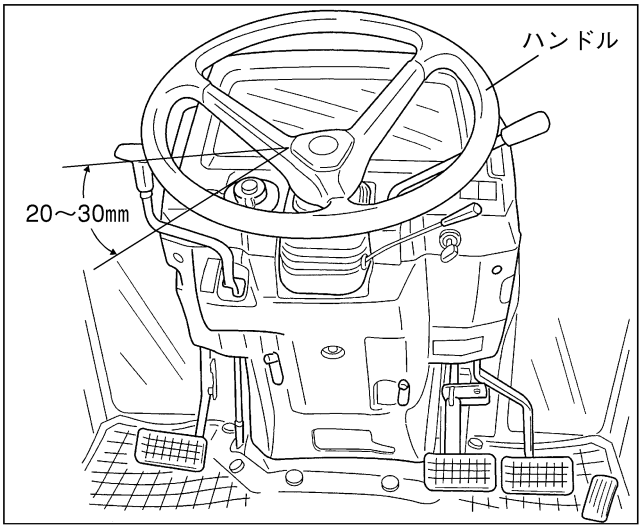
❶ 点検

ハンドルの遊び量が適正でないと，ハンドルが重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点検します。

エンジンを始動させ，ハンドルを軽く左右に動かして遊び量がハンドルの外側で20～30㎜であれば適正です。

❷ 遊び量が適正値でない場合

遊び量が適正でない場合はただちに**「お買いあげ先」**で点検を受けます。



7．ホース類の点検

⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し，もれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

◆パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや，油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起こす原因になります。

❶ 点検

⑴ 燃料ホース，ラジエータホース，パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

⑵ 燃料もれ，水もれ，油もれがある場合ただちに「**お買いあげ先**」で点検を受けます。

取扱いのポイント

- **燃料ホース，パワーステアリングホースは定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，エア抜きをしてください。**

❷ パワーステアリングホースを交換したら

⑴ パワーステアリングホースを交換したときは，左右一杯にハンドルを切って，油圧回路中のエア抜きをしてください。

8．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火災防止のために

◆電気配線の点検時には，キーを《 STOP 切》にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆ワイヤハーネスおよびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線まわりのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

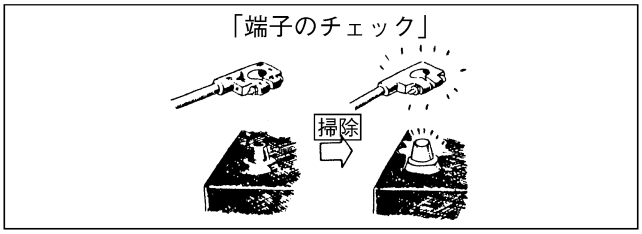
⑴ 配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」等をすることがあります。

⑵ 傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



取扱いのポイント

- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。**
  エンジン始動不良の原因となります。

9．バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は69ページの❹(1)を参照してください。

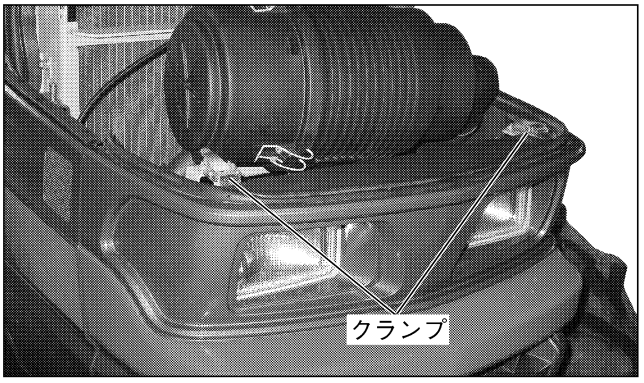
指定バッテリ……95D31R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

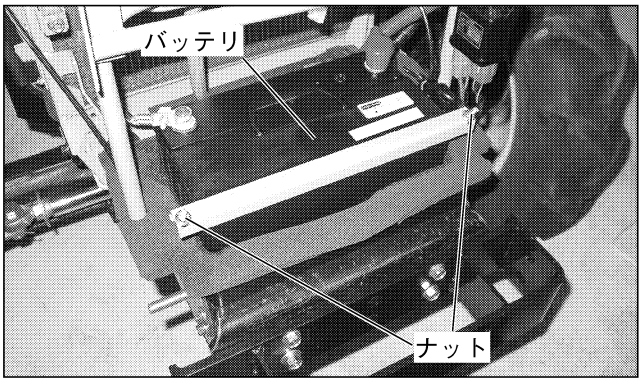
◆バッテリを「着脱」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。
◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆⊕端子が機械に，接触しないようにしてください。
◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。
◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
◆⊖端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電してください。
◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。失明やヤケドをすることがあります。
◆バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気で引火爆発のおそれがあります。
◆ブースターケーブルを使用するときは接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースターケーブルは，100Ah以上の仕様のものを使用してください。
◆このバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

❶ 点検

(1) ボンネットを開きます。
(2) グリルの上にあるクランプ（2個所）を外します。



(3) 前照灯のカプラを1個所外します。
(4) フロントグリルを上方に引上げて取外します。
(5) ナット2個を緩めて，バッテリカバーを取外し，バッテリの残存容量を確認します。



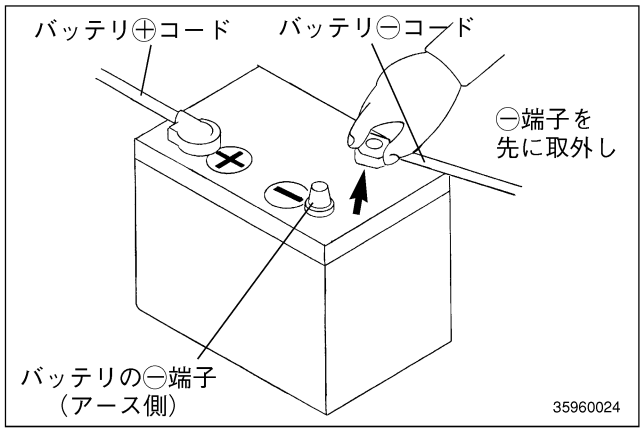
❷ バッテリ取付金具の点検

(1) バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。
(2) 取付金具でしっかり固定します。
(3) 取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

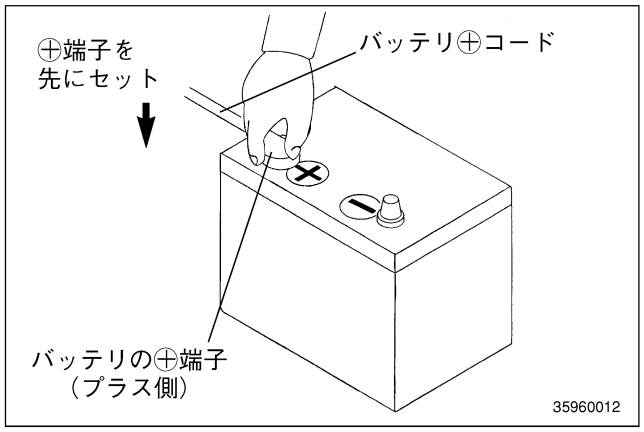
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子をセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。

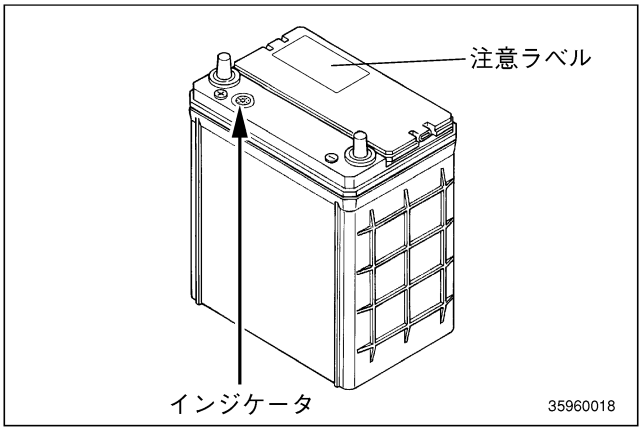


(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

❹ バッテリの状態点検と，異常時の処理（補水不要バッテリ）

(1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



取扱いのポイント

- **インジケータは真上から確認してください。**

(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

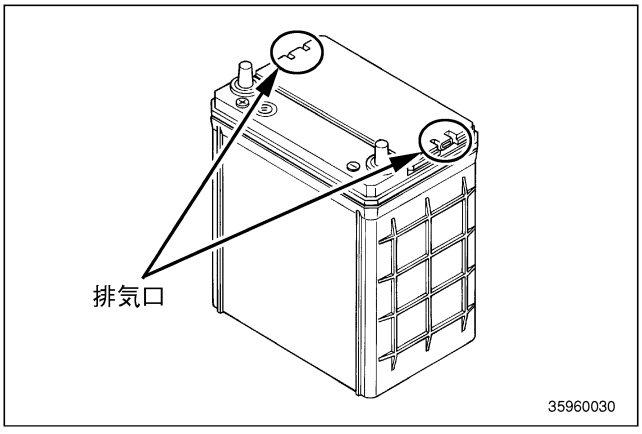
取扱いのポイント

- **液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。**

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- **排気口をふさぐと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリ内圧が上がり，破損する原因になります。**



❺ 補充電・交換

⚠危険

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…㊀端子側（アース側）から外す。
・取付け…㊀端子側（アース側）を最後に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。㊉と㊀が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により失明やヤケドの原因となることがあります。

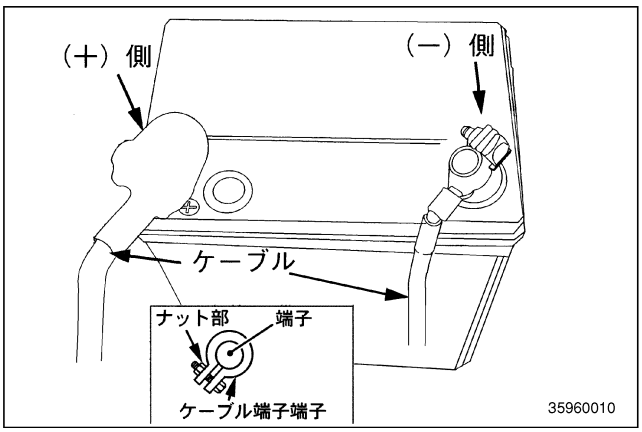
次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。

(1) ナットをゆるめてフックを外します。

(2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず㊀側から取外してください。



取扱いのポイント

●バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因をなります。

2．補充電を行なうときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの㊉を充電器の㊉側に，バッテリの㊀を充電器の㊀側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行なってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- **バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**
  バッテリ形式：95D31R
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。**

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

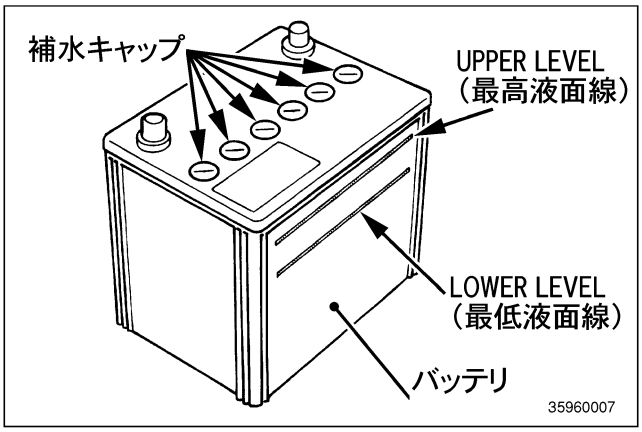
❻ 点検・補水

⚠危険

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。
◆バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときはただちに医師の診断を受けてください。
◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．バッテリ液の量を点検し，「**UPPER LEVEL**」（**最高液面線**）と「**LOWER LEVEL**」（**最低液面線**）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補給します。



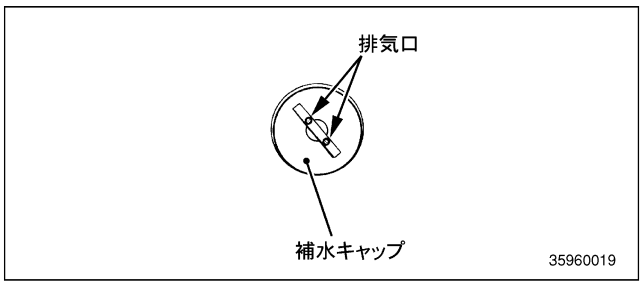
取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**

2．補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

●排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



❼ 補充電

⚠危険

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行なうときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップ全て取外した状態で行ないます。

また，充電は，バッテリの㊉を充電器の㊉側に，バッテリの㊀を充電器の㊀側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

取扱いのポイント

●急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

2．補充電が終わると補水キャップを全て取付けてください。

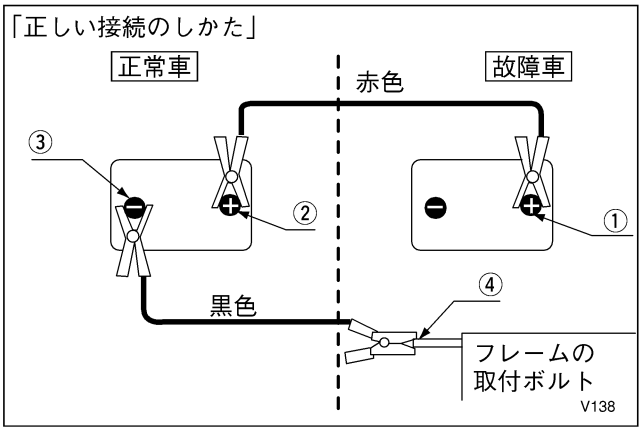
❽ ブースタケーブルによるエンジン始動

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行ないます。

「ブースタケーブルの接続のしかた」

(1) 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

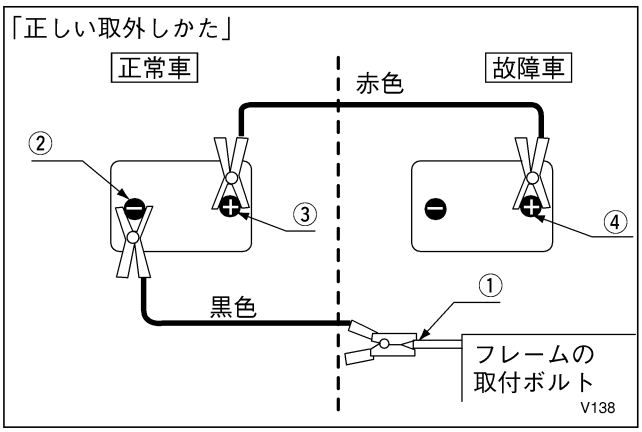


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから、放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行ないます。



長期格納のしかた

1．機械の掃除・洗浄・格納

トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

❶ 金属露出部，ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。

❷ 油もれ個所，各部の油量を点検し約５分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせます。

❸ 不凍液の濃度を調整します。

❹ タイヤの老化を防止するために空気圧を高めに入れてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かないようにします。

❺ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

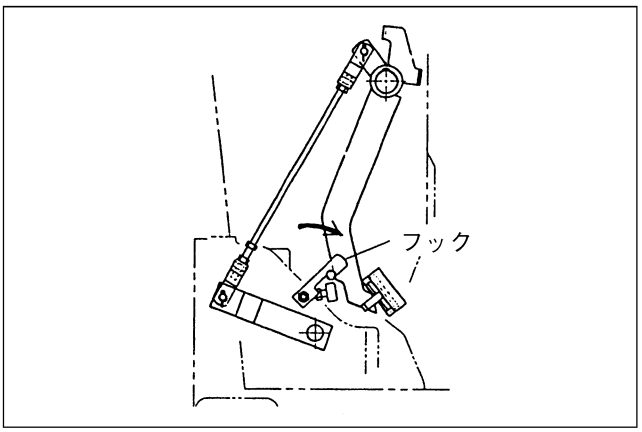
⚠警告 火災防止のために

◆機械にシートカバーを掛けるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

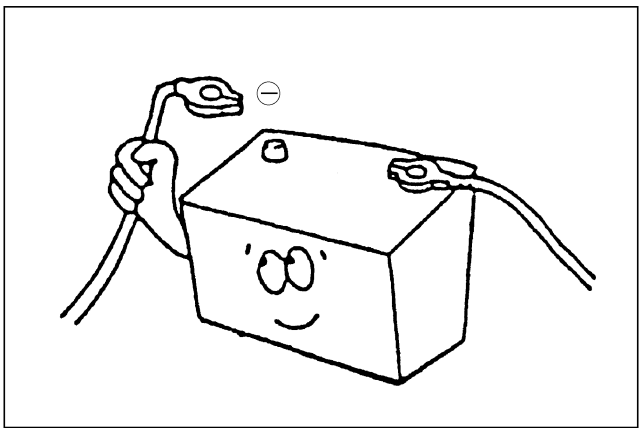
❻ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「**熱い状態**」ではシートカバーをかけないようにします

❼ ウエイト類を取外します。

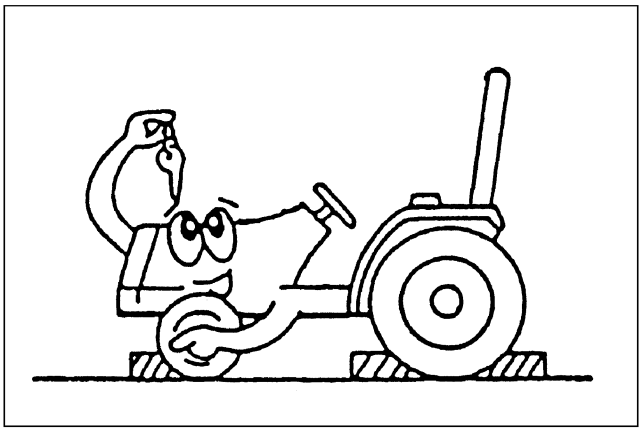
❽ クラッチこう着防止のため，クラッチペダルを踏込み，フックをかけてクラッチ「**切**」の状態にします。



❾ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを車体から取外し，風通しの良い屋内に保管します。また機体に取付けたまま保管するときはバッテリのコードのアース側㊀端子を外しておきます。



❿ 保管中，不意にトラクタが動き出すのを防ぐため，タイヤに歯止めをし，キーを抜取っておきます。



取扱いのポイント

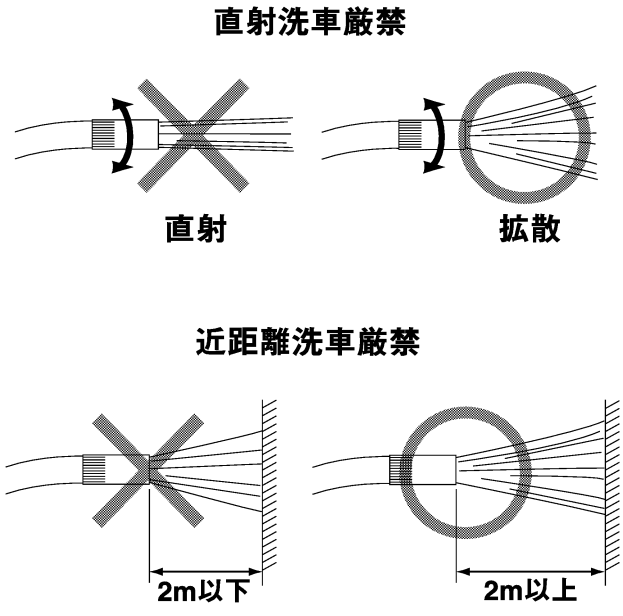
- 錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。
- 高圧洗車機にて洗浄する場合には，メータパネルおよび電装品に直接水をかけないでください。
- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。
- 洗車時の注意
  高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械の破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散し，２m以上反離して洗車してください。もし，直射したり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷･断線により,火災を引き起こすことがあります。
2．油圧ホース破損により，高圧の油が噴出して損傷を負うおそれがあります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例）
（1）シール・ラベルの剥がれ
（2）電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への侵入による故障
（3）タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
（4）塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



2．格納中の手入れ

❶ １ケ月に１度，防錆，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間運転します。

❷ 金属露出部，ネジ部を点検し，防錆処置をします。

❸ 油もれ，水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に保管準備で処置した項目を点検し復元してください。**

3．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ 保管準備で処置した項目を点検し，復元します。

❷ 運転前の点検を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備は，機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりを点検・整備するときは，エンジンが冷えてから行なってください。

1．エンジン部

1．始動しない，または始動困難

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶キーを回しても，スタータが回らない	○クラッチペダルの踏込み不足	・ペダルをいっぱい踏込みます	ー
	○バッテリの放電	・バッテリを充電又は交換します	68～72
	○バッテリ端子の外れ，ゆるみ，腐食	・端子部を掃除して確実に締付け，グリスを塗布し防錆しておく	68～72
	○ヒューズ（K）の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	21～23
❷スタータは回るが，エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない。	・補給する	ー
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	56
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	57
	○ヒューズ（C）の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	21～23

2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶エンジン回転が不規則	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	57
	○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	56
	○パイプ系の燃料もれ	・クランプの締付け，パイプ交換をする	―
	○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり	・サービス工場で修理する	―
❷エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等が詰まっている	・サービス工場で修理する	―
❸運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足	・燃料補給とエア抜きを行う	55，56
	○ヒューズ（K）の溶断	・「**お買いあげ先**」で点検を受ける	21～23
	○ヒューズ（C）の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	21～23
	○ノズル不良	・サービス工場に依頼し交換をする	―
	○オイル不足によるエンジン焼付き	・サービス工場に依頼する	―
❹エンジンが過熱する	○ラジエータの目詰まり	・ラジエータスクリーンを掃除する	62
	○冷却水の不足	・冷却水を補給する	58～59
	○ファンベルトのゆるみ，破損	・ベルトの張り調整または交換をする	63
	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	54
❺エンジンの排気色が白い（除く始動直後）	○エンジンオイル量が多すぎる	・点検し適正量にする	54
❻エンジンの排気色が黒すぎる	○エアクリーナが詰まっている	・エレメントの掃除をする	62
	○燃料が悪い	・正規の燃料に入替える	55
❼エンジンの出力不良	○エアクリーナの詰まり	・エレメントを掃除する	62
	○燃料不足，燃料フィルタの詰まり	・燃料系統をチェックする	56，57
❽運転中オイルランプが点灯する	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	54
	○エンジンオイルの粘度が低い	・適正粘度のオイル交換する	54
	○エンジンオイルフィルタの目詰まり	・オイルフィルタを交換する	54
❾運転中にチャージランプが点灯する	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	63

2．走行・運転操作部

1．走らない，ブレーキがきかない

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶クラッチがすべる	○ペダルの調整不良	・ペダルの遊びを調整する	63
	○クラッチライニングの摩耗・焼付き	・サービス工場でクラッチを交換する	―
❷クラッチが切れない	○ペダルの調整不良	・ペダルの遊びを調整する	63
	○クラッチライニングのこう着	・サービス工場で修理する	―
❸ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる	・ペダルの遊びを調整する	65
	○ブレーキライニング摩耗・焼付き	・サービス工場でブレーキディスクを交換する	―
	○左右の踏込み量が異なる	・踏込み量を左右同じにする	65
❹ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷	・スプリングを交換する	―
	○各摺動部のグリス切れ	・グリスアップをする	61

2．パワーステアリング

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶ハンドルが空転する	○油量不足（ミッションオイル）	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する	59～60
	○配管の損傷，油もれ	・増締め，又は交換する	―
	○ポンプの故障	・サービス工場で修理する	―
❷ハンドルが重い　ハンドルが取られる	○タイヤ空気圧の不揃い	・左右共に規定空気圧にする	66
	○ロッドエンドの遊び発生	・サービス工場で交換する	―
	○使用オイルの粘性大	・オイル交換または暖機運転を十分に行う	―
	○トーイン不良	・修正をする	64
❸前輪のふらつき（ハンドルの遊びが多い）	○各締付部のゆるみ発生	・「**お買いあげ先**」で点検を受ける	―
	○ロッドエンドの遊び発生	・サービス工場で交換する	―
	○トーイン不良	・修正をする	64
	○油圧シリンダにエア混入	・油量（ミッションオイル）を点検しエア抜きをする	―
❹油圧回路系の異常音	○油量不足（ミッションオイル）	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する	59～60
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	―
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換	60
		・パイプのつぶれ等は修理	―

3．油圧部

1．油圧関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶油圧回路の異常音	○油量不足（ミッションオイル） ○暖機運転不足 ○油圧オイルフィルタの詰まり	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する ・暖機運転を十分に行う ・油圧オイルフィルタの交換をする ・パイプのつぶれ等は修理する	59～60 － 60 －
❷リフトアームが上がらない	○油量不足（ミッションオイル） ○油圧オイルフィルタの詰まり ○ギヤポンプの故障 ○コントロールバルブの故障	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する ・交換する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する	59～60 － － －
❸配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ ○パイプの亀裂	・増締めを行う ・サービス工場で交換する	－ －
❹リフトアームが下がらない	○作業機降下速度調節レバーが《固定》位置になっている ○コントロールバルブの故障	・《速い》の方向に操作する ・サービス工場で修理する	25 －

4．電気・自動制御部

1．電気関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶電装品各部が作動しない	○ヒューズの溶断	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	21～23
❷ランプ，インジケータが点灯，点滅しない	○電球（バルブ）切れ	・各電球を交換する	81

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付　　表

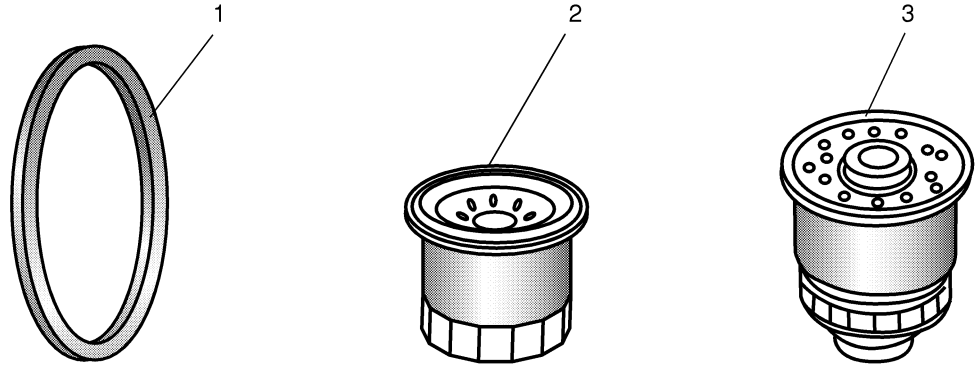
1．主要諸元

名称			三菱G5000Z
型式名			三菱GX50
車輌型式名			三菱SB－GX50
駆動方式			4輪駆動
機体寸法	全長（ロワリンク先端）(mm)		3500
	全幅(mm)		1510
	全高（ハンドル上端）(mm)		2375（1595）
	最低地上高(mm)		365
機体質量(kg)			1720
エンジン	形式名		三菱Ｓ４Ｑ２
	種類		水冷4サイクル4気筒ディーゼル
	総排気量（L{cc}）		2.505 {2505}
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		36.8{50}／2800
	使用燃料		ディーゼル軽油
	燃料タンク容量（L）		55
	バッテリ（V･Ah）		95D31R（12・64）
走行部	タイヤ	前輪	8－18－4PR
		後輪	12.4－28－4PR
	軸距(mm)		1970
	輪距	前輪(mm)	1220
		後輪(mm)	1150～1645（6段）
	クラッチ形式		乾式単板
	ブレーキ形式		ディスク式（湿式）
	かじ取方式		パワーステアリング（全油圧式）
	変速方式		同期かみ合式
	変速段数		前進16段，後進16段
	走行速度（）エンジン最高回転速度	前進(km/h)	0.2～27.1（29.6）
		後進(km/h)	0.2～22.7（24.7）
	最小旋回半径(m)		2.8
PTO	回転速度(rpm)	正転	579／881／1098
	軸径(mm)		35（6スプライン）
作業機昇降装置		制御方式	ポジションコントロール
		装着方式	3点リンク1形
運転免許			大型特殊免許

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

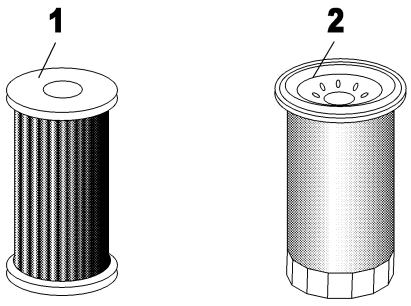
2．主な消耗部品

1．エンジン関係



見出番号	部　品　番　号	部　品　名　称	台当個数	型　寸	備　　考
1	05910－10041	ファンベルト	1	A L=1015	
2	MD162－326	フィルタアセンブリ	1		
3	34462－21040	エレメントキット	1		

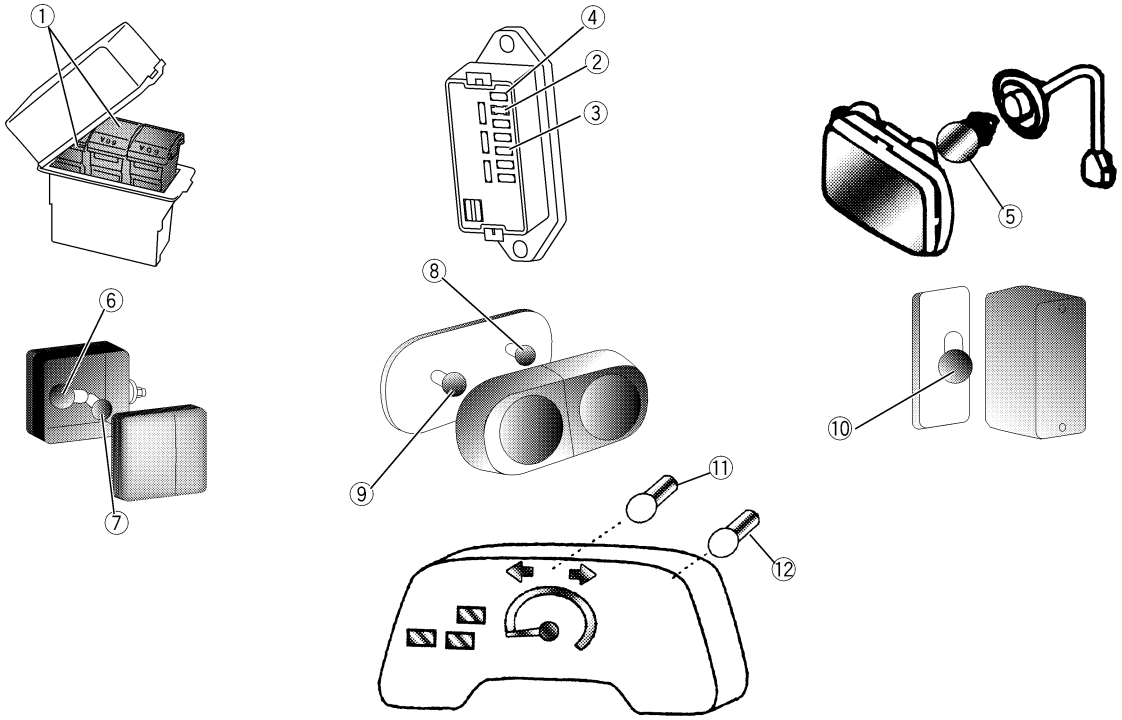
2．エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部　品　番　号	部　品　名　称	台当個数	型　　寸	備　　考
1	3544　0521　200	エレメント	1		
2	1031　2518　000	油圧フィルタ	1		

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 電装関係



見出番号	部　品　番　号	部　品　名　称	台当個数	定格	備　　考
1	1037 5502 200	大容量ヒューズ	2	60A	
2	0980 1001 006	ヒューズ	3	10A	
3	0980 1001 506	ヒューズ	3	15A	
4	0980 1002 006	ヒューズ	1	20A	
5	0980 8123 509	前照灯	2	12V35/35W	
6	0980 8122 104	方向指示灯(前)	2	12V21W	
7	1786 6012 200	車幅灯(前)	2	12V 5W	
8	0980 8122 104	方向指示灯(後)	2	12V21W	
9	1956 6731 200	制動灯(後)/車幅灯(後)	2	12V21/5W	
10	0980 8122 104	後退灯	1	12V21W	
11	1040 2856 000	パネルランプ(照明用)	2	12V1.7W	
12	1040 2857 000	パネルランプ(インジケータ用)	7	12V1.4W	

3．アタッチメント一覧表

アタッチメントについてのお問い合わせは，お買い上げのＪＡ又は三菱農機㈱営業本部へお問い合わせ下さい。

4．潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイルについて

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30）
全農	クミアイディーゼルマルチオイル（SAE・10W－30）
新日本石油	ダイヤモンドHDS－3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

取扱いのポイント

●やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2．ミッション，フロントアクスルオイルについて

APIサービス分類　GL－4級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

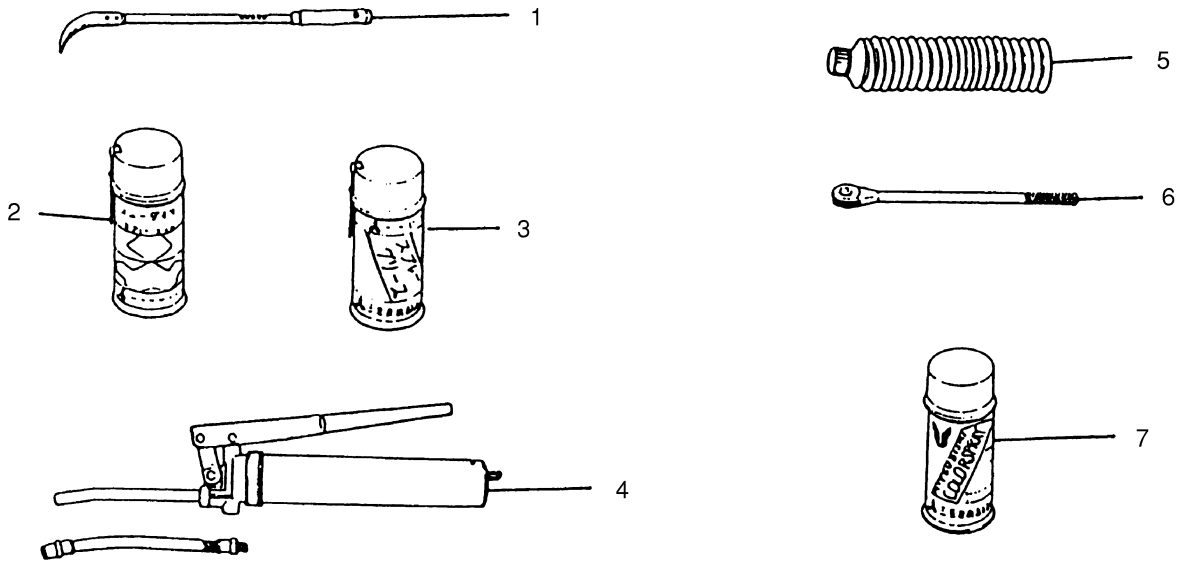
銘柄（メーカ）	オイル商品名	
三菱農機純正油	スーパーマルチGBオイル	（SAE・80W）
〃	スーパーマルチSTOUオイル	（SAE・10W－30）
新日本石油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	（SAE・80W）
	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	（SAE・10W－30）
	アントイルB	（SAE・80W）
全農	クミアイトラクタオイル	（SAE・80W）
昭和シェル石油	ギヤオイルHTS－56スーパー	（SAE・80W）

※商品名は変更することがあります。

5．トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ（17）	HT3100	爪の脱着，増締
7	カラースプレー（赤）	0975　0000　270	補修用塗料
	〃　（白）	0975　0000　160	
	〃　（グレー）	0975　0000　090	
	〃　（黒）	0975　0000　470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成16年度
農業・生物系特定産業技術研究機構



型式名：三菱 2F468

合格番号：204031

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：三菱農機株式会社
住　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名

三菱 MT508　三菱 GX50　三菱 GX46　三菱 MT468
三菱 GX40　三菱 MT408　三菱 GX37　三菱 MT368
三菱 GX34　三菱 MT338

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型式名		：	三菱 MT508
■ 種類		：	4輪駆動
■ 質量（フレーム付き）	kg	：	1915
■ 軸距	mm	：	1990
■ 機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	36.8{50}/2800

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，防振ゴム・取付金具を介して，トランスミッションケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（2点式）

3．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	122.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	156.5 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：	88.0 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	— cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	— cm
	（中部）	：	— cm
	（下部）	：	— cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	— cm
■ 最低位ステップの高さ		：	50.5 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	239.0 cm
■ フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	128.5 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	33.0 cm

1．三菱 MT508（タイヤサイズ ： 前輪 8.3-20 4PR　後輪 13.6−28 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業(株)，GOシート
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■ 主　フ　レ　ー　ム　：STKR 400, S 25 C, SS 400, SM 50 B, SPCC, SPCE, SPHC,
■ 装着ブラケット　：SS 400
■ 組立・装着ボルト　：S 45 C,　SCM 435

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，前部左側，側部左側に対して実施。

■ 基　準　質　量　：1830 kg
■ 所要吸収エネルギー　：後部負荷　2.56 kJ {261 kgf･m}
　　前部負荷　1.42 kJ {145 kgf･m}
　　側部負荷　3.20 kJ {326 kgf･m}
■ 圧　　壊　　力　：36.60 kN {3732 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■ 後　部（前 方 へ）　：右側　5.0 cm　　左側　1.5 cm
■ 側　部（右側方へ）　：14.0 cm
■ 上　部（下 方 へ）　：右側　2.5 cm　　左側　0.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差　：12.5 cm

2．騒　　音 ※

■ 87.5 dB(A)　[三菱 MT508]

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本キャブは，既合格機（合格番号 202021）であり，装着トラクター５型式（三菱 GX50，三菱 GX46，三菱 GX40，三菱 GX37，三菱 GX34）の追加にともなって受検したものである。強度試験，分解調査については，元の型式検査の試験成績を転用した。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

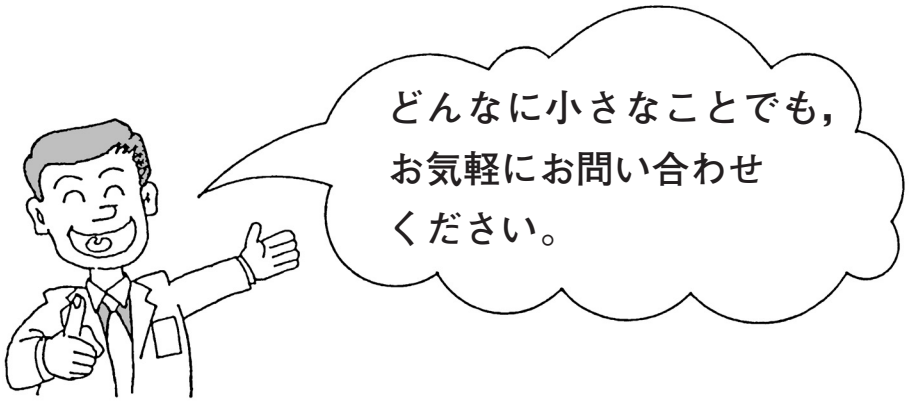
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)

三菱農機株式会社

本　　社　島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667－1
〒699-0195　☎（0852）52－2111㈹

営業本部　東京都品川区西五反田1－5－1　五反田野村證券ビル
〒141-0031　☎（03）5759－8060

No.０３０８０６－１９４３３７１１０００